

日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞
と「動詞＋動詞」型複雑述語の対照

2020 年 3 月

新潟大学大学院

現代社会文化研究科

氏 名 ZHU Qian

目次

表の一覧.....	IV
第1章 序論	1
1.1 研究目的.....	1
1.2 研究背景.....	1
1.3 研究意義.....	1
1.4 研究内容.....	2
1.5 例の示し方.....	3
1.6 略語.....	4
1.7 本論文の構成.....	4
第2章 日中語の複合動詞の概要.....	6
2.1 複合動詞とは何か.....	6
2.1.1 日本語の複合動詞の定義と分類.....	6
2.1.2 中国語の複合動詞の定義と分類.....	7
2.1.3 「動詞＋動詞」型複合動詞の定義.....	8
2.2 「動詞＋動詞」型複合動詞の分類.....	9
2.3 「動詞＋動詞」型複合動詞に関する先行研究と問題点.....	13
2.3.1 日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞に関する先行研究の概観.....	13
2.3.2 日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞に関する先行研究の概観..	15
2.3.3 先行研究の問題点.....	16
2.4 日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照.....	17
2.4.1 音韻から見た日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照.....	17
2.4.2 形態から見た日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照.....	21
2.4.3 構成原則から見た日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照..	22
2.4.4 文法から見た日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照.....	25
2.5 本章のまとめ.....	27
第3章 語彙的複合動詞と統語的複合動詞の対照.....	29
3.1 はじめに.....	29
3.2 日本語と中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞に関する先行研究の分類..	30
3.2.1 日本語の語彙的複合動詞に関する先行研究.....	30
3.2.2 日本語と中国語の統語的複合動詞に関する先行研究.....	31
3.2.3 語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違いに関する先行研究.....	33
3.2.4 先行研究の問題点.....	33
3.3 日本語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い.....	34
3.3.1 日本語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法的違い.....	34

3.3.2	日本語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の意味的違い	37
3.3.3	日本語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い	40
3.4	中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い	41
3.4.1	中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法的違い	41
3.4.2	中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の意味的違い	45
3.4.3	中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い	48
3.5	日本語と中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の対照	49
3.6	本章のまとめ	50
第4章	日中語の複雑述語の概要	52
4.1	複雑述語とは何か	52
4.2	日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語	53
4.3	日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の分類	55
4.4	複雑述語に関する先行研究と問題点	57
4.5	日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的な特徴	60
4.5.1	「動詞＋動詞」型複雑述語の内部に挿入する要素	60
4.5.2	否定文から見た「動詞＋動詞」型複雑述語内部の独立性	65
4.5.3	疑問文会話における「動詞＋動詞」型複雑述語内部の独立性	67
4.6	日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の独立性の対照	70
4.7	本章のまとめ	71
第5章	「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の違い	72
5.1	はじめに	72
5.2	先行研究の概観と問題点	73
5.3	構文要素の挿入による複合動詞と複雑述語の違い	77
5.4	単一の動詞要素による疑問文の答えにおける複合動詞と複雑述語の違い	80
5.5	本章のまとめ	83
第6章	連続動作型複雑述語	85
6.1	はじめに	85
6.2	連続動作型複雑述語に関する先行研究の概観と問題点	86
6.3	日本語と中国語の連続動作型複雑述語の意味関係	88
6.3.1	日本語の連続動作型複雑述語の意味関係	88
6.3.2	中国語の連続動作型複雑述語の意味関係	90
6.4	日本語と中国語の連続動作型複雑述語の文法的特徴	95
6.4.1	日本語の連続動作型複雑述語の文法的特徴	95
6.4.2	中国語の連続動作型複雑述語の文法特徴	99
6.5	日本語と中国語の連続動作型複雑述語の対照	108
6.6	本章のまとめ	109
第7章	行為目的型複雑述語	111
7.1	はじめに	111

7.2 行為目的型複雑述語に関する先行研究の概観と問題点	112
7.3 日中語の行為目的型複雑述語の形態的特徴	113
7.3.1 日中語の行為目的型複雑述語の語順の対照	113
7.3.2 日中語の行為目的型複雑述語の構成成分の対照	116
7.4 日中語の行為目的型複雑述語の文法的特徴	120
7.4.1 場所名詞から見た日中語の行為目的型複雑述語の対照	120
7.4.2 行為目的型複雑述語構文における共同参与者	123
7.4.3 行為目的型複雑述語構文における動作の実現	125
7.5 日中語の行為目的型複雑述語の対照	127
7.6 本章のまとめ	129
第 8 章 補助動詞型複雑述語	131
8.1 はじめに	131
8.2 補助動詞型複雑述語に関する先行研究の概観と問題点	132
8.2.1 方向補助動詞型複雑述語に関する先行研究	134
8.2.2 授受補助動詞型複雑述語に関する先行研究	141
8.2.3 先行研究の問題点	144
8.3 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の特徴	145
8.3.1 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の形態的特徴	145
8.3.2 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の意味的特徴	148
8.3.3 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の文法的特徴	154
8.3.4 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の対照	159
8.4 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の特徴	160
8.4.1 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の形態的特徴	161
8.4.2 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の授受方向	161
8.4.3 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の文法的特徴	163
8.4.4 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の対照	167
8.5 本章のまとめ	168
第 9 章 結論	170
謝辞	176
参考文献	177
資料	183
資料 1: 日中語の「動詞＋動詞」型複合動詞	183
資料 2: 日中語の連続動作型複雑述語	191
資料 3: 日中語の行為目的型複雑述語	194
資料 4: 日中語の補助動詞型複雑述語	198
資料 5: 日本語の副詞修飾型複雑述語	205

表の一覧

[表 1] 日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照	28
[表 2] 日本語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い	40
[表 3] 中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い	49
[表 4] 日本語と中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の対照	50
[表 5] 日中語の「動詞＋動詞」型複雑述語内部の挿入要素	65
[表 6] 日中語の「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素の独立性	70
[表 7] 日中語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の対照	84
[表 8] 日本語と中国語における連続動作型複雑述語の指向成分と意味関係	108
[表 9] 日本語と中国語の行為目的型複雑述語の対照	128
[表 10] 丸尾 (2010) での中国語の方向補語の分類	139
[表 11] 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の用法	153
[表 12] 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の対照	160
[表 13] 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の対照	167

第 1 章 序論

1.1 研究目的

本論文は、「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語を研究対象とし、日本語と中国語の対照を通じて日中両言語における「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の類似点と相違点を全面的に解明することを目的とする。さらに日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の対応関係を全面的に把握することを目指す。

1.2 研究背景

多くの言語において文の中核は述語である。述語は、文の要素のうちで最も複雑かつ精緻な構造を持っている。影山 (1993) をはじめ、日本語の複合動詞に関する先行研究は多数存在しているが、中国語の複合動詞に関する研究は主に結果複合動詞を中心に展開されるものに限られている（望月・申 亜敏 (2006, 2011)、玄 玥 (2018)、濱口 (2017) などがある）。

近年の言語研究では、岸本・由本 (2014) を代表として複雑述語に注目した研究も盛んになっている。日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語について主に補助動詞と「V に行く」構文を中心に研究が行われている。日本語に対し、中国語における「動詞＋動詞」型複雑述語に関する先行研究は主に「動詞＋方向補語」を研究対象として研究が行われている。

中国語では、“保存”「保存する」「飘落」「漂って落ちる」のような複合動詞も存在している。また、日本語にも中国語にも、「動詞＋動詞」型複雑述語において「買って帰る」「坐って書く」「气哭」「怒って泣く」「借看」「借りて見る」のようなタイプも存在している。日本語と中国語の複合動詞・複雑述語に関するこれまでの先行研究は考察対象が限られており、全面的な研究とは言えない。

1.3 研究意義

多くの研究により、日本語と中国語の文法構造の対照が行われている。影山、岸本・由本の一連の研究により、日本語の複合動詞および複雑述語はより多く研究されている。しかし、日本語と中国語の複合動詞・複雑述語の対照に関して体系的な研究はまだ乏しい。本論文は、複合動詞・複雑述語（特に「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語）の特徴を整理しながら、日本語と中国語の述語に関する対応関係を全面的に提示しようとするに最大の意義がある。

1.4 研究内容

近年来の言語研究では、述語の中でも特に複合動詞及び複雑述語に注目した研究が盛んになっている。本論文では、「動詞＋動詞」型複合動詞及び「動詞＋動詞」型複雑述語の特徴に注目し、日本語と中国語の対照を通じて日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を明らかにする。

日本語では、前の要素と後ろの要素の形態から「動詞＋動詞」型複合動詞か「動詞＋動詞」型複雑述語かを判断できる。「言い終わる」「飛び込む」のように2つの動詞が組み合わさって一語になるものが「動詞＋動詞」型複合動詞である。一方、「買いに行く」「読んでくれる」のように2つの動詞がつながって1つの述語として振る舞うが、一語にならないものが「動詞＋動詞」型複雑述語である。

膠着語の日本語とは異なり、孤立語の中国語では、語形変化をしないため、前の要素と後ろの要素の形態から「動詞＋動詞」型複合動詞か「動詞＋動詞」型複雑述語かを判断できない。例えば“拒绝”“断る”“砍断”“切る”“写完”“書き終わる”は「動詞＋動詞」型複合動詞であるが、“去买”“買いに行く”“买来”“買ってくる”“送给”“送ってあげる”は「動詞＋動詞」型複雑述語である。“拒绝”“断る”と“去买”“買いに行く”とは両方とも2つの動詞から構成される。本論文では、前の要素と後ろの要素が意味上・文法上の特徴に着目し、日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を明らかにする。

日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語において、先行動詞と後続動詞が両方とも本動詞から構成される構造もあるし、本動詞と補助動詞から構成される構造もある。本論文では、両方とも本動詞である先行動詞と後続動詞の意味関係に着目し、「動詞＋動詞」型複雑述語を「連続動作型複雑述語」と「行為目的型複雑述語」に分けている。連続動作型複雑述語は「洗って戻す」「焼いて食べる」；“请吃”“ご馳走する”“吓飞”“飛ばす”のように先行動詞と後続動詞が表す動作を順番に行うものを指す。行為目的型複雑述語は「遊びに行く」「探しに来る」；“去玩”“遊びに行く”“来找”“探しに来る”のように移動行為の目的を表すものを指す。

また、「書いてあげる」「帰っていく」；“跑来”“走ってくる”“寄去”“郵送する”のように片方だけが本動詞であるが、先行動詞と後続動詞の意味関係が希薄で、文法関係によって構成される「動詞＋動詞」型複雑述語を「補助動詞型複雑述語」と呼ぶ。補助動詞型複雑述語は「食べてくる」「守ってあげる」；“买来”“買ってくる”“送给”“送る”のように後続動詞が先行動詞を補足するものを指す。本論文では、これらの3つのタイプの「動詞＋動詞」型複雑述語に着目し、日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複雑述語の類似点と相違点を全面的に解明しようとする。

1.5 例の示し方

本論文において使用されている例文の中では、出典が明示されていない例文は筆者の作例である。コーパス資料として、次の2つを用いた。

CCL <北京大学中国语言研究中心> (『現代中国語コーパス』)
(CCL 語料庫由北京大学中国语言研究中心(Center for Chinese Linguistics PKU) 开发。检索系统以汉字为基本单位。CCL 汉语语料库总字符数为 783,463,175, 其中现代汉语语料库总字符数为 581,794,456, 古代汉语语料 201,668,719 字。语料库中所包含的语料涉及的文献时间从公元前 11 世纪-当代, 所涉及的文献也种类颇丰。「CCL コーパスは北京大学中国言語学研究センターが開発した。このシステムでは漢字を基本単位とする。CCL には、201,668,719 字の古代中国語と 581,794,456 字の現代中国語が収録されている。紀元前 11 世紀から当代までの文献を収録されている」)

BCCWJ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
(大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所と文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクトが共同で開発した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) のデータを検索できる。BCCWJ には、現代の日本語の書き言葉の全体像を把握できるように集められたサンプルが約 1 億語収録されている。)

本論文において、以下の記号を用いて例文の要素を示す。

V+V	「動詞+動詞」型複合動詞 (例えば、中国語の“说完”「話し終わる」を「話す+終わる」のように示す)
V-V	「動詞+動詞」型複雑述語 (例えば、中国語の“买来”「買ってくる」を「買う-来る」のように示す)
.....	目的語
=====	副詞成分
~~~~~	場所名詞成分
~~~~~	参与者成分
→	後項動詞の意味の抽象化・形式化

-挿入要素-	前項動詞と後項動詞の間に挿入される要素 (例えば、「-さえ-」；“-不-”のように示す)
?	不自然な例文
*	非文
#	複合方向補助動詞の方向補助動詞 1 と方向補助動詞 2 のつながり (例えば、複合方向補助動詞“起来”を“起#来”「起きる#来る」のように示す)
^	中国語の「複合動詞＋単純動詞」や「複合動詞＋複合動詞」や「動詞＋複合方向補語」のつながり (例えば、“喜欢吃”“起立欢呼”“花出去”を“喜欢^吃” “起立^欢呼”“花^出去”のように示す)

1.6 略語

本論文において、例文のグロスに引用される略語の意味を示す。

ADV	副詞
CAUS	使役
CONT	進行
dan	中国語の逆接を表す接続詞“但”
NEG	否定
PASS	受身
PERF	完了
PROG	進行
PSN	人名
PST	過去
PTCL	助詞
que	中国語の逆接を表す接続詞“却”
zhe	中国語のアスペクト助詞“着”

1.7 本論文の構成

本論文は、全 9 章より構成される。

第 1 章では、研究目的、研究意義、例の示し方、および、論文で使用される略語について述べる。

第 2 章では、複合動詞の定義と分類に言及し、日本語と中国語における「動詞＋動詞」

型複合動詞の音韻上・構成上・文法上の相違点を考察する。

第3章では、日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞を語彙的複合動詞と統語的複合動詞に分けている。語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法上・意味上の特徴を考察し、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照を通じて日本語と中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の類似点と相違点をまとめる。

第4章では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語を連続動作型複雑述語、行為目的型複雑述語、補助動詞型複雑述語の3つに分ける。また、日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的特徴に言及し、否定文・疑問文会話に着目し、日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複雑述語の独立性を検討する。

第5章では、前の要素と後ろの要素の間の要素の挿入、および、目的語と動詞要素の意味関係に着目し、「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の形態上・意味上・文法上の区別を解明する。

第6章では、日本語と中国語における連続動作型複雑述語を研究対象とし、連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の意味上・構文上の特徴を分析し、日本語と中国語の連続動作型複雑述語の相違点を綿密に分析する。

第7章では、日本語と中国語における行為目的型複雑述語を研究対象とし、構成要素の並び方、および、行為目的型複雑述語構文の特徴に着目し、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の相違点を解明する。

第8章では、日本語と中国語における補助動詞型複雑述語を研究対象とし、補助動詞型複雑述語をさらに方向補助動詞型複雑述語と授受補助動詞型複雑述語に分ける。方向補助動詞型複雑と授受補助動詞型複雑述語の意味上・文法上の特徴に着目し、日本語と中国語の補助動詞型複雑述語の相違点を全面的に明らかにする。

そして最後の第9章においては、前章までの分析を通じて日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語と「動詞＋動詞」型複合動詞の類似点と相違点を全面的・詳細に考察する。本論文全体のまとめに当たるこの章では、本論文で明らかになった知見を総合してまとめる。

第2章 日中語の複合動詞の概要

本章では、日本語と中国語の複合動詞の概要を説明する。日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞を研究対象として定め、近年来の「動詞＋動詞」型複合動詞に関する先行研究を概観する。日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の音韻上・構成上・文法上の特徴に注目し、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の相違点を検討する。

2.1 複合動詞とは何か

本節では、これまでの研究における、日本語と中国語の複合動詞の定義および複合動詞の分類を検討した後、本論文が研究対象とする「動詞＋動詞」型複合動詞を再定義する。

2.1.1 日本語の複合動詞の定義と分類

亀井他 (1996)、中村 (1998) では、日本語の複合動詞の定義を述べている。

複合動詞は、「動詞に他の要素をつけて合成した動詞を複合動詞という」ことである (亀井他 1996: 1139)。

中村 (1998: 65) では、「日本語における“複合動詞”という名称は、動詞に何かほかの要素が各々結合したもの (例えば、動詞連用形、助動詞、補助動詞、形容動詞、名詞など) 全体を指す場合がある」と指摘している。

また、姫野 (1999, 2018)、森田 (1978)、杉浦 (2003) では、日本語の複合動詞の分類を説明している。

構成要素の品詞により、姫野 (1999, 2018) では、日本語の複合動詞は構成の品詞により、「名詞＋動詞」 (目＋さめる＝目ざめる)、「動詞＋動詞」 (書く＋始める＝書き始める)、「形容詞＋動詞」 (近い＋寄る＝近寄る)、「副詞＋動詞」 (ぶらぶら＋下がる＝ぶら下がる) (姫野 (2018: 4) の表「複合語の構成パターン」を参考) という4種類に分けている。

森田 (1978: 71) では、日本語の複合動詞を動詞と動詞が複合した複合動詞(I)(例えば、「呆れ返る」「当て込む」「洗いたてる」など)と、サ変動詞および名詞・形容詞・形容動詞に動詞の伴う複合動詞(II) (例えば、「愛する」「相対する」「相手取る」「青ざめる」など)に分けられる。

杉浦 (2003) では、日本語において、「オノマトペ＋つく」という形式を持つ複合動詞が存在していると述べている (例えば、「べとつく」「べたつく」「ふらつく」「ぱさつく」などである)。

2.1.2 中国語の複合動詞の定義と分類

日本語の複合動詞の定義と異なり、湯廷池 (1989)、興水・島田 (2009) では中国語の複合動詞を以下のように説明している。

湯廷池 (1989 : 10) では、中国語の複合動詞が“复合动词是由两个或两个以上语根组成的”（「複合動詞は2つ、あるいは、2つ以上の語根から構成されるものである」）と述べている。

興水・島田 (2009: 11) では、「複合タイプの合成語とは、具体的な語彙的意味を表す成分を2つ、またはそれ以上、一定のルールで組合わせた語である」と述べている。

また、湯廷池 (1989)、興水・島田 (2009)、北京大学中国語言文学系現代漢語教研室 (2008) では、中国語の複合動詞を要素の間の文法関係により分類している。

湯廷池 (1989: 12) では、複合動詞における前項動詞と後項動詞の内部の文法構造を基準として、中国語の複合動詞を「述語＋目的語」式、「述語＋補語」式、「修飾語＋動詞」式（中国語では“偏正式”と呼ばれる）、「並列式」「主語＋述語」式の5つに分けている。

興水・島田 (2009: 11-15) では、中国語の複合動詞は「主述型複合動詞」「修飾型複合動詞」「補足型複合動詞」「動賓型複合動詞」「並列型複合動詞」と「連動型複合動詞」に分けている。

主述型複合動詞：「複合語の前後2つの成分が、文の組み立てでいえば「主語＋述語」の関係で結び付いている語である」

（興水・島田 (2009: 11-12)）

（“心疼”「心が痛む／いつくしむ」）

修飾型複合動詞：「複合語の前後2つの成分が、文の組み立てでいえば、「修飾語＋被修飾語」の関係で結び付いている語である」

（興水・島田 (2009: 12)）

（“公布”「公布する」）

補足型複合動詞：「複合語の前後2つの成分が、文の組み立てでいえば、「述語（動作行為を表す動詞＋補語（結果を表す）」の関係で結び付いている語である」

（興水・島田 (2009: 13)）

（“打倒”「打倒する」，“提高”「引き上げる」）

動賓型複合動詞：「複合語の前後 2 つの成分が、文の組み立てでいえば、「動詞＋賓語（目的語）」の関係で結び付いている語である」
(興水・島田 (2009: 13))
(“注意”「注意する」，“告别”「別れを告げる」)

並列型複合動詞：「複合語の前後 2 つの成分が、相互の意味関係になんらかの関連があって結び付いている語である」
(興水・島田 (2009: 14))
(“調査”「調査する」，“来往”「交際する」，“印刷”「印刷する」)

連動型複合動詞：「前後 2 つの成分がともに動詞で、その結びつきが動作行為の順序や、動作行為とその目的を示す意味関係になっている」
(興水・島田 (2009: 15))
(“借用”「借用する」，“听写”「書き取りをする」)

北京大学中国語文学系現代漢語教研室 (2008) では、中国語の複合動詞を“主谓关系”（「主述関係」）“动宾关系”（「動目関係」）“偏正关系”（「修飾関係」）“并列关系”（「並列関係」）“动补关系”（「動補関係」）に分けている。

2.1.3 「動詞＋動詞」型複合動詞の定義

本論文では、日本語の「押し入る」「飛び歩く」「寄り集まる」、中国語の“选择”「選択する」「发展”「発展する」「汇报”「報告する」のような、2 つの動詞から構成された「動詞＋動詞」型複合動詞のみを研究対象とする。以下では、日本語と中国語において、「動詞＋動詞」型複合動詞の定義に関する先行研究を概観し、本論文の研究対象とする「動詞＋動詞」型複合動詞を定義する。

近年来、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞に関する先行研究について、影山 (1993)、姫野 (1999, 2018)、森田 (1978)、杉村 (2016)、林翠芳 (1993)、中村 (1998) などがある。

影山 (1993)、杉村 (2016)、中村 (1998) では、日本語の「動詞＋動詞」複合動詞の形態的な特徴を説明している。

影山 (1993: 75) では、日本語複合動詞の形態は、「動詞と動詞の結合による複合語 (V-V 型複合語) ... (中略) ... V-V 型の複合動詞は、前部分の動詞 (V1) と後部分の動詞 (V2) に分かれるわけであるが、V1 が「押し-開ける、食べ-始める」のように連用形 (イ形) である」と述べている。

杉村 (2016: 127) では「V-V 型複合動詞は形式的に前項動詞 (V1) の連用形に後項動詞 (V2) が結合して一語の動詞のようになったものである」と述べている。

中村 (1998: 66) での「動詞+動詞」型複合動詞は「動詞連用形+動詞」という形式を持つ複合動詞を指す。

岳莎莎・吉田 (2010)、林翠芳 (1993) では、日本語の「動詞+動詞」型複合動詞の意味的特徴を説明している。

岳莎莎・吉田 (2010: 57) では、「日本語の複合動詞の顕著な特徴の一つは、「動詞連用形 (V1) +動詞 (V2)」という形式を取ることで、複合動詞の意味は、基本的に V1 と V2 それぞれの意味の相互作用によって構成される」と指摘している。

林翠芳 (1993: 151) によれば、「二つの動詞が結合して一つの動詞としての意味・用法を持つに至ったもの、いわゆる「動詞+動詞」タイプの複合動詞である」と説明している。

中国語学において、複合動詞に関する先行研究があるが、管見の限りでは、「動詞+動詞」型複合動詞の定義を説明する先行研究が存在しない。筆者は影山 (1993)、杉村 (2016)、中村 (1998) の日本語の「動詞+動詞」型複合動詞の定義、および、「動詞+動詞」型複合動詞の形態的な特徴を参照し、日本語と中国語の「動詞+動詞」型複合動詞を以下のよう

に定義する。

本論文での「動詞+動詞」型複合動詞の定義：

「動詞+動詞」型複合動詞は、2つの動詞が組み合わさって一語として振る舞い、1つの動詞としての用法・文法機能を持つものを指す。

2.2 「動詞+動詞」型複合動詞の分類

本節では、日本語と中国語の「動詞+動詞」型複合動詞の分類を検討する。

日本語の「動詞+動詞」型複合動詞の分類について、寺村 (1969)、森田 (1978)、田辺 (1995)、山本 (1984) などがある。

寺村 (1969)、森田 (1978)、田辺 (1995) では、日本語の「動詞+動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味の度合いから、「動詞+動詞」型複合動詞を分類している。

寺村 (1969) によれば、日本語の「動詞+動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞のそれぞれが「自立語として独立に使われる時の意味がそのまま保持されているか、否か」により、「自立 V+自立 V」「自立 V+付属 V」「付属 V+自立 V」「付属 V+付属 V」の 4 種類に分けている。

自立 V+自立 V: 前項動詞と後項動詞は両方とも自立語の意味を保留される
(「持ち上げる」「走り去る」)

自立 V+付属 V：前項動詞が自立語の意味が保持し、後項動詞が自立語の意味が失う

（「走りこむ」「見上げる」）

付属 V+自立 V：前項動詞が接頭辞化する

（「取り押さえる」「打ち眺める」）

付属 V+付属 V：前項動詞と後項動詞がいずれも自立語の意味が失う

（「取りなす」「のりだす」）

田辺（1995）によれば、複合動詞を構成する動詞要素が複合した後、辞書的意味がその程度残っていることにより「意義素融合型」（前項動詞と後項動詞の辞書的意味が両方とも保留される（「叩き壊す」））、「文法化型」（前項動詞が接頭辞化（「取り決める」）、後項動詞が接辞化（「読み切る」））に分けている。

森田（1978: 80-84）では、「複合動詞を、意味の度合いから眺め」以下の5つの段階に分けている。

第1段階 並列関係

「二つの動詞が結び付いて生ずる意味関係として最も単純なものは、両動詞が対等の関係で並列する「...して...する」形式である」

(1) 書いて捨てる／書き捨てる

聞いておく／聞きおく

切って落とす／切り落とす

捨てておく／捨ておく

とっておさえる／とりおさえる

（森田 1978: 80-81）

第2段階 主述,補足関係

「上下の動詞がそれぞれ独立した意味を持ち、それが並列関係でなく、一歩進んで「主語—述語」の「が」格の関係を構成することがある。（中略）他動詞が下接すれば「を」格の補足関係「...を...する」の意となる」

(2) 思い余る （思うことが余る）

吹き荒れる （吹くことが荒れる）

売れ残る （売れることが残る/売れずに残る）

見飽きる	(見ることに飽きる)
し慣れる	(することに慣れる)
読みふける	(読むことにふける)
書き誤る	(書くことを誤る)
売り急ぐ	(売ることを急ぐ)
見交す	(見ることを交す)

(森田 1978: 82-83)

第3段階 具体的意味から抽象的意味へ

「主述関係や補足関係を取る複合動詞の中には、複合することどちらか一方の動詞が本義から離れて転義的に用いられている」

- (3) 飛び出す → 降り出す
- 取り上げる → 書きあげる
- 言い返す → 塗りかえす

(森田 1978: 83)

第4段階 造語成分への移行

「下接部分が、それ自体独立した動詞としては用いられないが、複合語の中で生き残り、しかも実質的意味をまだ残している場合がある」

- (4) 考えあぐねる、言いそびれる、言いならわす

(森田 1978: 84)

第5段階 実質的意味から形式的意味へ

「抽象化がさらに進めば、実質的意味を失い、形式化されてしまう」

- (5) 突き飛ばす → 叱りとばす
- 突き立てる → わめきたてる
- 追い散らす → どなりちらす
- 押し出す → おし進める

(森田 1978: 84)

山本 (1984) では、複合動詞の格成分が前項動詞と後項動詞の対応関係により、日本語の複合動詞をI類～IV類に分けている。

I類：複合動詞の格成分が前項動詞と後項動詞のそれぞれと対応する

(例) 子供が泣き叫ぶ 雪が降り積もる

II類：複合動詞の格成分が前項動詞とは対応するが、後項動詞とは対応しない

い

(例) 部屋が静まり返る 雨が降り出す

III類：複合動詞の格成分が後項動詞とは対応するが、前項動詞とは対応しない

い

(例) 不幸が打ち重なる 期間が差し迫る

IV類：複合動詞の格成分が前項動詞と後項動詞のいずれとも対応しない

(例) 味が引き立つ 良夫が取り乱す

(山本 (1984)を整理した杉村 (2016)より)

影山 (1993) では、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞を「語彙的複合動詞」と「統語的複合動詞」に分けている。影山 (2013) は影山 (1993) を踏まえて、日本語の複合動詞を記述的なレベルで2種類に区別した。

a. 語彙的複合動詞

後項動詞(V_2)が直接、前項動詞(V_1)の連用形に結合する。すなわち、2つの語彙範疇が直接的に複合であるという点で「語彙的」である

b. 統語的複合動詞

V_2 は、直接、 V_1 の連用形に付くのではなく、 V_1 を主要部とする補文(幾つかのレベルの動詞句)を取る。すなわち、統語的な句に付くという点で「統語的」である。

影山 (2013: 3-4)

興水・島田 (2009) によれば、中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞の文法関係により、「修飾型」「補足型」「動賓型」「並列型」と「連動型」に分けている。

このように日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞の研究を見ると、分類の基準が様々なので、「動詞＋動詞」型複合動詞の分類も異なる。また、中国語の「動詞＋動詞」型動詞の研究を見ると、1つの複合動詞が2つの分類に属することがある。例えば、中国語の“买卖”「買うと売る/買ってから売る」は並列型とも言えるし、連動型とも言える。このような状態を避けるために、本論文では、影山 (1993, 2013) を参考にして、日本語と中国

語の「動詞＋動詞」型複合動詞を語彙的複合動詞と統語的複合動詞に分けて考察する（語彙的複合動詞と統語的複合動詞については第3章に詳しく説明する）。

2.3 「動詞＋動詞」型複合動詞に関する先行研究と問題点

本節では、「動詞＋動詞」型複合動詞に関する先行研究を概観する。2.3.1 節では、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞の先行研究を説明する。2.3.2 節では、日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞の対照に関する先行研究を説明する。2.3.4 節では、「動詞＋動詞」型複合動詞の先行研究の問題点を提出する。

2.3.1 日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞に関する先行研究の概観

影山 (1993)、睦俊秀 (2014) では、自動詞と他動詞の構成から、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞を考察している。

影山 (1993) では、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞は「他動性調和原則」により構成されると述べている。

他動詞と非能格自動詞の項構造は同じタイプと見なすことができるから、他動詞＋他動詞、非能格自動詞＋非能格自動詞だけでなく、他動詞と非能格自動詞が混在した複合動詞も可能である。他方、非対格自動詞の項構造はこれら二者とは形式が異なるから、基本的に非対格自動詞は非対格自動詞として結合しない。これを他動性調和の原則と呼んでおこう。

(影山 1993:117)

睦俊秀 (2014: 32) では、「他動詞 V1＋自動詞 V2」という構造を持つ「動詞＋動詞」型複合動詞が「他動詞で、V1 の他動詞が保持されている複合動詞」と「自動詞で V1 の他動性は保持されていない複合動詞」があり、「前者の場合、その V2 の語彙的な意味は殆どなくなり、接辞に近くになるものの、V1 はもちろん V2 の格体制も複合動詞に反映していることが分かった。それに対し、後者の場合、V2 の独立の動詞として持つ格体制や語彙的な意味が複合動詞に反映され、V1 はその動詞としての意味・機能を殆ど果たさず、V2 の様態を説明する修飾的な機能を果たしている」と指摘している。

杉村 (2010, 2011, 2012a, 2012b, 2013)、田中 (2017)、日高 (2016) などでは、「Vー果たす」「Vー切る」のように同じ後項動詞を持つ複合動詞を中心に研究を行っている。

杉村 (2016) によれば、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞を「前項動詞と後項動詞の意味的結合、複合動詞と本動詞の意味的対応、複合動詞の多義構造類義複合動詞の意味関係、自他対応のある複合動詞の意味的対応複合動詞が使えない場合」に注目して、複合動

詞の意味を記述している。

前項動詞と後項動詞の意味的結合

- ・前項動詞と後項動詞が意味的にいかなる結びつきをしているか

(例) 「相手の頬を殴り返す」は「(自分が殴られたので) 自分も相手の頬を殴ってやり返す」という意味を表す

複合動詞と本動詞の意味的対応

- ・複合動詞とその後項動詞が本動詞として使われた場合の意味的な対応

(例) 「V1-返す」と「返す」

複合動詞の多義構造

- ・同じ後項動詞を持つ複合動詞間の意味的なネットワーク

(例) 「(土を) 掘り返す」「(悪口を) 言い返す」「(盗品を) 取り返す」、(光が) 照り返す」「(本を) 読み返す」など

類義複合動詞の意味関係

- ・ある複合動詞と意味的に類似した複合動詞の意味の違い

(例) 「取り返す」と「取り戻す」、「読み返す」と「読み直す」

自他対応のある複合動詞の意味的対応

- ・後項動詞が有対動詞の場合の他動詞形と自動詞形の意味的な対応

(例) 「V1-返す」と「V1-返る」

複合動詞が使えない場合

- ・V1+V2 結合や共起する名詞句の制限について

(例) 「取り戻す」と「取り返す」は両方とも言えるのに、「買い戻す」は言えても「*買い返す」は言えないことや、「盗品を取り返す」は言えても「*青春を取り返す」は言えないことなど

(杉村 2016: 127-128)

松本 (1998)、由本 (2005, 2013) では、日本語の語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係を研究している。日本語の語彙的複合動詞の意味関係が 5 種類に分けられている。それは並列関係、付帯状況・様態、手段、因果関係と補文関係である。

2.3.2 日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞に関する先行研究の概観

日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞に関する先行研究は、陳月吾・王育潔 (2013)、望月 (1990b)、陳劭憚 (2009) などがある。

陳月吾・王育潔 (2013) では、複合動詞の脱範疇化（「名詞や動詞のそれぞれの持っている形態的、統語的特性を失って、前置詞や接続詞などの特性を逆に持つていくことは脱範疇化と言われる（陳月吾・王育潔 2013: 489））から、日本語と中国語の複合動詞を考察している。

陳月吾・王育潔 (2013: 499) によれば、日本語において、程度副詞化した複合動詞は「もともと悪い意味にもいい意味にも使用し得るので、脱範疇化してもその性質も変わらない」。中国語において、程度副詞化した複合動詞は主にマイナスイメージを表している。または、中間的な性質を持つこともある。

望月 (1990b) と陳劭憚 (2009) では、日本語と中国語の結果複合動詞について研究を行っている。

望月 (1990b) によれば、日本語においては、後項動詞が主語・目的語の格助詞を決める。例えば、例文 (6) では、後項動詞が他動詞「上げる」の場合、「原稿」に付加する格助詞が「を」であり、後項動詞が自動詞「上がる」の場合、格助詞が「が」である。一方、中国語は孤立語なので、主語・目的語の格標識がなく、後項動詞に動作の結果を示す自動詞がくる。

(6) 太郎は原稿を書き上げた。

太郎の原稿が書き上がった。

(7) 张三 打坏 了 玩艺儿。

(張三 叩く＋壊れる PERF おもちゃ)

「張三はおもちゃを叩き壊した」

例文 (7) の中国語では、“打”「叩く」は他動詞であり、“坏”「壊れる」は自動詞である。後項動詞“坏”「壊れる」は、前項動詞“打”「叩く」の動作の結果を表す。中国語においては、後項動詞として自動詞を用いて前項動詞の結果を表す。

望月 (1990b) では、日本語と中国語の結果複合動詞について、日本語は「動作・行為を表す他動詞＋結果を表す他動詞」という形式で、中国語は「動作・行為を表す他動詞＋結果を表す自動詞」という形式だとわかった。また、日本語では、後項動詞が格助詞を決定する。一方、中国語では、主語・目的語に格標識がつかない後項動詞に動作の結果を示すということがわかった。

陳劫憚 (2009) では結果複合動詞を研究対象として、日本語は前項動詞の主語と後項動詞の主語が同一であると指摘している。一方の中国語では、前項動詞の目的語と後項動詞の主語が同一であると述べている。つまり、日本語の結果複合動詞が「主語一致の原則」¹に従うが、中国語の結果複合動詞は「主語一致の原則」に必ずしも従わない。

(8) 彼は木を切り倒した。

(8') 彼は木を切った。

彼は木を倒した。

上述の例文から見ると、日本語結果複合動詞「切り倒す」には2つの動作「切る」と「倒す」の主語がすべて「彼」である。

(9) 他 砍倒 了 一棵 树。

(彼 切る+倒れる PERF 一本 木)

「彼は一本の木を切り倒した」

(9') 他 砍了 一棵树。「彼は一本の本を切った」

树 倒了 一棵。「一本の木が倒れた」

*他 倒了 一棵树。「彼は一本の木を倒した」

例文 (9') から見ると、動詞“砍”「切る」の主語は“他”「彼」であるが、“倒”「倒れる」の主語は“树”「木」になるしかない。つまり、中国語結果複合動詞では、前項動詞と後項動詞の主語が一致しない。

2.3.3 先行研究の問題点

日本語と中国語の「動詞+動詞」型複合動詞に関する先行研究には、2つの問題点がある。

1つ目は、考察対象が単一である。多くの研究は、日本語の「動詞+動詞」型複合動詞の中の1つ、例えば「V-切る」のようなタイプの複合動詞（後項動詞が同一の動詞から構成されるもの）のみを研究対象とする。中国語でも、主に結果複合動詞のみを研究対象として研究を行っている。単一なタイプの「動詞+動詞」型複合動詞ではなく、「動詞+動詞」型複合動詞の全般を考察する必要がある。

¹「主語一致の原則」とは、複合動詞においては、前項動詞の主語と後項動詞の主語が一致しなければならないということを指す（松本 1998: 72）。

2つ目は、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞の構成は「他動性調和原則」に従うことが分かったが、中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞における2つの動詞が組み合わさるときの原則に言及する研究はほとんどない。

本章では、「動詞＋動詞」型複合動詞の音韻上・構成上・文法上の特徴に着目し、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の相違点を全面的に明らかにする。

2.4 日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照

現代日本語にも現代中国語にも、2つの動詞が組み合わされた「動詞＋動詞」型複合動詞が存在している。例えば、日本語の「買い戻す」「滑り落ちる」や、中国語の“起飞”「飛び立つ」「挑战」「挑戦する」はいずれも「動詞＋動詞」型複合動詞である。本節では日本語と中国語において、「動詞＋動詞」型複合動詞は音韻上・構成上・文法上の相違点を考察する。

2.4.1 音韻から見た日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照

朱茜 (2017a) では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞において、前項動詞と後項動詞の間には休止がないという特徴があると述べている。(本章では、/ は休止を示す。)

(10) どんな/事情が/あっても/夜に/学校を/歩き回る権利は/一切ありません。

(『ハリー・ポッターと賢者の石』) (朱茜 2017a: 10)

(11) 男と/話し合う声が/聞こえた。

(『新宿流氓』) (朱茜 2017a: 10)

(12) 文章を/読み続けるためには/、集中力を/4倍に/するしかありません。

(『ディスレクシアなんか怖くない!』) (朱茜 2017a: 10)

(13) 这个 房子/是 他 自己/一点一点/ 搭建 的。

(この 家 は 彼 自分 少し少し かける＋造る の)

「この家は彼が自分で少しずつ建築したのだ」

(14) 这幅 画 / 被 他 / 收藏 了。

(この 絵 PASS 彼 収める＋隠す PERF)

「この絵は彼に收藏された」

(15) 杯子 / 从 桌上 / 摔下来 / 摔碎 了。
(グラス から テーブルの上 落ちてくる 落ちる+碎ける PERF)
「グラスはテーブルから落ちてきて、打ち壊した」

(16) 他 昨天 / 才 / 写完 / 暑假作业。
(彼 昨日 さえ 書く+終わる 夏休みの宿題)
「彼は昨日やっと夏休みの宿題を書き終わった」

(17) 他 / 压碎 了 / 那个 模型。
(彼 押す+碎く PERF その 模型)
「彼はその模型を押しつぶした」

(朱茜 2017a: 15)

(18) 他 / 虐待 / 小动物。
(彼 いじめる+待遇する 動物)
「彼は動物を虐待する」

(朱茜 2017a: 16)

(19) 她 / 终于 / 学会 了 / 开车。
(彼女 やっと 学ぶ+把握する PERF 運転)
「彼女はやっと運転できる」

(朱茜 2017a: 16)

日本語の「動詞+動詞」型複合動詞が音韻上に、前項動詞と後項動詞の間には休止がないという特徴だけではなく、複合動詞のアクセントも 1 つにまとまるという特徴がある (朱茜 2017a: 10)。

松森 (2016) と窪藁 (2001) では、主に複合名詞のアクセントについて述べられているが、本節では、日本語の複合名詞のアクセントに言及しない。また、秋永 (2010) では複合動詞の前部要素におけるアクセントの核の有無に注目し、東京方言の複合動詞のアクセントについて研究している。それに対し、本節では、核の有無を考えなく、日本語複合動詞のアクセント数の変化に注目し、日本語の複合動詞が音韻上の特徴を考察する。

日本語には、2つの動詞が組み合わさって、「動詞+動詞」型複合動詞になるとき、アクセントが1つにまとまる。「引き出す」「飛び出す」「書き直す」「食べ過ぎる」「降り続く」などを例として、分析する。(本章の以下では、] はアクセントの核の位置を示し、= は平板型であることを示す。)

- (20)
- | | | | | | |
|--------|------|---|------|---|--------|
| 書き直す： | か]く | + | なお]す | > | かきなお]す |
| 引き出す： | ひく＝ | + | だ]す | > | ひきだ]す |
| 飛び出す： | とぶ＝ | + | だ]す | > | とびだ]す |
| 食べ過ぎる： | たべ]る | + | すぎ]る | > | たべすぎ]る |
| 降り続く： | ふ]る | + | つづく＝ | > | ふりつづ]く |
| 読み終わる： | よ]む | + | おわる＝ | > | よみおわ]る |
| 買い戻す： | かう＝ | + | もど]す | > | かいもど]す |
| 泣き暮らす： | なく＝ | + | くらす＝ | > | なきくら]す |
| 走り寄る： | はし]る | + | よる＝ | > | はしりよ]る |

(『NHK 日本語発音アクセント辞典』より)

例 (20) が示すように、前項動詞「か]く」「ひく＝」と後項動詞「なお]す」「だ]す」はもともと自分のアクセントを持っているが、複合動詞「書き直す」「引き出す」では、元々の2つのアクセントが1つになる。

中国語では、語のアクセントがないので、複合動詞か否かをアクセントからは判断できない。しかし、中国語は声調を持つ言語である。朱茜 (2017a: 15) では、「二つの語幹が複合動詞を構成するとき、語幹の声調が変わらない」を述べている。(中国語の標準語(普通話)の声調には5種類がある。/ma/ の発音を例とすれば、mā (1 声), má (2 声), mǎ (3 声), mà (4 声), ma (轻声) というように表記される。)

- (21) 花瓶 碎 suì 了 是 因为 他 用 花瓶 打 dǎ 了 人。

(花瓶 壊れる PERF は ために 彼 で 花瓶 打つ PERF 人)

「花瓶が割れたのは、彼がそれで人を殴ったためだ」

(朱茜 2017a: 15)

- (21') 他 打 dǎ 碎 suì 了 花瓶。

(彼 打つ+碎ける PERF 花瓶)

「彼は花瓶を打ち砕いた」

(朱茜 2017a: 15)

- (22) 他 把 貼 在 牆上的紙 揭 jiē 了 , 牆上 写 的 字
 (彼 前置詞 貼る に 壁の紙 はずす PERF 壁 書く の 文字
 就 露 lù 出来 了
 すぐ 露出 PST)

「彼が壁に貼った紙をはずしたあと、壁に書いた文字はすぐ露出した」

(朱茜 2017a: 15)

- (22') 他 揭 jiē 露 lù 了 这次 事件 的 真相。
 (彼 暴く+出す PERF 今回 事件 の 真相)
 「彼はこの事件の真相を暴き出した」

(朱茜 2017a: 15)

朱茜 (2017a) では、中国語の「動詞+動詞」型複合動詞の声調は交替しないことを指摘した(例 (23))。本論文では、中国語の 2 つの動詞が「動詞+動詞」型複合動詞に複合するとき、動詞の声調が交替する場合もあることを新たに指摘する(例 (24))。

- (23) 掉落 : diào + luò > diàoluò
 栽种 : zāi + zhòng > zāizhòng
 保存 : bǎo + cún > bǎocún
 讲完 : jiǎng + wán > jiǎngwán
 打碎 : dǎ + suì > dǎsuì
 扯断 : chě + duàn > chěduàn

- (24) 答应 : dā + yìng > dāying
 打扮 : dǎ + bàn > dǎban
 打量 : dǎ + liáng > dǎliang
 打算 : dǎ + suàn > dǎsuan

例 (24) が示すように、動詞“答”「答える」の声調は 1 声 dā であり、動詞“应”「応ずる」の声調は 4 声 yìng である。「動詞+動詞」型複合動詞“答应”「答える」になるとき、後項動詞“应”「応ずる」の声調が変わり、軽声 ying と交替する。「動詞+動詞」型複合動詞“打扮”「化粧する」「打量」「(人の身なりや姿を) 観察する」「打算」「考える」では、「動詞+動詞」型複合動詞になるとき、後項動詞の声調は元々の声調が軽声と交替する。

中国語の「動詞+動詞」型複合動詞において、声調の交替をしない場合もあるし、交替

する場合もある。交替する場合には、後項動詞の声調が軽声と交替する。

2.4.2 形態から見た日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照

本節では、「動詞＋動詞」型複合動詞の形態に注目し、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の相違点を分析する。

日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞は「動詞連用形＋動詞活用形」という構造であり、中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞は「動詞＋動詞」という構造である。

(25) 押入れから座布団を引き出す。

(26) ここで息を吐き終わる。

(27) 選手は走り込んだ。

(『カラダ引き締め脂肪を燃やす斎藤陽子さんのプチダンベル』)

(28) 闇の中に、しんと降り続く雪だけが見えた。

(『夜ごとの闇の奥底で』)

例文 (25)(26) では、「動詞＋動詞」型複合動詞「引き出す」「吐き終わる」は動詞の連用形「引き」「吐き」と動詞の終止形「出す」「終わる」と複合して構成する。例文 (27) の「動詞＋動詞」型複合動詞「走りこんだ」は動詞の連用形「走り」と動詞の過去形「込んだ」で構成される。例文 (28) では、「動詞＋動詞」型複合動詞「降り続く」は動詞の連用形「降り」と動詞の連体修飾形「続く」から構成される。すなわち、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞は「動詞連用形＋動詞活用形」という構造で構成される。

(29) 这项 中国 的 传统技艺 早已 失传。

(この 中国 の 伝統工芸 すでに 失う＋伝授する)

「中国のこの伝統工芸の伝承がすでにとだえた」

(30) 这间 房 到期 不 能 续租。

(この 部屋 期限になると NEG できる 続ける＋借りる)

「この部屋は期限になると借り続けられない」

(31) 他 在 院子 里 栽种 了 一棵 苹果树。

(彼 に 庭 中 植える＋植える PERF 一本 リンゴ樹)

「彼は庭に一本のリンゴ樹を植えた」

(32) 他 终于 在 下班 前 说完 了。

(彼 やっと に 仕事が終わる 前 話す+終わる PERF)

「彼はやっとあがる前に言い終わった」

(33) 他 推倒 了 小李。

(彼 押す+倒す PERF 李さん)

「彼は李さんを押し倒した」

例文 (29) の「動詞+動詞」型複合動詞“失传”「伝承がとだえる」は動詞“失”「失う」と動詞“传”「伝承する」から構成される。例文 (30) でも同様に、動詞“续”「続く」と動詞“租”「賃貸する」が組み合わさって「動詞+動詞」型複合動詞“续租”「借り続ける」を構成する。例文 (29)~(33) が示すように、中国語の「動詞+動詞」型複合動詞はすべて2つの動詞が組み合わさって構成される。

2.4.3 構成原則から見た日本語と中国語の「動詞+動詞」型複合動詞の対照

本節では、2つの動詞が「動詞+動詞」型複合動詞に構成する時の構成原則に注目し、日本語と中国語の「動詞+動詞」型複合動詞の相違点を分析する。

日本語の動詞は他動詞と自動詞に分類される。自動詞はさらに、非対格自動詞²と非能格自動詞³に分けられる。2つの動詞が「動詞+動詞」型複合動詞になるとき、「他動性調和の原則」に従う。

朱茜 (2017a) は影山 (1993) を踏まえ、日本語の「動詞+動詞」型複合動詞の構成について、前項動詞と後項動詞の複合が「他動詞調和の原則」に従い、同時に、前項動詞と後項動詞が「並列関係、右側主要部の関係、補文関係」という意味関係にも従うと述べている。

(34) 分からないから何回も聞き直す。

(35) 彼はあちこち歩き回る。

(36) 壁が崩れ落ちた。

例文 (34) では、「聞く」は他動詞であり、「直す」も他動詞である。「動詞+動詞」型複合動詞「聞き直す」は2つの他動詞で構成される。例文 (35) では、「歩く」は非能

² 意味的には意図的に動作を行う動作主 (Agent) を主語に取る自動詞が非能格、意図を持たず受動的に事象に係わる対象 (Theme) を主語に取る自動詞が非対格自動詞である (影山 1993: 43)。

³ 自他動詞の文では、主語の部分は動作主という意味役割において共通している。同じ意味役割は構造上も同じ位置で表されるとすると、動作主を主語に取る自動詞を非能格自動詞と呼ぶ (影山 1993: 43)。

格自動詞であり、「回る」も非能格自動詞である。「動詞＋動詞」型複合動詞「歩き回る」は2つの非能格自動詞で構成される。例文(36)では、「崩れる」は非対格自動詞であり、「落ちる」も非対格自動詞である。「動詞＋動詞」型複合動詞「崩れ落ちる」は2つの非対格自動詞で構成される。上述の例から見ると、同じ種類の動詞が組み合わせあって「動詞＋動詞」型複合動詞になれる。

(37) 選挙演出のあることを町内に触れ回る。

(38) 彼は親を泣き落とした。

例文(37)では、「触れる」は他動詞であり、「回る」は非能格自動詞である。例文(38)では、「泣く」は非能格自動詞であり、「落とす」は他動詞である。「動詞＋動詞」型複合動詞「触れ回る」「泣き落とす」は他動詞と非能格自動詞で構成される。

- (39) 非対格自動詞＋他動詞：*落ち直す、*燃え直す
 他動詞＋非能格自動詞：*洗い落ちる、*切り落ちる
 非対格自動詞＋非能格自動詞：*吹き回る、*落ち回る
 非能格自動詞＋非対格自動詞：*走り落ちる、*踊り落ちる

例(39)から見ると、「落ちる」は非対格自動詞、「直す」は他動詞である。非対格自動詞と他動詞が「動詞＋動詞」型複合動詞を構成できない。また、「吹く」は非対格自動詞であり、「回る」は非能格自動詞である。非対格自動詞と非能格自動詞も、「動詞＋動詞」型複合動詞を構成できない。

また、日本語「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞は並列関係、右側主要部の関係、補文関係という意味関係に従って「動詞＋動詞」型複合動詞になる。

並列関係：「思い描く」「思い煩う」「忌み嫌う」「堪え忍ぶ」「驚き呆れる」
 「恐れおののく」「あわてふためく」

右側主要部の関係：「追いかける」「取り組む」「突き放す」「打ち抜く」「飛び抜ける」
 「吹き掛ける」

補文関係：「歌い上げる」「勤め上げる」「震え上がる」「抜け上がる」「行き渡る」「聞き違う」「使い果たす」「言い落す」

(40) その辞世には年のせいか親を恋い慕う心が現れている。

(『幕末暗殺史』)

(41) 期間が差し迫る。

(42) 彼は震え上がる。

例文 (40) では、「動詞＋動詞」型複合動詞「恋い慕う」の前項動詞とも後項動詞とも主要部として働く。すなわち、前項動詞と後項動詞は意味的に対等な2つの要素が並列されている。この場合、「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞は並列関係に従って構成される。例文 (41) では、「動詞＋動詞」型複合動詞「差し迫る」の後項動詞「迫る」は意味的な主要部だけでなく、「動詞＋動詞」型複合動詞「差し迫る」全体の項構造を決定する。このように、後項動詞が「動詞＋動詞」型複合動詞全体の主要部になるとき、前項動詞と後項動詞は右側主要部の関係に従い、「動詞＋動詞」型複合動詞を構成する。例文 (42) の「動詞＋動詞」型複合動詞「震え上がる」では、前項動詞「震え」の項構造がそのまま後項動詞「上がる」に埋め込まれるので、前項動詞と後項動詞は補文関係である。

日本語には、前項動詞と後項動詞が「動詞＋動詞」型複合動詞を構成するとき、「他動性調和の原則」および「並列関係、右側主要部の関係、補文関係」という意味関係に従う。

また、朱茜 (2017a) では、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞と対照し、中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞の複合が「他動性調和の原則」と右側主要部の関係に従わず、並列関係や補文関係に従うと述べている。しかし、中国語において、「動詞＋動詞」型複合動詞になるとき、前項動詞と後項動詞は並列関係、補文関係の意味関係だけでなく、右側主要部の関係という意味関係に従うこともある。

(43) 他 一直 在 那里 哭喊 着。

(彼 ずっと に そこ 泣く＋叫ぶ CONT)

「彼はずっとそこで泣き叫んでいる」

(44) 每 到 周末， 有 好多 孩子 在 公園 里 玩耍。

(毎回 至る 週末 いる たくさん 子ども に 公園 中 遊ぶ＋もてあそぶ)

「週末になると、たくさんの子供が公園に遊んでいる」

(45) 秋天 到 了， 树叶 从 樹 上 飘落 了 下来。

(秋 至る PERF 葉 から 木 上 漂う＋落ちる PERF 方向補語)

「秋になり、葉が木から漂い落ちてきている」

(46) 他 滑倒 了。

(彼 滑る＋倒れる PERF)

「彼は滑って転んだ」

(47) 我 吃饱 了。

(私 食べる＋満腹する PERF)

「私はおなかがいっぱいになった」

(48) 他 把 衣服 洗完 了。

(彼 前置詞 服 洗う＋終わる PERF)

「彼は服を洗い終わった」

例文 (43)(44) では、「動詞＋動詞」型複合動詞“哭喊”「泣き叫ぶ」「玩耍」「遊ぶ」の前項動詞と後項動詞が意味的に対等であり、前項動詞とも後項動詞とも主要部である。換言すると、前項動詞と後項動詞は並列関係である。例文 (45) では、「動詞＋動詞」型複合動詞“飘落”「漂いながら落ちる」の後項動詞“落”「落ちる」は意味的な主要部であり、前項動詞“飘”「漂う」は「葉が落ちる」の様態を描写する。前項動詞“飘”「漂う」は後項動詞“落”「落ちる」を修飾し、「動詞＋動詞」型複合動詞“飘落”「漂いながら落ちる」は右側主要部の関係に従い構成される。例文 (46) の「動詞＋動詞」型複合動詞“滑倒”「滑って転ぶ」も同様に、後項動詞“倒”「倒れる」は「動詞＋動詞」型複合動詞の意味の中心である。前項動詞“滑”「滑る」は様態を表す。例文 (47) では、「動詞＋動詞」型複合動詞“吃饱”「食べて満腹する」の後項動詞が“饱”「満腹する」は“吃”「食べる」の程度を説明する。この場合、前項動詞と後項動詞は補文関係である。

中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞は「並列関係、補文関係」だけではなく、「右側主要部の関係」も複合の重要な手段である。

2.4.4 文法から見た日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照

姫野 (1999: 5) では、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞の否定形式について、語彙的複合動詞でも統語的複合動詞でも、否定「ない」は前項動詞と後項動詞の間に挿入できず、「飛び出さない」「送り届けない」のように後項動詞の後ろのみに付くと指摘している

(49) 兔が穴から飛び出す。

(49')*兔が穴から飛び-ない-出す。

日本語の語彙的複合動詞でも統語的複合動詞でも、否定「ない」だけではなく、ほかの

要素も挿入できない。

(50) 大声で泣き叫ぶ娘を突き放した。

(『帰って来た木枯し紋次郎』)

(50') *大声で泣き-は-叫ぶ娘を突き放した。

(51) 真剣にやりはじめると、つらいところも通らなければなりません。

(51') *真剣にやり-は-はじめると、つらいところも通らなければなりません。

*真剣にやり-ないで-はじめると、つらいところも通らなければなりません。

*真剣にやら-ずに-はじめると、つらいところも通らなければなりません

(52) とにかく、荔枝を食べ過ぎると熱気にあたっのどが痛くなるとされている。

(『香港・広州菜遊記』)

(52') *とにかく、荔枝を食べ-そう-過ぎると熱気にあたっのどが痛くなるとされている。

日本語と異なり、中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞において、前項動詞と後項動詞の間に要素を挿入できる場合があるし、要素を挿入できない場合もある。

(53) 我们 推荐 他 做 下一任 会长。

(私たち 勧める＋挙げる 彼 なる 後任 会長)

「私たちは彼を後任の会長に推す」

(53') *我们推-是-举他做会长。

(54) 他 改造 了 自己 的 房子。

(彼 改める＋築く PERF 自分 の 家屋)

「彼は自分の家屋を作り直した」

(54') *他改-的-造了自己的房子。

(55) 他 出卖 了 我。

(彼 出す＋売る PST 私)

「彼は私を裏切った」

(55') *他出-不-卖了我。

例文 (53') では、「動詞＋動詞」型複合動詞“推举”「推す」では、前項動詞と後項動詞の間に助詞“是”「は」を挿入することはできない。例文 (54') (55') でも同様に、「動詞＋動詞」型複合動詞“改造”「改築する」と“出卖”「裏切る」では、助詞“是”「は」、「不」「ない」は挿入できない。

中国語には、「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞の間に、他の文法要素が挿入できる場合も存在している。否定を表す“不”「ない」を例として説明する。

(56) 他 读完 了 那 本 书。

(彼 読む＋終わる PERF その 冊 本)

「彼はその本を読み終わった」

(56') 他 读-不-完 那 本 书。

(彼 読む NEG 終わる その 冊 本)

「彼はその本を読み終わらない」

(57) 我 听懂 了 他 说 的 话。

(私 聞く＋わかる PERF 彼 話す の 話)

「私は彼の話を聞いてわかった」

(57') 我 听-不-懂 他 说 的 话。

(私 聞く NEG 分かる 彼 話す の 話)

「私は彼の話を聞いて理解できない」

例文 (56') と (57') から見ると、「動詞＋動詞」型複合動詞“读完”「読み終わる」と“听懂”「聞いて分かる」では、前項動詞と後項動詞の間に、否定を表す“不”「ない」を挿入できる。

中国語には、前項動詞と後項動詞の間に、文法要素が挿入できないのは語彙的複合動詞であり、文法要素が挿入できるのは統語的複合動詞である。(日本語と中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の相違点について、第3章で詳しく説明する。)

2.5 本章のまとめ

本章では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の音韻的・形態的・文法的な特徴を分析し、日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞の相違点をまとめた。

日本語の「動詞＋動詞型」複合動詞の特徴を対照することで、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の相違点を[表 1]のようにまとめる。

[表 1] 日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の対照

		日本語	中国語
音韻	休止	前項と後項の間には休止がない	前項と後項の間には休止がない
	アクセント・声調	1つのアクセントにまとまる	声調が交替しない場合と後項動詞の声調が軽声に交替する場合がある
形態		動詞連用形＋動詞活用形	動詞＋動詞
構成原則		他動性調和の原則に従う	他動性調和の原則に従わない
		並列関係、右側主要部の関係、補文関係	並列関係、右側主要部の関係、補文関係
文法		前項動詞と後項動詞の間には文法的な要素が入れない	語彙的複合動詞では文法的な要素が入れない・統語的複合動詞では文法的な要素が入れる

[表 1]が示すように、日本語にも、中国語にも、「動詞＋動詞」型複合動詞は、「並列関係、右側主要部の関係、補文関係」という意味関係に従い構成されるし、前項動詞と後項動詞の間に休止が挿入できない。しかし、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞は意味関係の原則だけでなく、「他動性調和の原則」も「動詞＋動詞」型複合動詞構成の重要な原則である。

また、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞は、形態的には「動詞連用形＋動詞活用形」という形式で構成される一語であり、音韻的には元のアクセントが変わり、1つのアクセントにまとまり、前項動詞と後項動詞の間に文法的要素が入れないという特徴がある。

一方、中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞は、形態的には2つの動詞で構成され、音韻的には声調の交替をしない場合もあるし、交替する場合もある。交替する場合には、後項動詞の声調が軽声と交替する。文法的には語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の間に文法要素が挿入できず、統語的複合動詞の前項動詞と後項動詞の間に文法要素が挿入できないという特徴がある。

第3章 語彙的複合動詞と統語的複合動詞の対照

影山 (1993, 2013) では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞を語彙的複合動詞と統語的複合動詞に分けている。本章では、日本語と中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞を研究対象とする。「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞の間の文法関係および意味関係に注目し、日本語と中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の相違点に言及する。

3.1 はじめに

影山 (1993: 75) では、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞を「語彙的複合動詞」と「統語的複合動詞」に分けている⁴。例えば、「探し歩く」「選び取る」は語彙的複合動詞であり、「しゃべり続ける」「食べ終わる」は統語的複合動詞である。

- (1) 行方不明の子供を探し歩いた。
- (2) 彼は畑から熟したブドウを選び取った。
- (3) 彼はしゃべり続ける。
- (4) 太郎はご飯を食べ終わった。

日本語の動詞＋動詞型複合動詞に2種類が存在するのと同様に、現代中国語にも、“拒绝”「断る」「参观」「見学する」のような語彙的複合動詞と、“吹断”「吹いて折る」「吃完」「食べ終わる」のような統語的複合動詞が存在している。

- (5) 他 拒绝 了 所有 的 邀请。
(彼 拒む＋絶つ PERF すべて の ご馳走)
「彼はすべてのご馳走を断った」

- (6) 我们 今天 参观 工厂。
(私たち 今日 参加する＋見る 工場)
「今日、私たちは工場を見学する」

⁴ 影山 (1993)、陳勍憚 (2013)、由本 (2013, 2018)、何志明 (2001, 2002b)、木戸 (2018) などでは、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞について、語彙的複合動詞と統語的複合動詞という用語を用いている。田辺 (1995)、宮内 (1989)、平澤 (2006)、寺村 (1969) などでは、語彙的複合動詞と統語的複合動詞という用語を使わない (例えば、田辺 (1995) では、日本語の語彙的複合動詞を「意義素融合型」と呼び、統語的複合動詞を「文法化型」と呼ぶ)。また、朱茜 (2017a, 2017b) は、中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞について、語彙的複合動詞と統語的複合動詞という用語をはじめて用いた。

(7) 風 吹断 了 树枝。

(風 吹く＋折れる PERF 枝)

「風が枝を折った」

(8) 他 吃完 了 所有 的 苹果。

(彼 食べる＋終わる PERF すべて の リンゴ)

「彼はすべてのリンゴを食べ終わった」

本章では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞における語彙的複合動詞と統語的複合動詞を研究対象とし、否定のスコープ、副詞修飾のスコープという文法的な側面、および前項動詞と後項動詞の意味的關係という意味的な側面に注目しながら、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違いを検討する。

3.2 節では日本語と中国語において、語彙的複合動詞と統語的複合動詞に関する先行研究を概観する。3.3 節では、副詞修飾のスコープ、前項動詞と後項動詞の意味關係に注目し、日本語には、語彙的複合動詞と統語的複合動詞が文法上・意味上の相違点を分析する。3.4 節では、否定文に否定マーカー“没”の否定スコープ、副詞修飾のスコープ、および、前項動詞と後項動詞の意味關係に着目し、中国語には、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の相違点を考察する。3.5 節では、3.3 節と 3.4 節に述べた語彙的複合動詞と統語的複合動詞が文法上・意味上の特徴を対照し、日本語と中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の相違点を明らかにする。

3.2 日本語と中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞に関する先行研究の分類

本節では、日本語と中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞に関する先行研究を概観し、その中に存在している問題点を提出する。

3.2.1 日本語の語彙的複合動詞に関する先行研究

日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞に関する先行研究が多い。日本語の語彙的複合動詞に関する先行研究は、松本 (1998)、由本 (2005, 2013)、新美・山浦・宇津野 (1987)、日高 (2012, 2013)、何志明 (2001, 2002a, 2002b)、陳劭憚 (2013) などがある。

松本 (1998)、由本 (2005, 2013) では、日本語の語彙的複合動詞を前項動詞と後項動詞の意味的關係による並列關係、手段、付帯・様態、因果關係、補文關係に分けている。

影山 (2013) では、松本 (1998)、由本 (2005, 2013) が提出した 5 種類の意味關係を再編成し、「主題關係」と「アスペクト」に分けている。

新美・山浦・宇津野 (1987) では、日本語の語彙的複合動詞「V＋出す」の意味を研究

している。新美・山浦・宇津野 (1987) では、日本語「V+出す」は「ウチの領域からソトの領域に出現する」と「内から外への移行の過程で、ある新しい事態・現象が出現する」という意味を持つことを指摘している。

日高 (2012: 119) では、日本語には、「複合他動詞が自動詞化するための必要条件は、V1、V2 双方が使役変化他動詞である」と主張している。

3.2.2 日本語と中国語の統語的複合動詞に関する先行研究

(i) 日本語の統語的複合動詞に関する先行研究

日本語の統語的複合動詞に関する先行研究は、木戸 (2018)、橋本 (2003)、大野 (2018)、谷内 (2012)、史曼(2015)、廖紋淑 (2006)、板東・日高 (2015)、長谷部 (2013) などがある。

大野 (2018) では、日本語の統語的複合動詞を後項動詞 V2⁵の上昇動詞⁶とコントロール動詞により 2 種類に分けている。

板東・日高 (2015) では、統語的アスペクト補助動詞「-かけ」の意味機能に注目し、「統語的アスペクト補助動詞「-かけ」が接辞する動詞の種類とそれぞれ接辞の結果生じる様々なアスペクト的意味を持つ。瞬間の到達動詞と付加すると、その出来事開始の直前を描く。漸増／漸減の主語をもつ到達動詞、活動動詞、達成動詞と付加すると、出来事／行為の開始直前と直後の曖昧性が生じる」と述べている。

廖紋淑 (2006) では、終了を表す複合動詞「-終わる」は継続動詞と組み合わせさせて、前項動詞の動作の終了を表すし、瞬間動詞と組み合わせるとき、前項動詞の動作の変化を表すと述べている。

陳劭憚 (2009)では、日本語の結果複合動詞をさらに「手段複合動詞」と「因果関係複合動詞」⁷に分けている。

陳劭憚 (2009: 91) では、「結果複合動詞語形成の意味条件：V1 は結果を生起させることなく、V2 の結果が生起するまで、継続的事象に解釈されうる必要がある」と指摘している。

(ii) 中国語の統語的複合動詞に関する先行研究

中国語の統語的複合動詞についての研究は、陳劭憚 (2009)、望月 (1990b)、望月・申亜敏 (2006, 2011)、崔玉花 (2013)、木村 (2006)、濱口 (2017)、于一樂 (2015)、曾若涵 (2016)、ヤーホントフ (1987) などがある。その中に、主に結果複合動詞を中心に研究している。

結果複合動詞について、木村 (2003)、曾若涵 (2016)、于一樂 (2015)、陳劭憚 (2009)

⁵ 大野 (2018: 95) では、日本語の複合動詞の前項動詞を前部動詞、後項動詞を後部動詞と呼ぶ。

⁶ 大野 (2018) では、上昇(Raising)動詞は非対格動詞を指す。

⁷ 陳劭憚 (2009: 83) では、「手段複合動詞」は「V1 することによって、V2」であり、「因果関係複合動詞」は「V1 の結果、V2」ということを指す。

などには説明している。

木村 (2003: 55) によれば、「動作とその動作によって（直接、間接に）引き起こされた結果を表す複合動詞」は結果複合動詞である。

曾若涵 (2016:47) によれば、「動補型複合動詞は、「V1+V2」という形式で表示し、V1 は動作・行為を表し、V2 は V1 が引き起こした状態変化または結果を表す」と述べている。

于一樂 (2015: 35) によれば、中国語の結果複合動詞は「行為などを表す前項動詞と、前項動詞が表す行為などから得られる結果を表す後項動詞から形成される」ことを指す。

陳劭憚 (2009) によれば、「結果複合動詞とは、意味上後項動詞 (V2) が前項動詞 (V1) の結果」を表すものである。

Li and Thompson (1981: 54-55) によれば、結果複合動詞とは "A two-element verb compound is called a resultative verb compound if the second element signals some result of the action or process conveyed by the first element" のように説明される。

ヤーホントフ (1987: 134) では、「中国語においては、合成動詞であってふたつの部分からなり、第 1 部分が動作を表わし、第 2 の部分が、その結果—つまり、第 1 の動作の結果として現われる性質や動作—を表わすものがある」と述べている。

望月 (1990a) では、中国語の結果複合動詞を「主語指向型（「歩き疲れる」）、目的語指向型（「叱って泣かせる」）、動詞語幹指向型（「食べ終わる」）、有標型（「酔っ払う」）」に分類している。

望月・申亜敏 (2006) では、中国語結果を表す複合動詞について、「述補式複合動詞において、意味の中心は、結果事象を表す後項動詞であり、結果事象のおける参加者は、必ず、複合動詞の全体の項として、Theme/Experiencer/Patient という意味役割を担って具現化する」と述べている。

(iii) 日本語と中国語の統語的複合動詞の対照に関する先行研究

望月・申亜敏 (2011) では、日本語においては、主語補文関係⁸で構成される主語補文型複合動詞と目的語補文関係で構成される目的語補文型複合動詞があり、中国語においては、主語補文関係で構成される主語補文型複合動詞しか存在しないと述べている。

崔玉花 (2013) では、日本語と中国語の結果複合動詞の共通点と相違点を考察している。崔玉花 (2013: 22) では「日本語と中国語の結果複合動詞は、前項で原因となる動作を表し、後項でその結果を表すという意味構造をもつという点で共通する」と述べている。

さらに、崔玉花 (2013: 26) では、「中国語の結果複合動詞は「他動性調和の原則」と

⁸ 主語補文関係とは、複合動詞における前項動詞と後項動詞は「主語節+動詞」という統語構造で構成され、前項動詞が後項動詞（主動詞）の主語節である関係を指す（望月・申亜敏 2011: 15）。

「主語一致の原則」に従わない」、また「主要部素性浸透公約」⁹に基づいて体系的に捉えた。日本語では後項動詞が複合動詞の主語とのみ意味関係をもつのに対し、中国語では主語とも目的語とも意味関係をもつことができる」と述べている。

3.2.3 語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違いに関する先行研究

語彙的複合動詞と統語的複合動詞の相違点を研究する先行研究は、岳莎莎・吉田 (2010)、影山 (1993) などがある。

岳莎莎・吉田 (2010) では、日本語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞を区別し、日本語の複合動詞は「二つの動詞は形態的に緊密に結びついて、さらに意味の習慣化と語彙的な結合制限を備えている」、一方統語的複合動詞は「意味の透明性と生産性において、典型的な語よりもむしろ普通の文や句に近い性質を備えている」と説明している (岳莎莎・吉田 2010: 60)。

また、岳莎莎・吉田 (2010: 61) によれば、語彙的複合動詞は 1 つの語であり、統語的複合動詞は形態的に 1 つの語として融合したが、統語的に 2 つの別々の動詞がそれぞれ独立した動詞である。

そして、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違いについて、影山 (1993: 174-175) では、語彙的複合動詞は語彙部門で、統語的複合動詞は統語部門で派生し、「語彙的な複合動詞は全体として D 構造で挿入されるわけであるから、一語としてのまとまりが形態面だけでなく項構造についても要求される。(中略) 統語的な複合動詞は D 構造においては各々の構成員が独自の投射を成し、従って、受身化の可能性は V2 によって決定されることになる」と述べている。

3.2.4 先行研究の問題点

日本語と中国語の先行研究を概観し、日本語と中国語の対照研究が少なめであり、研究の対象と分析の側面が不全面であるという問題点がある。

多数の研究において、「動詞+動詞」型複合動詞の 1 タイプまたは 1 つの言語に注目し研究を行う。

何志明 (2001) では「原因」の語彙的複合動詞のみ、何志明 (2002a) では「様態・付帯状況」の語彙的複合動詞のみ、木戸 (2018) では統語的複合動詞「V+疲れる」のみ、史曼 (2015) では補文関係複合動詞のみを研究対象とする。岳莎莎・吉田 (2010)、影山 (1993) では日本語のみを考察した。中国語において、語彙的複合動詞に関する研究はほとんど存在しなく、統語的複合動詞に関する研究は結果複合動詞の研究を行っている。崔玉花

⁹ Li (1990,1993) によれば、「主要部素性浸透公約」(Head-feature Percolation) は「複合語における主要部の θ 役割卓越順序の情報が複合語全体の項構造に受け継がなければならない」と指摘している。

(2013) では日本語と中国語の結果複合動詞のみを考察した。

このように1つの研究対象または1つの言語のみに注目すれば、「動詞＋動詞」型複合動詞における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違いを全面的に明らかにすることとは言えない。また、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の相違点を対照するとき、意味上のみ、あるいは、文法上のみに着目すれば、言語類型が異なる日本語と中国語を対照することは不適切であると言える。

本章では、影山 (1993) の生成文法の観点から離れて、主語尊敬語、否定のスコープ、修飾のスコープの文法上の立場、および前項動詞と後項動詞の意味的關係のような意味上・文法上といういろいろな側面に注目し、日本語と中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の相違点を考察する。さらに、日本語と中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の特徴を対照し、両言語の相違点に言及する。

3.3 日本語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い

本節では、主語尊敬語、副詞による修飾スコープ、および、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞における前項動詞と後項動詞の意味的關係に着目し、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法的・意味的な相違点を明らかにする。3.3.1 節では、助詞の挿入・副詞修飾のスコープから語彙的複合動詞と統語的複合動詞を考察し、3.3.2 節では、前項動詞と後項動詞の意味關係から語彙的複合動詞と統語的複合動詞を対照する。

影山 (2013: 3-4) では、影山 (1993) を踏まえ、日本語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞について、以下のように定義を行っている。

語彙的複合動詞：

後項動詞 (V2) が直接、前項動詞 (V1) の連用形に結合する。すなわち、2つの語彙範疇が直接的に複合であるという点で「語彙的」である。

統語的複合動詞：

V2 は、直接、V1 の連用形に付くのではなく、V1 を主要部とする補文 (幾つかのレベルの動詞句) を取る。すなわち、統語的な句に付くという点で「統語的」である。

影山 (2013: 3-4)

3.3.1 日本語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法的違い

姫野 (1999: 5)、朱茜 (2017b) では、日本語複合動詞の否定形式について、語彙的複合動詞でも統語的複合動詞でも、否定「ない」は前項動詞と後項動詞の間に挿入できないと説明している。本章では、日本語の複合動詞の否定形式を検討しない。

影山 (1993) では、日本語において、語彙的複合動詞と異なり、統語的複合動詞の前項動詞は、代用形「そうする」、主語尊敬語、受身形、サ変動詞、重複構文に置き換えることを記述している。本節では、影山 (1993) を踏まえ、複合動詞の主語尊敬語の形態、代用形「そうする」の置き換え、受身形と副詞の修飾スコープに着目し、日本語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法的な違いを考察する。

(9) 語彙的複合動詞：a. 書類を受け取る。

b. 書類をお受け取りになる。

c. *書類をお受けになり取る。

統語的複合動詞：a. 彼女は歌を歌い始める。

b. 彼女は歌をお歌い始めになる。

c. 彼女は歌をお歌いになり始める。

例文 (9) のように、語彙的複合動詞「受け取る」の全体が主語尊敬語「お受け取りになる」になることができるが、前項動詞「受ける」のみが主語尊敬語の形式「お受けになる」ことができない。一方、統語的複合動詞「歌い始める」の前項動詞「歌う」のみが主語尊敬語「お歌いになる」ことができる。

(10) 語彙的複合動詞：泣き叫ぶ—*お泣きになり叫ぶ、

押し開く—*お押しになり開く、

受け継ぐ—*お受けになり継ぐ、

売り払う—*お売りになり払う、

沸き立つ—*お沸きになり立つ、

聞き返す—*お聞きになり返す

統語的複合動詞：走りぬく—お走りになりぬく、

笑い続ける—お笑いになり続ける、

助け合う—お助けになり合う、

動き出す—お動きになり出す、

調べ始める—お調べになり始める、

(11) 語彙的複合動詞：*太郎は泣き叫ぶ。次郎もそうし叫ぶ。

統語的複合動詞：太郎は宿題を書き終わった。次郎もそうし終わった。

例文 (11) のように、語彙的複合動詞「泣き叫ぶ」の前項動詞は代用形「そうする」に置き換えないが、統語的複合動詞「書き終わる」の前項動詞は代用形「そうする」に置き換える。

(12) 語彙的複合動詞：押し開ける—*そうし開ける、持ち去る—*そうし去る
飛び上がる—*そうし上がる、飲み歩く—*そうし歩く
話しかける—*そうしかける

統語的複合動詞：出し忘れる—そうし忘れる、数え直す—そうしなおす、
読み始める—そうし始める、登り切る—そうし切る、
調べ終わる—そうし終わる

例文 (13) が示すように、日本語において、語彙的複合動詞の前項動詞のみが受身形にならず、統語的複合動詞の前項動詞のみが受身形になれる。

(13) 語彙的複合動詞：聞き取る—*聞かれ取る、買い取る—*買われ取る、
飛び上がる—*飛ばれ上がる、飛び込む—*飛ばれこむ、
解き放す—*解かれ放す、泣き叫ぶ—*泣かれ叫ぶ

統語的複合動詞：聞き直す—聞かれ直す、食べ始める—食べられ始める、
読み終わる—読まれ終わる、書き続ける—書かれ続ける、
歌い終わる—歌われ終わる、走り込む—走られこむ

また、語彙的複合動詞と統語的複合動詞は副詞に修飾される場合、修飾されるスコープも異なる。以下では により副詞成分を提示する。

語彙的複合動詞：

- (14) 私はついに聞き取った。
(15) 今年 5 歳なる女の子だけど、たまに泣き叫ぶよ。
(16) 学生時代をふと思い出した。

統語的複合動詞：

- (17) 論文をついに書き終わった。
(18) たまに食べ過ぎても太らない。
(19) 二人は同時に書き終わった。

例文 (14) では、副詞「つい」は語彙的複合動詞「聞き取る」を修飾するとき、語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の両方とも修飾する。例文 (15) では、副詞「たまに」は前項動詞「泣く」と後項動詞「叫ぶ」を両方とも修飾する。例文 (16) でも、副詞「ふと」は語彙的複合動詞「思い出す」全体を修飾する。ただし、例文 (17) では、副詞「つい」は統語的複合動詞「書き終わる」を修飾するとき、後項動詞「終わる」しか修飾しない。例文 (18) では、副詞「たまに」統語的複合動詞「食べ過ぎる」の後項動詞「過ぎる」のみを修飾する。例文 (19) では、副詞「同時に」は統語的複合動詞「書き終わる」の後項動詞「終わる」のみを修飾し、「同時に終わる」という意味である。

また、副詞は統語的複合動詞の前項動詞のみを修飾する場合も存在している。

統語的複合動詞：

(20) 彼は本を丁寧に読み過ぎる。

(21) 電車は突然動き始める。

(22) 雨がいきなり降りだす。

例文 (20) では、副詞「丁寧に」は統語的複合動詞「読み過ぎる」の前項動詞「読む」を修飾できるし、後項動詞「過ぎる」も修飾できる。例文 (21) では、副詞「突然」は前項動詞「動き」のみを修飾することができる。同様に、例文 (22) では、副詞「いきなり」は前項動詞「降る」を修飾できる。

日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞では、文中の副詞は、語彙的複合動詞全体を修飾し、一部分だけを修飾することができず、統語的複合動詞を修飾するとき、複合動詞の一部分のみを修飾することができる。

上述の例文から見ると、日本語には、語彙的複合動詞の前項動詞のみを主語尊敬の形・受身形にならず、前項動詞のみが代用形「そうする」に置き換えなくて、複合動詞全体を副詞に修飾される。一方の統語的複合動詞では、前項動詞のみを主語尊敬の形・受身形になり、前項動詞のみが代用形「そうする」に置き換えて、前項動詞または後項動詞のみを副詞に修飾される可能性がある。

3.3.2 日本語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の意味的違い

松本 (1998)、由本 (2005, 2013) は、日本語の語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞には並列関係、手段、付帯・様態、因果関係、補文関係という 5 種類の意味的關係があると指摘している。本節では、「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味的關係に着目し、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の意味的な違いを考察する。筆者は松本

(1998)、由本 (2005, 2013) を踏まえ、前項動詞と後項動詞の意味関係を並列関係、手段、様態、因果関係、補文関係に分けられる。

(A) 並列関係：

語彙的複合動詞：

- (23) 別れた母を恋い慕う。
- (24) 彼は競い事を忌み嫌う。
- (25) 子供が泣きわめている。
- (26) 私は恐怖に恐れおののく。

例文 (23)~(26) の「動詞+動詞」型複雑述語「恋い慕う」「忌み嫌う」「泣きわめく」「恐れおののく」は語彙的複合動詞である。例文 (23) では、前項動詞の「恋う」の意味と後項動詞の「慕う」の意味が似ている。前項動詞「恋う」と後項動詞「慕う」の立場が対等である。例文 (24) の前項動詞「忌む」と後項動詞「嫌う」の意味が対立であるが、意味的に対等な関係を持つ。例文 (25) では、前項動詞「泣く」と後項動詞「喚く」が表す動作が同時に行い、前項動詞と後項動詞の意味関係は並列関係である。例文 (26) でも同様に、前項動詞「恐れる」と後項動詞「おののく」の意味関係は並列関係である。

(B) 手段：

語彙的複合動詞：

- (27) そこからが勝負で、こっちが正論だから言い負かす。

(『北海道新聞』2003/10/18)

- (28) 彼は棒でそのガラスを叩き壊す。
- (29) 彼女はその重いドアを押し開ける。
- (30) 太郎はそのかわいいウサギの毛をむしり取る。

例文 (27)~(30) の「動詞+動詞」型複雑述語「言い負かす」「叩き壊す」「押し開ける」「むしり取る」は語彙的複合動詞である。例文 (27) の語彙的複合動詞「言い負かす」では、「負かす」という事態は「言う」によって実現する。前項動詞「言う」は後項動詞「負かす」の手段を表す。例文 (28)(29)(30) も同様に、前項動詞「叩く」「押す」「むしる」は手段を表し、「叩くことによってガラスを壊す」「押すことによってドアがあげる」「むしることによってウサギの毛を取る」という意味であり、前項動詞が表す動作により、後項動詞が表す動作が実現する。

(C) 様態：

語彙的複合動詞：

- (31) 毎晩酒を飲み歩くようになった。
- (32) 私は泥沼から這い上がる。
- (33) 彼女は毎日泣き暮らしている。
- (34) 彼は階段から転げ落ちる。

例文 (31) の語彙的複合動詞「飲み歩く」では、「あちこちの店をまわって飲みながら歩く」という歩く様態を表す。つまり前項動詞「飲む」は後項動詞「歩く」の様態を表す。例文 (32)~(34) の語彙的複合動詞においても、前項動詞は後項動詞の様態を描写する。例文 (32) の語彙的複合動詞「這い上がる」は「這いながら泥沼から上がる」という意味であり、例文 (33) では「彼女は毎日泣きながら暮らしている」ように様態で暮らすことを表す。例文 (34) では、階段から落ちる様態は「ころころと回転しながら落ちる」である。

(D) 因果関係：

語彙的複合動詞：

- (35) 町中が寝静まった。
- (36) 犬の毛が抜け落ちていた。
- (37) 彼は一人で泣きぬれた。
- (38) 田中さんは飲みつぶれた。

例文 (35)~(38) の「動詞＋動詞」型複雑述語「寝静まる」「抜け落ちる」「泣きぬれる」「飲みつぶれる」は語彙的複合動詞である。例文 (35) の語彙的複合動詞「寝静まる」では、「人々が眠ったので町中が静かになる」ことを表す。前項動詞の「寝る」は後項動詞「静まる」の原因を表す。例文 (36)~(38) では、前項動詞は原因を表し、後項動詞はその結果を表す。前項動詞と後項動詞は因果関係により構成される。

(E) 補文関係：

語彙的複合動詞：

- (39) 私は、慌てていたので相手の名前を聞き落とした。
- (40) 空がすっきり晴れ渡った。
- (41) 店員は、客の名前をうっかり聞き漏らした。
- (42) 私は小説を読みさして、眠ってしまった。

例文 (39)~(42) の「動詞＋動詞」型複雑述語「聞き落とす」「晴れ渡る」「聞き漏らす」

「読みさす」は語彙的複合動詞である。例文 (39) の語彙的複合動詞「聞き落とす」は、「名前を聞くべきときに聞かない」という意味であり、「名前を聞く」全体が後項動詞「落とす」の動作対象である。つまり後項動詞「落とす」の意味は前項動詞「聞く」によって満たされる。例文 (40)~(42) の語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係も補文関係である。

日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞において、語彙的複合動詞だけでなく、統語的複合動詞の前項動詞と後項動詞にも補文関係に従い構成される。

統語的複合動詞：

(43) 彼は歌を歌い終わった。

(44) 雨が降り続ける。

(45) 花子ちゃんは宿題を書き始めた。

例文 (43)~(45) の「動詞＋動詞」型複雑述語「歌い終わる」「降り続ける」「書き始める」は統語的複合動詞である。例文 (43) の統語的複合動詞「歌い終わる」でも、「歌を歌う」全体が後項動詞「終わる」の動作対象である。後項動詞「終わる」の意味も前項動詞「歌う」によって満たされる。つまり前項動詞と後項動詞の間の意味関係は補文関係である。

日本語の複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味的關係についてまとめると、語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味的關係には並列関係、手段、様態、因果関係、補文関係の5種類があるが、統語的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味的關係は補文関係しかない。

3.3.3 日本語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い

日本語において、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法的特徴・前項動詞と後項動詞の意味関係の違いを[表 2]のようにまとめる。

[表 2] 日本語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い

	語彙的複合動詞	統語的複合動詞
文法的 特徴	前項動詞のみを主語尊敬不可	前項動詞のみを主語尊敬可能
	副詞は複合動詞全体を修飾	副詞は前項動詞または後項動詞のみを修飾
意味 関係	前項動詞と後項動詞の意味的關係： 並列関係、手段、様態、因果関係、 補文関係	前項動詞と後項動詞の意味的關係： 補文関係

[表 2]が示すように、日本語の語彙的複合動詞には、前項動詞のみを主語尊敬語にならず、副詞は語彙的複合動詞全体を修飾する。語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係は並列関係、手段、様態、因果関係、補文関係という 5 種類がある。

一方、統語的複合動詞には、前項動詞のみを主語尊敬語になれるし、副詞は統語的複合動詞の前項動詞または後項動詞のみを修飾できる。また、統語的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係は補文関係しかない。

3.4 中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い

本節では、否定を表す“没”「ない」の否定スコープ、副詞による修飾スコープ、および、中国語の「動詞+動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味的關係に着目し、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法的・意味的な相違点を明らかにする。3.4.1 節では、否定を表す“没”「ない」の否定スコープと副詞による修飾スコープから語彙的複合動詞と統語的複合動詞を考察し、3.4.2 節では、前項動詞と後項動詞の意味関係から語彙的複合動詞と統語的複合動詞を対照する。

3.4.1 中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法的違い

中国語では、主語尊敬語という形式が存在しない。そのため、本節では、否定を表す“没”「ない」の否定スコープと副詞による修飾スコープに着目し、中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法的な違いを考察する。

語彙的複合動詞：

(46) 敌人 撤退 了。

(敵 去る+退く PERF)

「敵が撤退した」

(46') a: 敌人 没 撤退。

(敵 NEG 去る+退く)

「敵が撤退しない」

b: *敌人 撤-不-退。

(敵 去る NEG 退く)

(意図した意味：「敵が撤退していかない」)

(47) 他 放棄 了。

(彼 放す+棄てる PERF)

「彼は放棄した」

(47') a: 他 没 放棄。

(彼 NEG 放す+棄てる)

「彼は放棄していない」

b: *他 放-不-弃。

(彼 放す NEG 棄てる)

(意図した意味: 「彼は放棄できない」)

統語的複合動詞:

(48) 他 写完 作业 了。

(彼 書く+終わる 宿題 PERF)

「彼は宿題を書き終わった」

(48') a: 他 没 写完 作业。

(彼 NEG 書く+終わる 宿題)

「彼は宿題を書き終わっていない」

b: 他 写-不-完 作业。

(彼 書く NEG 終わる 宿題)

「彼は宿題を書き終わらない」

(49) 他 喝醉 了。

(彼 飲む+酔う PERF)

「彼は酔っぱらった」

(49') a: 他 没 喝醉。

(彼 NEG 飲む+酔う)

「彼は酔っぱらっていない」

b: 他 喝-不-醉。

(彼 飲む NEG 酔う)

「彼はいくら飲んでも酔わない／酔えない」

(50) 語彙的複合動詞：

“说服”「説得する」—*“说得服”、*“说了服”

“压缩”「圧縮する」—*“压得缩”、*“压了缩”

“买卖”「買売する」—*“买了卖”、*“买得卖”

“哭喊”「泣き叫ぶ」—*“哭得喊”、*“哭了喊”

“打击”「打ち叩く」—*“打得击”、*“打了击”

“告别”「告別する」—*“告得别”、*“告不别”

統語的複合動詞：

“做完”「作り終わる」—“做不完”「作り終わらない」

“做得完”「作り終わることができる」

“打开”「開く」—“打不开”「開かない」

“打得开”「開くことができる」

“看到”「見える」—“看不到”「見えない」

“看得到”「見える」

“踩塌”「踏んで倒れる」—“踩不塌”「踏んでも倒れない」

“踩得塌”「踏んで倒れることがある」

例文 (46') が示すように、例文 (46) の語彙的複合動詞“撤退”「撤退する」では、“没撤退”「撤退していない」という否定形式しか持たず、後項動詞“退”「退く」のみを否定できない。例文 (46) と同様に (47) の“放弃”「放棄する」でも、後項動詞“弃”「棄てる」のみを否定できない。

ところが例文 (48) の統語的複合動詞“写完”「飲み終わる」では、“没写完”「書き終わらない」のように複合動詞の全体を否定できるだけでなく(48'a)、“写不完”「書き終わらない」のように後項動詞“完”「終わる」のみを否定することも可能である(48'b)。同様に例文 (49) でも、統語的複合動詞“喝醉”「酔っぱらう」の全体を否定することも可能であり(49'a)、後項動詞“醉”「酔う」のみを否定することも可能である(45'b)。

副詞が修飾する場合、語彙的複合動詞と統語的複合動詞は修飾のスコープにおいて異なる。3.1 節と同様に以下の例文でも により副詞成分を示す。

語彙的複合動詞：

- (51) 他 终于 把 房间 收拾 了。
(彼 やっと 前置詞 部屋 収める＋拾う PERF)
「彼はやっと部屋を片付けた」

- (52) 那幅 画 就要 展出 了。
(その 絵 まもなく 展示する＋出る PERF)
「その絵がまもなく展示される」

- (53) 他 刚刚 说服 老李。
(彼 ちょうど 話す＋説得する PSN)
「彼は李さんを説得したばかりだ」

- (54) 他们 分别 选择 了 自己 喜欢的书。
(彼ら 別々に 選ぶ＋取る PERF 自分 興味がある本)
「彼らは別々に自分が好きな本を選び取った」

統語的複合動詞：

- (55) 由于 实验成功, 终于 推翻 了 那个定论。
(により実験成功 やっと 推す＋めくる PERF その定説)
「実験の成功でやっとその定説を覆した」

- (56) 这本 小说 就要 读完 了。
(この 小説 まもなく 読む＋終わる PERF)
「この小説はまもなく読み終わる」

- (57) 他 刚刚 写完 作业。
(彼 ちょうど 書く＋終わる 宿題)
「彼は宿題を書き終わったばかりだ」

- (58) 小王 突然 打碎 了 杯子。
(PSN 突然 打つ＋壊れる PERF カップ)
「王さんは突然カップを打ち壊した」

例文 (51) では、副詞“终于”「やっと」は語彙的複合動詞“收拾”「片付ける」全体

を修飾する。例文 (52) でも同様に、副詞“就要”「まもなく」は語彙的複合動詞“展出”「展示する」全体を修飾する。例文 (53)(54) でも同様に、副詞“刚刚”「ちょうど」「分別」「別々に」は語彙的複合動詞“说服”「説得する」「选择”「選択する」の前項動詞と後項動詞全体を修飾する。

一方、例文 (55) では、副詞“终于”「やっと」は統語的複合動詞“推翻”「覆す」の後項動詞“翻”「めくる」のみを修飾し、例文 (56) では、副詞“就要”「まもなく」も統語的複合動詞“读完”「読み終わる」の後項動詞“完”「終わる」のみを修飾する。例文 (57) では、副詞“刚刚”「ちょうど」は後項動詞“完”「終わる」のみを修飾する。「書いたばかり」という意味ではない。

中国語において、否定形式“没 / 不”「ない」は語彙的複合動詞と統語的複合動詞の全体を否定できる。語彙的複合動詞では後項動詞のみを否定できず、語彙的複合動詞全体が副詞に修飾される。これに対し統語的複合動詞の場合に、複合動詞の後項動詞のみが否定される可能性もあり、副詞は後項動詞のみを修飾できる。

3.4.2 中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の意味的違い

湯廷池 (1989: 12)、北京大学中国語文学系現代漢語教研室 (2008)、興水・島田 (2009) では、中国語の「動詞+動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞の間の意味的關係を「主述関係、動目関係、修飾関係、並列関係、動補関係という 5 種類に分けている。本節では前項動詞と後項動詞の意味的關係から、中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の意味的な違いを明らかにする。

(A) 並列関係：

語彙的複合動詞：

(58) 他 踩踏 草坪。

(彼 踏む+踏む 草地)

「彼は草地を踏む」

(59) 他 不停地 敲打 着 窗户。

(彼 ずっと 叩く+打つ CONT 窓)

「彼はずっと窓を叩いている」

(60) 文件 保存 在 他 的 电脑 里。

(ファイル 守る+貯える に 彼の パソコン 中)

「ファイルは彼のパソコンに保存される」

(61) 小王 需要 补充 葡萄糖。

(PSN 必要 補う+充ちる ブドウ糖)

「王さんはブドウ糖の補充が必要である」

例文 (58) の語彙的複合動詞“踩踏”「踏む」では、前項動詞“踩”「踏む」と後項動詞“踏”「踏む」の意味は類義である。例文 (59)~(61) でも、語彙的複合動詞“敲打”「叩く」「保存”「保存する」「补充”「補充する」において、前項動詞と後項動詞が意味的に対等であり、前項動詞と後項動詞の意味関係は並列関係である。

(B) 手段：

語彙的複合動詞：

(62) 他 让 小孩 从中 任意 抓取。

(彼 使役 子供 中から 自由 攫む+取る)

「子供にその中から自由につかみ取らせる」

(ccl)

(63) 你 可以 从 中 选取 喜欢 的。

(あなた できる から 中 選ぶ+取る 好き の)

「その中に好きなものを選び取ることができる」

(64) 我们 从 这些 样品 中 抽查。

(私たち から これら サンプル 中 抽選する+検査する)

「私たちはこれらのサンプルの中から抽出検査をする」

(65) 他 盗取 了 公司 的 机密文件。

(彼 盗む+取る PERF 会社 の 機密文書)

「彼は会社の機密文書を盗み取った」

例文 (62) の語彙的複合動詞“抓取”「つかみとる」では、「子供が手でつかむという動作によってものを手に入れる」という意味を表す。つまり前項動詞“抓”「つかむ」は後項動詞“取”「取る」の手段を表す。例文 (63) の語彙的複合動詞“选取”「選び取る」では、前項動詞“选”「選ぶ」は手段を表す。例文 (64) では、前項動詞“抽”「抽撰する」は後項動詞“查”「検査する」の手段であり、「すべてのサンプルを検索しなくてその中からいくつかを抽出して検査する」という意味である。すなわち、例文 (62)~(65) の語彙的複合動詞は手段という意味関係に従い構成される。

(C) 様態：

語彙的複合動詞：

(66) 树叶 飄落 下来。

(葉 漂う＋落ちる 方向補語)

「葉が漂いながら徐々に落ちた」

(67) 她 从 楼梯 上 滾落 下来。

(彼女 から 階段 上 転がる＋落ちる 方向補語)

「彼女は階段から転落する」

例文 (66) の語彙的複合動詞“飄落”「漂いながら落ちる」では、前項動詞“飄”「漂う」は後項動詞“落”「落ちる」の動作の様態を表す。つまり前項動詞と後項動詞の意味的關係は「様態」である。例文 (67) にも、前項動詞“滾”「転げる」は「ころころと転げる」のように様態を説明する。前項動詞“滾”「転げる」は後項動詞“落”「落ちる」の様態を描写する。

(D) 因果関係：

統語的複合動詞：

(68) 他 砍倒 了 那棵 树。

(彼 切る＋倒れる PERF その 木)

「彼はその木を切り倒した」

(69) 他 把 球 踢爆 了。

(彼 前置詞 ボール 蹴る＋はじける PERF)

「彼はボールを蹴って、ボールが破った」

(70) 杯子 摔碎 了。

(カップ 投げつける＋壊れる PERF)

「カップを壊した」

(71) 大风 刮断 了 树枝。

(強風 吹く＋折る PERF 枝)

「強風が枝を吹き折った」

例文 (68) では、統語的複合動詞“砍倒”「切り倒す」の前項動詞“砍”「切る」は原因を表し、後項動詞“倒”「倒れる」はその結果を表す。つまり前項動詞と後項動詞の意味的關係は、因果關係である。例文 (69)~(71) では、後項動詞は結果を表し、前項動詞はその結果を行う原因である。前項動詞と後項動詞の意味關係は因果關係である。

(E) 補文關係：

統語的複合動詞：

(72) 他 吃完 饭 了。

(彼 食べる＋終える ご飯 PERF)

「彼はご飯を食べ終えた」

(73) 他 跑完 了 全程。

(彼 走る＋終わる PERF 全行程)

「彼は全行程を走り終わった」

(74) 阵地 失守 了。

(陣地 失う＋守る PERF)

「陣地が陥落した」

(75) 我 写完 作业 了。

(私 書く＋終わる 宿題 PERF)

「私は宿題を書き終わった」

例文 (72) の統語的複合動詞“吃完”「食べ終える」では、「ご飯を食べることが終わる」という意味を表す。つまり前項動詞“吃”「食べる」と目的語“饭”「ご飯」が全体として後項動詞“完”「終える」の動作対象になる。後項動詞“完”「終える」の意味は前項動詞“吃”「食べる」によって満たされることから、前項動詞と後項動詞は補文關係である。

中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味的關係についてまとめると、語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞には並列關係、手段、様態の3種類の意味的關係があるが、統語的複合動詞の前項動詞と後項動詞には因果關係、補文關係の2種類の意味的關係がある。

3.4.3 中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い

中国語において、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法的特徴・前項動詞と後項動詞

の意味関係の違いを[表 3]のようにまとめる。

[表 3] 中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い

	語彙的複合動詞	統語的複合動詞
文法的 特徴	後項動詞のみを否定不可	後項動詞のみを否定可能
	副詞は複合動詞全体を修飾	副詞は後項動詞のみを修飾
意味 関係	前項動詞と後項動詞の意味的關係： 並列関係、手段、様態	前項動詞と後項動詞の意味的關係： 因果関係、補文関係

[表 3]が示すように、中国語の語彙的複合動詞には、否定を表す“没／不”「ない」は語彙的複合動詞の後項動詞のみを否定できる。副詞は語彙的複合動詞全体を修飾する。また、語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係は並列関係、手段、様態という 3 種類がある。

一方、統語的複合動詞には、否定を表す“没／不”「ない」は後項動詞のみを否定できる。副詞は統語的複合動詞の後項動詞のみを修飾できる。また、統語的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係は因果関係と補文関係がある。

3.5 日本語と中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の対照

3.3 節では、日本語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違いについて概観した。3.4 節では、中国語においても語彙的複合動詞と統語的複合動詞の相違点を分析した。日本語と中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の文法的・意味的な違いを以下の[表 4]にまとめる。(なお表中の例としては 3.3 節・3.4 節で示したものの類例を挙げる。)

[表 4] 日本語と中国語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の対照

	日本語	中国語
語彙的複合動詞	前項動詞のみを主語尊敬不可 「*お書きになり込む」	後項動詞のみを否定不可 “*敲不打”「叩かない」
	副詞は複合動詞全体を修飾 「突然飛び出す」	副詞は複合動詞全体を修飾 “经常逃避”「しばしば逃避する」
	前項動詞と後項動詞の意味的關係： 並列関係、手段、様態、因果関係、補文 関係	前項動詞と後項動詞の意味的關係： 並列関係、手段、様態
統語的複合動詞	前項動詞のみを主語尊敬可能 「お乗りになり損ねる」	後項動詞のみを否定可能 “听不懂”「聞いたが分からなかった」
	副詞は前項動詞または後項動詞のみを修飾 「突然動き始める」	副詞は後項動詞のみを修飾 “经常敲坏”「しばしば叩き壊す」
	前項動詞と後項動詞の意味的關係： 補文関係	前項動詞と後項動詞の意味的關係： 因果関係、補文関係

[表 4]に基づいて日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞を対照すると、次のようなことが分かる。

まず、日本語と中国語の語彙的複合動詞の相違点を説明する。日本語の語彙的複合動詞を見ると、前項動詞のみが主語尊敬形にならず、副詞は複合動詞全体を修飾する。前項動詞と後項動詞の意味的關係には並列関係、手段、様態、因果関係、補文関係の 5 種類がある。中国語の語彙的複合動詞においては、後項動詞のみを否定できず、副詞は複合動詞全体を修飾する。前項動詞と後項動詞の意味的關係には並列関係、手段、様態の 3 種類がある。

次に、日本語と中国語の統語的複合動詞の相違点を説明する。日本語の統語的複合動詞を見ると、前項動詞のみを主語尊敬形にすることが可能であり、副詞は前項動詞または後項動詞のみを修飾できる。前項動詞と後項動詞の意味的關係は補文関係のみである。中国語の統語的複合動詞においては、後項動詞のみを否定することが可能であり、副詞は後項動詞のみを修飾する。前項動詞と後項動詞の意味的關係には因果関係、補文関係の 2 種類がある。

3.6 本章のまとめ

本章では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞を対照した。その結果、日本語と同様に、中国語にも、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の間には文法的・意味的な違いがあることが分かった。

日本語では、語彙的複合動詞における前項動詞と後項動詞は形態上・文法上で 1 つにまとまっている。前項動詞のみを主語尊敬形にできず、副詞は複合動詞全体を修飾するからである。一方の統語的複合動詞の前項動詞と後項動詞は、ある程度独立な存在と見なされ

る。前項動詞のみを主語尊敬形にする可能性があり、副詞が前項動詞または後項動詞のみを修飾する可能性があるからである。

日本語の語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係には並列関係、手段、様態、因果関係、補文関係の 5 種類があるが、統語的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係には補文関係に限られている。

中国語でも、語彙的複合動詞における前項動詞と後項動詞は形態上・文法上で 1 つのまとまりである。語彙的複合動詞の全体を否定できるが、後項動詞のみを否定できない。副詞も語彙的複合動詞全体を修飾するからである。一方の統語的複合動詞における前項動詞と後項動詞は、ある程度独立な存在と見なされる。後項動詞のみを否定する可能性があるだけでなく、副詞が統語的複合動詞の後項動詞のみを修飾するからである。

中国語の語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係には並列関係、手段、様態の 3 種類があるが、統語的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係には因果関係、補文関係の 2 種類がある。

第4章 日中語の複雑述語の概要

本章では、日本語と中国語の複雑述語の概要を説明する。先行動詞¹⁰と後続動詞の意味関係・文法関係に注目し、「動詞＋動詞」型複雑述語を「連続動作型複雑述語」「行為目的型複雑述語」「補助動詞型複雑述語」に分ける。さらに、否定文と疑問文に着目し、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点に言及する。

4.1 複雑述語とは何か

岸本・由本 (2014: 2) によれば、「複雑述語」という用語が最初に明示的に用いられたのは Alsina, Bresnan, and Sells (1997) においてである。

Complex predicates can be defined as predicates which are multi-headed; they are composed of more than one grammatical element (either morphemes or words) each of which contributes part of the information ordinarily associated with a head.

Alsina, Bresnan, and Sells (1997)

Alsina, Bresnan, and Sells (1997) では、生成文法における主要部に着目し、複雑述語について説明しているが、岸本・由本 (2014:I) では、複雑述語について以下のように説明している。

「複雑述語」は、述語要素¹¹を二つ以上含みながら意味的には一つの述語として振る舞うものと考えることができる。

岸本・由本 (2014:I)

さらに岸本・由本 (2014) では、日本語において2つの動詞から組み合わさって1つの動詞とする「動詞＋動詞」型複合動詞も複雑述語の1種であると指摘している。

日本語の複合動詞は、さまざまな興味深い特徴を示し、比較的多くの研究

¹⁰ 影山 (1982: 46) では、「複合語内で先に来る要素を前項、後に来る要素を後項と呼ぶ」と解釈している。本論文では、影山 (1982) に従って、「動詞＋動詞」型複合動詞の前の動詞と後ろの動詞を「前項動詞」と「後項動詞」と呼ぶ。これに対し、「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素である前の動詞と後の動詞は、本論文では、「先行動詞」と「後続動詞」と呼び、区別する。

¹¹ 岸本・由本 (2014) では、「述語要素」という用語を用いて複雑述語の構成要素を示している。「動詞＋動詞」型複合動詞とも「動詞＋動詞」型複雑述語とも2つの動詞から構成されるから、本論文では、「動詞要素」という用語を用いて「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の構成要素を示す。

がなされている構文の一つである。動詞が複数組み合わせられてあたかも一つの動詞のようにふるまう複合動詞は、形態的には一つの塊をなす複雑述語となっている。

岸本・由本 (2014: 5)

本章では、岸本・由本 (2014) を踏まえ、複雑述語について再検討する。影山 (1993) や由本 (2005) では、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞を統語的に複雑な構造を持つ統語的複合動詞とそれを持たない語彙的複合動詞に分けるが、統語的複合動詞であっても語彙的複合動詞であっても、その本質は1つの動詞である。本論文での複雑述語は「2つあるいは2つ以上の動詞要素が、意味上・文法上の1つのまとまりとして振る舞う」ものを指す。すなわち、複雑述語と複合動詞には本質的な区別がある。複合動詞は一語であるが、複雑述語は一語ではない。岸本・由本 (2014) では、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞を複雑述語に含めているが、本論文では、「動詞＋動詞」型複合動詞は複雑述語に含めない。

4.2 日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語

複雑述語の中に、2つの動詞がつながり、1つの述語として振る舞うものを「動詞＋動詞」型複雑述語と呼ぶ。日本語にも中国語にも「動詞＋動詞」型複雑述語がある。

日本語の動詞と動詞の結び付き¹²は、「動詞連用形＋動詞」、「動詞連用形＋に＋動詞」、「動詞テ形＋動詞」という3種類に分けられる。動詞連用形は直接的に動詞と組み合わせあって一語として働き、この場合の「動詞連用形＋動詞」は「動詞＋動詞」型複合動詞である。それに対し、「動詞連用形＋に＋動詞」「動詞テ形＋動詞」は一語ではない。しかし、これらの構造が文の述語になる場合、文法上・意味上では1つのまとまりと見なすことができる。本論文では、日本語の「動詞連用形＋に＋動詞」「動詞テ形＋動詞」という構造を持つ述語を「動詞＋動詞」型複雑述語と呼ぶ。

膠着語¹³の日本語と異なり、孤立語の中国語では、「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語はいずれも、動詞と動詞が直接的に連続し構成される。本論文では、2つの動詞が組み合わせあって一語になるものを「動詞＋動詞」型複合動詞と呼び、2つの

¹² 大野 (1977: 25) では、用言と用言が直接結び付くとき、助詞を用いずに連用形により直接的につづくか、接続助詞と用いて用言と用言との関係づけを表すことを指摘している。しかし、動詞と動詞が結び付くとき、接続助詞をもたず、助詞「に」を用いてつづく場合を存在している。

¹³ 言語類型論では、言語を屈折語(inflexional language)、膠着語(agglutinative language)、孤立語(isolating language)に分けている。本論文が研究対象とする日本語は膠着語であり、中国語は孤立語である。亀井他 (1996: 375) では、膠着語については「語幹にいろいろな接辞が接合して複合体を作るが、その接合は切れ目が比較的明白であり、その接辞は原則として1つの文法範疇を示す。このような形態特徴をもつ言語を、膠着語の類型の言語という」のように説明し、また、孤立語については「語は、文の中で他の語との関わり合いをもたず、まったく孤立している」のように説明している。

動詞がつながり、文法上では1つの述語として働くものを「動詞＋動詞」型複雑述語と呼ぶ。

日本語の「聞いて勉強する」「買ってくる」「買いに行く」のような構造は「動詞＋動詞」型複雑述語である。

(1) ラジオを聞いて勉強する。

(森田 1971: 43)

(2) 彼は本を買ってくる。

(3) 私は本を買いに行く。

日本語と同様に、中国語にも“请看”「誘う」「寄来」「郵送してくる」「去买」「買いに行く」のような「動詞＋動詞」型複雑述語がある。

(4) 小王 今天 请看 电影。

(PSN 今日 招待する－見る 映画)

「今日、王さんは映画をご馳走する」

(5) 他 寄来 一本书。

(彼 郵送する－くる 一冊 本)

「彼は本を郵送してくる」

(6) 他 去买 书。

(彼 行く－買う 本)

「彼は本を買いに行く」

日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語はどちらも、2つの動詞がつながり、文中で1つの述語として働く。

本章では、日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語と対照することで、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の独立性を考え、両言語の相違点を明らかにする。4.3 節では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の分類を説明する。4.4 節では、日本語の複雑述語に関する先行研究を概観し、先行研究の問題点を提出する。4.5 節では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的な特徴を分析する。4.6 節では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を対照する。

4.3 日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の分類

本論文では、「動詞＋動詞」型複雑述語の構造内部の文法関係・意味関係に着目し、日本語と中国語の複雑述語を大きく「連続動作型複雑述語」「補助動詞型複雑述語」「行為目的型複雑述語」に分ける。

- (i) 「連続動作型複雑述語」：先行動詞と後続動詞は両方とも本動詞であり、先行動詞と後続動詞は各々の意味を持ち、意味上・文法上に同等であり、2つの動作を順番に行うという意味を持つ複雑述語を指す。

(7) それらの本はすべて面白い。私は一度に3冊を買って読んだ。

(8) 彼は毎晩自宅に仕事を持って帰る。

(9) 这本书我能 借看 一会儿 吗?
(この 冊 本 私 できる 借りるー見る しばらく PTCL)
「この本について、私はしばらく借りて読むことができるか」

(10) 他 训斥 了 妹妹。
(彼 叱るー泣く PST 妹)
「彼は妹を叱って泣かせた」

日本語と中国語には、他の連続動作型複雑述語の例もある。例えば、日本語の「焼いて食べる」「植えて育てる」「使って帰る」「坐って書く」「見て選ぶ」や中国語の“借用”「借りて使う」「哭倒」「泣いて倒させる」「剪碎」「ハサミで切ってばらばらになる」などである。

- (ii) 「行為目的型複雑述語」：先行動詞と後続動詞は両方とも本動詞である。意味上では、移動行為の目的を表す。

(11) 休日に遊びに行く。

(12) 彼は明日泳ぎに行く。

- (13) 周末 我们 去买 礼物。¹⁴
(週末 私たち 行くー買う プレゼント)
「週末に私たちプレゼントを買いに行く」

- (14) 他 来借 了 一千块。
(彼 来るー貸す PERF 千円)
「彼は千円を貸しに来た」

日本語と中国語には、他の行為目的型複雑述語の例もある。例えば、日本語の「吸いに来る」「狩りに歩く」「買いに走る」「取りに帰る」「聞きに行く」、中国語の“去取”「取りに行く」「去办」「やりに行く」「来写」「書きに来る」「来吃」「食べに来る」「来看」「見に来る」などがある。

- (iii) 「補助動詞型複雑述語」：先行動詞は本動詞であり、後続動詞は補助動詞¹⁵である。意味上では、本動詞は複雑述語意味を担当し、補助動詞は本動詞の意味を補足する。

- (15) ともだちに宿題をやってもらった。

(中谷 2015: 99)

- (16) 介助のコツを教えてもらう。

(『小児プライマリ・ケア虎の巻医学生・研修医実習のために』)

- (17) 他 邮来 一封信。
(彼 郵送するーくる 一通の手紙)
「彼は一通の手紙を郵送してくる」

- (18) 他 给 母亲 汇去 一千元。
(彼 あげる 母 送金するーいく 千円)
「彼はお母さんに千円を送金していった」

¹⁴ 相原他 (2016) などを参照にして一般中国語学において、中国語の例文を“周末 我们 去 买 礼物。”“周末 我们 去 买礼物。”のように意味関係が強い部分を1つのまとまりとして示す。本論文は日本語と中国語の「動詞+動詞」型複合動詞と「動詞+動詞」型複雑述語を中心に研究を行うため、中国語の例文を“周末 我们 去买 礼物”のように、「動詞+動詞」型複雑述語を構成する2つの動詞要素が1つのまとまりとして示す。

¹⁵ 鈴木・林 (1981: 176) では、補助動詞は「本来のもつ実質的な意味が稀薄で、他の語の後に付いて付属的な意味を添えるもの」と指摘している。本論文では、鈴木・林 (1981) での補助動詞の定義に従って、補助動詞型複雑述語を説明する。

日本語と中国語には、他の補助動詞型複雑述語の例もある。例えば、日本語の「話してくれる」「調べてみる」「読んであげる」「持っていく」「買ってくる」、中国語の“买来”「買ってくる」「送去」「送っていく」「跑出去」「走って外に出る」「跳进去」「中に入る」「买回来」「買って帰ってくる」などがある。

日本語には、先行動詞は副詞の文法機能を用いて後続動詞を修飾する「動詞＋動詞」型複雑述語（以下では副詞修飾型複雑述語）がある。

(19) 人生の転機になるような出来事が、一年の間に続けて起こった。

（『ホームレス失格』）

(20) 彼は黙って帰った。

日本語では、「続けて起きる」「黙って帰る」のように先行動詞「続ける」「黙る」は副詞的な用法を用いて後続動詞を修飾する。日本語の「続けて起きる」「黙って帰る」のような副詞修飾型複雑述語に対応する中国語は、“相继发生”「続けて起きる」「默默地回去」「黙って帰る」である。これらは「動詞＋動詞」という構造ではなく、副詞“相继”「次々と」「默默地」「黙々」を用いて動詞“发生”「起きる」「回去」「帰る」を修飾している。

(21) 一年 中 相继 发生。

（一年間 中 次々と 発生する）

「一年間に続いて起きる」

(22) 他 默默地 回去 了。

（彼 黙々 帰る PERF）

「彼は黙って帰った」

中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語において、「副詞修飾型複雑述語」が存在しない。そのため、本論文では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語における「連続動作型複雑述語」「行為目的型複雑述語」「補助動詞型複雑述語」の3つを中心として両言語の「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を検討する。日本語の「副詞修飾型複雑述語」は「資料5:日本語の副詞修飾型複雑述語」として例を示すに留めることにする。

4.4 複雑述語に関する先行研究と問題点

本節では、複雑述語に関する先行研究を概観し、問題点を提出する。

日本語の複雑述語に関する先行研究は、岸本・由本 (2014)、寺村 (1990)、中谷 (2015)、姫野 (1999, 2018)、林 (2016) などがある。

岸本・由本 (2014: 1)では、「述語要素を二つ以上含みながら意味的には一つの述語として振る舞うもの」を複雑述語と呼ぶ。

また、岸本・由本 (2014) では、日本語の複雑述語の分類を概説している。

岸本・由本 (2014) によれば、日本語には、「軽動詞構文」「使役構文」「結果構文」「共動詞構文」「再構成を起こす不定詞構文」「複合動詞構文」「名詞編入構文」という7種類の複雑述語があると述べている。

- (23) a. 学生は勉強した。(軽動詞構文)
b. 母親は子供を寝させた。(使役構文)
c. 彼はくたくたに疲れた。(結果構文)
d. 子供が走っている。(共動詞構文)
e. 図書館に本を借りに行く。(再構成を起こす不定詞構文)
f. 電車を乗り換える。(複合動詞構文)
g. あの人は腹黒い。(名詞編入構文)

(岸本・由本 2014: 3-4 例 (4))

例文 (23) が示すように、岸本・由本 (2014) では、「共動詞構文」と「再構成を起こす不定詞構文」の述語部分「走っている」「借りに行く」は2つの動詞から構成される。本論文では、「走っている」「借りに行く」のような構造を「動詞+動詞」型複雑述語と見なす。

寺村 (1990) では、アスペクトの面から、補助動詞を説明している。「～テイル、～テアル、～テクレル」などの補助動詞は二次的アスペクト¹⁶である。寺村 (1990) の観点から見ると、補助動詞型複雑述語は「本動詞+二次的アスペクト」という形式で構成されることである。

中谷 (2015) は「テイク、テクル、テアゲル、テクレル、テモラウ、テオク、テシマウ、テイル、テアル、テミル、テミセル、テホシイなど「V1 テ V2」を「テ形複雑述語」と呼ぶ。しかし、「テホシイ」は動詞テ形+形容詞「ホシイ」で構成される。

¹⁶ 寺村 (1990) では、アスペクトを3つに分けている。「日本語で、ある事象を過程の中に位置づけ、完了・未了、継続その他動的事象の諸相を表わす役目にするには、(i) 動詞の活用形、(ii) 動詞のテ形に後接する補助動詞の一部、および (iii) 動詞の連用形に後接する補助動詞の一部、ということになる。(i) をアスペクトの一次的形式、(ii) を二次的形式、(iii) を三次的形式とする。」(寺村 1990: 117)

(24) あらかじめ準備しておいた。

(中谷 2015: 99)

(25) 花瓶を割ってしまった。・

(中谷 2015: 99)

(26) 宿題をやっている。

(中谷 2015: 99)

(27) ともだちに宿題をやってほしい。

(中谷 2015: 99)

姫野 (1999, 2018) によれば、「動詞＋補助動詞」と複合動詞とは異なり、「動詞＋補助動詞」という構造では動詞の間に助詞の挿入が可能であり、前の動詞の意味がそのまま保持され、前の動詞のみが否定形になることも可能であることが分かった。

さらに、姫野 (1999, 2018) では、「否定形、受身形、使役形等へ変容可能度は、統語構造における機能度を反映しているものであるから、補助動詞の類のほうが自由度が高い」と述べている。

中国語学において、“去买”「買いに行く」「借用」「借りて使う」ように「動作の行われる順に動詞（フレーズ）が連なって現れる構造の文」が連動文である（相原他 2016: 96）。土屋 (1962: 148-156)、相原他 (2016: 241-245)、劉月華 (2001: 534-544) などでは、“吓飞”「飛ばす」「训哭」「叱らせて泣く」のように動詞の後ろに形容詞またはほかの動詞を補って動作の結果を表わすことが結果補語フレーズと見なす。土屋 (1962: 157-169)、相原他 (2016: 250-256)、劉月華 (2001: 546-579) などでは、“花去”「かかる」「寄来」「郵送する」のように動詞の後ろに“来／去／进”などを補って動作の方向を表わす構造を方向補語フレーズと見なす。

上述した例“去买”「買いに行く」「借用」「借りて使う」「吓飞」「飛ばす」「花去」「かかる」はすべて2つの動詞がつながり、1つのまとまりとして働くものである。本論文はこれらのものを1つの構造「動詞＋動詞」型複雑述語と考える。

中国語学において、動詞要素の意味関係に注目し、このような2つの動詞がつながる構造を分類している。本論文では、中国における2つの動詞がつながって文に1つの述語として振舞うものを「動詞＋動詞」型複雑述語と呼ぶ。さらに、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の意味的・構造的・文法的特徴により、「動詞＋動詞」型複雑述語を分類している。

日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語に関する先行研究から見ると、日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語に関する先行研究が盛んであるが、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語に関する先行研究はほとんど存在していない。また、これまでの研究は、主に日本語の複雑述語の1タイプ（補助動詞を持つ複雑述語、もしくは、「Vに行く」構造を持つ複雑述語）に関する先行研究である。本論文では「動詞＋動詞」型複雑述語全体を研究対象とし、「動詞＋動詞」型複雑述語を再分類する。さらに日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語と対照しながら、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的な特徴を考察する。

4.5 日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的な特徴

本節では、日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語と対照し、先行動詞と後続動詞の間に挿入される要素および先行動詞と後続動詞の独立性に着目し、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的な特徴を検討する。

4.5.1 「動詞＋動詞」型複雑述語の内部に挿入する要素

姫野 (1999, 2018) では、日本語では動詞と補助動詞の間に「は」のような助詞の挿入¹⁷が許可されると指摘している。

(28) 補助動詞型複雑述語:

透析はたしかに生命を維持して-は-くれる。

(『腎臓移植・希望の選択 あるビジネスマンの闘病記録』)

(29) 補助動詞型複雑述語:

実は僕自身、彼らにどう接したらいいのか、迷って-も-いる。

(『おとなびあ』)

(30) 補助動詞型複雑述語:

今は子供がいてべったり付き添って-は-あげられません。

(31) 補助動詞型複雑述語:

夜、十時近くなっても由香里は帰って-は-来なかった。

(『積木くずし 親と子の二百日戦争』)

日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語において、補助動詞型複雑述語だけではなく、連続

¹⁷ 姫野 (1999, 2018) では、「助詞加入」という用語を用いて説明しているが、本論文では、先行動詞と後続動詞の間に要素を挿入することを「挿入」と呼ぶ。

動作型複雑述語と行為目的型複雑述語の動詞要素の間にも助詞の挿入を許す。

(32) 連続動作型複雑述語:

食事時間には病院に駆けつけ、お膳を運び、片付けて-は-帰る。

(『千代子さんの足跡』)

(33) 連続動作型複雑述語:

家でも作ることができるようになってからは、本当によく作って-は-食べていた。

(『休みの日には、コーヒーを淹れよう。』)

(34) 行為目的型複雑述語:

確かに映画を見に-は-行ったが、それは勤務時間外のことだ。

(荘司 1997: 49 例 (33))

(35) 行為目的型複雑述語:

半分以上は外食ですし、1週間に1～2回は飲みにも-行くし、ラーメンも食べます。

(『低インシュリンダイエット ちゃんと食べてしっかり痩せる 完全保存版』)

また、日本語の連続動作型複雑述語と行為目的型複雑述語において、先行動詞と後続動詞の間に名詞句を挿入しても構文の意味が複雑述語構文の意味に似ているが、補助動詞型複雑述語の先行動詞と後続動詞の間に名詞句を挿入できない。

連続動作型複雑述語:

(36) 彼はそのかばんを持って帰った。

(36') 彼はそのかばんを持って-家に-帰った。

(37) 顕微鏡を使って見る。

(37') 顕微鏡を使って-細胞を-見る。

行為目的型複雑述語:

(38) お菓子を買いに行く。

(38') お菓子を買いに-コンビニに-行く。

(39) 太郎が次郎に会いに行く。

(39') 太郎が次郎に会いに-神戸-へ行く。

日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素の間に助詞を挿入できることは対照的に、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語においては、連続動作型複雑述語と補助動詞型複雑述語のみ、動詞要素の間に文法助詞¹⁸が挿入できる。

連続動作型複雑述語：

(40) 大家 起立^欢呼。

(皆 起立する－歓呼する)

「皆起立して歓呼する」

(40') 大家 起立-并-欢呼。

(皆 起立する 接続詞 歓呼する)

「皆起立し、歓呼する」

(41) 他 正在 厨房 帮切 菜 呢。

(彼 PROG キッチン 助ける－切る 野菜 PTCL)

「彼はキッチンで野菜を切るのを助けている」

(41') 他 正在 厨房 帮-着-切 菜 呢。

(彼 PROG キッチン 助ける PTCL 切る 野菜 PTCL)

「彼はキッチンで野菜を切るのを助けている」

補助動詞型複雑述語：

(42) 他 跑进 教室。

(彼 走る－入る 教室)

「彼は教室に走って入る」

(42') 他 跑-着-进 教室。

(彼 走る PTCL 入る 教室)

「彼は走りながら教室に入る」

¹⁸ 劉月華 (2001)、中国語学会 (1977) では、中国語の助詞は「時態助詞」「構造助詞」と「語気助詞」という3種類に大別される。時態助詞は、動詞の後ろに置いてアスペクトを示す。(本論文の例文 (28) の挿入要素“着”は時態助詞の一つである。) 構造助詞は語の間に置いて語と語の構造上の関係を示す。(本論文では、例文 (27) の挿入要素“得”は構造助詞の一つである。) 語気助詞は文末につけて語気や話し手の感情を示す。日本語の助詞と区別するために、本論文では、中国語学における助詞を「文法助詞」と呼ぶ。

(43) 消防员 把 他 从 火中 救[^]出来 了。
(消防士 前置詞 彼 から 火事 救うー出る#くる PERF)
「消防士は火事から彼を救ってきた」

(43') 消防员 把 他 从 火中 救-了-出来。
(消防士 前置詞 彼 から 火事 救う PERF 出る#くる)
「消防士は火事から彼を救ってきた」

(44) 他 醒[^]过来 了。
(彼 覚めるー過ごす#くる PERF)
「彼は目が覚めた」

(44') 他 醒-不-过来 了。
(彼 覚める NEG 過ごす#くる PERF)
「彼は目を覚まさなかった」

日本語における連続動作型複雑述語と行為目的型複雑述語の動詞要素の間に名詞句を挿入することとは対照的に、中国語の3種類の複雑述語の動詞要素の間に名詞句を挿入しても意味が似ている。

連続動作型複雑述語：

(45) 今天 我 请吃 饭。
(今日 私 招待するー食べる ご飯)
「今日私は食事をご馳走する」

(45') 我 请-小王-吃 饭。
(私 招待する PSN 食べる ご飯)
「私は王さんを誘って食事する」

(46) 他 正在 厨房 帮切 菜 呢。
(彼 PROG キッチン 助けるー切る 野菜 PTCL)
「彼はキッチンで野菜を切るのを助けている」

- (46') 他 正在 厨房 帮-我-切 菜 呢。
(彼 PROG キッチン 助ける 私 切る 野菜 PTCL)
「彼は私を手伝ってキッチンで野菜を切っている」

(再掲)

行為目的型複雑述語：

- (47) 我 去买 书。
(私 行く－買う 本)
「私は本を買いに行く」

- (47') 我 去-书店-买 书。
(私 行く 本屋 買う 本)
「私は本屋へ行って本を買う」

- (48) 小王 来学 画画。
(PSN 来る－学ぶ 美術)
「王さんは美術を学びに来る」

- (48') 小王 来-我家-学 画画。
(PSN 来る 私の家 学ぶ 美術)
「王さんは家へ来て美術を学ぶ」

補助動詞型複雑述語：

- (49) 我 借给 他 一本书。
(私 貸す－あげる 彼 一冊 本)
「私は彼に一冊の本を貸してあげる」

- (49') 我 借-一本书-给 他。
(私 貸す 一冊の本 あげる 彼)
「私は一冊の本を彼に貸してあげる」

- (50) 他 拿来 一个 苹果。
(彼 持つ－くる 一つ リンゴ)
「彼はリンゴを持ってくる」

- (50') 他 拿一个苹果-来。
 (彼 持つ 一つのリンゴ 来る)
 「彼はリンゴを持ってくる」

日本語の 3 種類の複雑述語と対照し、中国語の複雑述語の動詞要素の間の挿入要素を [表 5] のようにまとめる。

[表 5] 日中語の「動詞＋動詞」型複雑述語内部の挿入要素

		連続動作型	行為目的型	補助動詞型
日 本 語	助詞挿入	○	○	○
	名詞句挿入	○	○	×
中 国 語	文法助詞挿入	○	×	○
	名詞句挿入	○	○	○

(○は許可を示し、×は不許可を示す)

[表 5] が示すように、日本語において、3 種類の「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素の間に助詞が挿入でき、連続動作型複雑述語と行為目的型複雑述語のみに名詞句が挿入できる。一方、中国語において、3 種類の「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素の間に名詞句が挿入でき、補助動詞型複雑述語と連続動作型複雑述語のみに文法助詞が挿入できる。

4.5.2 否定文から見た「動詞＋動詞」型複雑述語内部の独立性

本節では、「動詞＋動詞」型複雑述語構造を持つ否定文に着目し、「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素の独立性を考察する。

日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語構文において、否定要素が複雑述語全体の後ろに置くことができる。

連続動作型複雑述語：

- (51) 彼はお土産を持って帰らない。
 (52) そのものは水だけで洗って食べられない。

行為目的型複雑述語：

- (53) ケーキを取りに行かない。
 (54) 台風が来るので、今日は本を買いに行かない。

補助動詞型複雑述語：

- (55) 朝ご飯をまだ食べていない。

(56) 今日用事があるので、送ってあげない。

日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語において、先行動詞のみを否定することもできる。

(57) 連続動作型複雑述語：

ユン・ソクホ監督様とはデビューをさせていただいた縁の意味がカーソルシナリオも見なくて決めました。

(58) 行為目的型複雑述語：

その店は駅構内ですから、雨の日にも濡れずに行ける。

(59) 補助動詞型複雑述語：

日に多くて二、三本、吸わないときは三日も四日も吸わないでいる。

(『美雪総監と消えたクルーザー』)

日本語において、例文 (51)~(56) のように否定「ない」を用いて複雑述語全体の後ろに置いて複雑述語を否定することができる。例文 (57) のように「なくて」を用いて連続動作型複雑述語「見て決める」の先行動詞「見る」のみを否定し、例文 (58) のように「ずに」を用いて行為目的型複雑述語「濡れに行く」の先行動詞「濡れる」のみを否定することもできる。例文 (59) のように「ないで」を用いて補助動詞型複雑述語「吸いている」の先行動詞「吸う」のみを否定することもできる。

日本語に対し、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語において、否定の“没／不”「ない」は後続動詞のみを否定する。

(60) 連続動作型複雑述語：

衣服 洗 了， 但 衣服上的污渍 没 洗掉。

(服 洗う 完了 しかし 服の汚れ NEG 洗うー落ちる)

「服を洗ったが、汚れが落ちなかった」

(61) 行為目的型複雑述語：

我 不 来买 东西， 我 来修 表。

(私 NEG 来るー買う もの 私 来るー修理する 時計)

「私は物を買いに来るのではなく、時計を修理しに来る」

(62) 補助動詞型複雑述語：

信 上周 就 寄 了， 到 现在 还 没 寄来。
(手紙 先週 既に 郵送する PERF 至る 現在 まだ NEG 郵送するーくる)
「手紙が既に郵送したが、今までも届けなかった」

上述の例文から見ると、日本語において、否定要素は「動詞＋動詞」型複雑述語全体を否定することができるし、先行動詞のみを否定することもできるが、中国語において、否定要素は「動詞＋動詞」型複雑述語の後続動詞のみを否定することが分かった。

4.5.3 疑問文会話における「動詞＋動詞」型複雑述語内部の独立性

本節では、疑問文を含む会話に着目し、「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素の独立性を考察する。

日本語では、「動詞＋動詞」型複雑述語を含む疑問文に答えるとき、「動詞＋動詞」型複雑述語における単一の動詞要素のみを述語とすることができない。

(63) 連続動作型複雑述語：

Q: 今回、どんな本を買って読む?
A: ? 推理小説を買う。/? 推理小説を読む。(推理小説を買って読む)

(64) 行為目的型複雑述語：

Q: 君は何を買いに行く?
A: ? 本を買う。(本を買いに行く)

(65) 補助動詞型複雑述語：

Q: 誰が走っている?
A: ? 太郎が走る。(太郎が走っている)

中国語では、「動詞＋動詞」型複雑述語を含む疑問文に答えるとき、「動詞＋動詞」型複雑述語における単一の動詞要素のみを述語として答えることができる。

連続動作型複雑述語：

(66) Q: 今天 谁 请吃 饭 啊?
(今日 誰 ご馳走するー食べる ご飯 PTCL)
「今日のご飯は誰がおごる?」

A: 小王 请。

(PSN ご馳走する)

「王さんがおごる」

(67) Q: 你 今天 请吃 什么?

(君 今日 ご馳走するー食べる 何)

「今日は何をご馳走する?」

A: 吃 火锅 吧。

(食べる 鍋 PTCL)

「鍋を食べよう」

中国語において、連続動作型複雑述語を含む疑問文に答えるとき、単一の先行動詞もしくは後続動詞のみを用いて答えることができる。

行為目的型複雑述語の疑問文に答えるとき、後続動詞のみで答えることができる。

行為目的型複雑述語：

(68) Q: 你 去买 什么?

(君 行くー買う 何)

「何を買いに行く?」

A: 买 书。

(買う 本)

「本を買う」

(69) Q: 你们 去看 什么电影?

(君たち 行くー見る どんな映画)

「君たちはどんな映画を見に行くか?」

A: 看 “千与千寻”。

(見る 『千と千尋の神隠し』)

「『千と千尋の神隠し』を見る」

また、中国語では、「動詞+動詞」型複雑述語を含む疑問文に答えるとき、複雑述語における単一の動詞要素（先行動詞もしくは後続動詞）のみを述語として答える場合がある

し、後続動詞のみで答える場合もある。

補助動詞型複雑述語：

(70) Q: 这 是 谁 借给 你 的 书 啊?
(これ は 誰 貸すーあげる 君 の 本 PTCL)
「これは誰が君に貸してあげた本なのか？」

A: 小王 借 我 的。
(PSN 貸す 私 のだ)
「王さんが私に貸したのだ」

(71) Q: 这 是 借给 谁 的 书 啊?
(これ は 貸すーあげる 誰 の 本 PTCL)
「これは誰に貸してあげた本なのか？」

A: 给 我 的。
(あげる 私 のだ)
「私にあげたのだ」

例文 (70) では、補助動詞型複雑述語“借给”「貸してあげる」の先行動詞“借”「貸す」のみを用いて答えることができるが、例文 (71) では、補助動詞型複雑述語“借给”「貸してあげる」の後続動詞“给”「あげる」のみを用いて答えることができる。

補助動詞型複雑述語：

(72) Q: 他 跑进 哪间教室 了?
(彼 走るー入る どの教室 PERF)
「彼はどの教室に走って入った？」

A: 进 左手第一间 了。(* 跑左手第一间了)
(入る 左の一番目 PERF)
「左の一番目に入った」

(73) Q: 这 是 写给 谁 的 歌?
(これ は 書くーあげる 誰 の 歌)
「この歌は誰に書いてあげたの？」

A: 给 他妻子 的。 (* 写他妻子的「彼の妻を書いたのだ」)
 (あげる 彼の妻 のだ)
 「彼の妻に (書いて) あげたのだ」

例文 (72) (73) では、疑問文に答えるとき、補助動詞型複雑述語“跑进”「走って入る」“写给”「書いてあげる」の後続動詞“进”「入る」、「给」「あげる」のみが述語として答えることができる。

上述の例文から見ると、「動詞+動詞」型複雑述語構造を持つ疑問文に答えるとき、日本語の「動詞+動詞」型複雑述語の単一の動詞要素を用いて答えることが許されない。日本語に対し、中国語の「動詞+動詞」型複雑述語の単一の動詞要素を用いて答えることが許される。

4.6 日本語と中国語の「動詞+動詞」型複雑述語の独立性の対照

4.5.1 節の「動詞+動詞」型複雑述語の動詞要素の間に挿入する要素、4.5.2 節の否定文と 4.5.3 節の疑問文を含む会話に着目し、日本語と中国語の 3 種類の「動詞+動詞」型複雑述語の独立性を分析した結果を踏まえ、日本語と中国語の「動詞+動詞」型複雑述語の動詞要素の独立性を[表 6]のように示す。(○が多いのは動詞要素の独立性が高いである。)

[表 6] 日中語の「動詞+動詞」型複雑述語の動詞要素の独立性

		日本語			中国語		
		連続動作型	行為目的型	補助動詞型	連続動作型	行為目的型	補助動詞型
挿入要素	助詞	○	○	○	○	×	○
	名詞句	○	○	×	○	○	○
否定のスコープ		複雑述語全体/先行動詞	複雑述語全体/先行動詞	複雑述語全体/先行動詞	後続動詞	後続動詞	後続動詞
単一動詞要素の答え	前項	×	×	×	○	×	△
	後項	×	×	×	○	○	○

(○は文が成立を示し、△は成立の場合も不成立の場合もあることを示し、×は不成立を示す)

[表 6]が示すように、日本語では、補助動詞型複雑述語のみが動詞要素の間に名詞句の挿入が許可されないの、補助動詞型複雑述語の独立性は連続動作型複雑述語と行為目的型複雑述語の独立性より低い。

日本語と対照し、中国語では、行為目的型複雑述語のみが文法助詞の挿入が許可されないし、後続動詞のみで疑問文に答えることができる。つまり、中国語では、行為目的型複雑述語の独立性は一番低い。また、連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞のどちらも述語として疑問文に答えることに対し、補助動詞型複雑述語の先行動詞または後続動詞で疑問文に答える場合があるし、後続動詞のみで疑問文に答える場合もあるので、中国語では、「動詞＋動詞」型複雑述語の独立性の高低順番は、連続動作型複雑述語＞補助動詞型複雑述語＞行為目的型複雑述語という順番である。

また、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の独立性を比べてみると、日本語では、単一の動詞要素を用いて疑問文に答えられないので、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語における動詞要素の独立性は日本語より高い。

4.7 本章のまとめ

本論文では、日本語および中国語における「動詞＋動詞」型複雑述語を「連続動作型複雑述語」「行為目的型複雑述語」「補助動詞型複雑述語」の3種類に分けた。さらに日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的な特徴と対照することで、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的な特徴を検討した。結果として以下の結論を得た。

日本語では、「動詞＋動詞」型複雑述語における動詞要素の間に助詞を挿入でき、連続動作型複合動詞と行為目的型複合動詞のみに名詞句を挿入できる。一方中国語では、「動詞＋動詞」型複雑述語における動詞要素の間に名詞句が挿入でき、補助動詞型複雑述語と連続動作型複雑述語のみに助詞が挿入できる。

また、日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素の文法的特徴を比べると、日本語では、複雑述語の全体あるいは先行動詞のみを否定しうるのに対し、中国語では、複雑述語における後続動詞のみを否定する。疑問文会話において、中国語の複雑述語における動詞要素の独立性は日本語の複雑述語より高いということが分かった。

さらに、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語と日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を簡単にまとめると、日本語の補助動詞型複雑述語の動詞要素の結び付きが一番強く、それに対し中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語においては行為目的型複雑述語の動詞要素の結び付きが一番強い。

第5章 「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の違い

本章では、日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語を研究対象とし、「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を検討する。前の動詞要素¹⁹と後ろの動詞要素の間の構文要素の挿入、単一の動詞要素を用いて疑問詞疑問文に答えられるかどうかに注目し、日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の区別に言及する。

5.1 はじめに

日本語にも中国語にも、2つの動詞から構成される構造を持っている。本論文では、2つの動詞要素が組み合わさって一語としてふるまうことを「動詞＋動詞」型複合動詞と呼び、2つの動詞要素がつながり、一語ではなくて文中に1つの述語としてふるまうことを「動詞＋動詞」型複雑述語と呼ぶ。

日本語には、「動詞＋動詞」型複合動詞および「動詞＋動詞」型複雑述語を構成する動詞要素の形態から、「動詞＋動詞」型複合動詞であるか「動詞＋動詞」型複雑述語であるかを判断できる。

- (1) 彼は青い海に向かって叫び続ける。
- (2) 彼はカバンを持って帰る。
- (3) 彼は遊びに来る。

例文 (1) の「叫び続ける」のように「動詞連用形＋動詞」という構造を持つのは「動詞＋動詞」型複合動詞である。例文 (2) の「持って帰る」のように「動詞テ形＋動詞」あるいは例文 (3) の「遊びに来る」のように「動詞連用形＋に＋動詞」という構造を持つのは「動詞＋動詞」型複雑述語である。

日本語と異なり、孤立語である中国語は語形変化をしない。前の動詞要素と後ろの動詞要素の形態から、「動詞＋動詞」型複合動詞であるか、「動詞＋動詞」型複雑述語であるかを判断できない。

¹⁹ 「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の前の要素と後ろの要素はすべて動詞である。「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞・後項動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の先行動詞・後続動詞を、本章では、すべて動詞要素と呼ぶ。

(4) 他 对着小李 大声 喊叫。
(彼 李さんに向かって 大きな声で 呼ぶ+叫ぶ)
「彼は李さんに向かって大声で叫ぶ」

(5) 他 喊来 小李。
(彼 呼ぶ+来る 李さん)
「彼は李さんと呼んでくる」

(6) 他 去买 书
(彼 行く+買う 本)
「彼は本を買いに行く」

例文 (4) の“喊叫”「(大声で) 叫ぶ」は動詞“喊”「(大声で) 呼ぶ」と動詞“叫”「叫ぶ」から構成された「動詞+動詞」型複合動詞であるが、例文 (5) の“喊来”「呼んでくる」は動詞“喊”「(大声で) 呼ぶ」と動詞“来”「来る」から構成された「動詞+動詞」型複雑述語である。例文 (6) の「動詞+動詞」型複雑述語“去买”「買いに行く」は動詞“去”「行く」と動詞“买”「買う」から構成される。形態から見ると、「動詞+動詞」型複合動詞“喊叫”「(大声で) 叫ぶ」と「動詞+動詞」型複雑述語“喊来”「呼んでくる」は両方とも2つの動詞から構成される。

本章では、「動詞+動詞」型複合動詞・「動詞+動詞」型複雑述語を構成する前の動詞要素と後ろの動詞要素の文法的特徴に着目し、日本語の「動詞+動詞」型複合動詞と「動詞+動詞」型複雑述語と中国語の「動詞+動詞」型複合動詞と「動詞+動詞」型複雑述語の相違点を明らかにする。

5.2 節では、「動詞+動詞」型複合動詞と「動詞+動詞」型複雑述語の違いに関する先行研究を概観する。5.3 節では、前の動詞要素と後ろの動詞要素の間に構文の意味に関する要素の挿入に注目し、「動詞+動詞」型複合動詞と「動詞+動詞」型複雑述語の相違点を検討する。5.4 節では、単一の動詞要素を用いて疑問詞疑問文に答えるかどうかに着目し、「動詞+動詞」型複合動詞と「動詞+動詞」型複雑述語の相違点を考察する。

5.2 先行研究の概観と問題点

本節では、日本語と中国語における「動詞+動詞」型複合動詞と「動詞+動詞」型複雑述語の区別を検討する先行研究を概観し、その中に存在する問題点を提出する。

影山 (1993: 169-170) では、「動詞+動詞」型複合動詞と異なり、「動詞テ形+動詞」の構造を持つ「動詞+動詞」型複雑述語の前の動詞要素と後ろの動詞要素の間に「も、さ

え、ばかり」を挿入できるし、名詞化の接尾辞「～方」は複雑述語に付かないと述べている。

- (7) a. *食糧を買い込み-サエ-始めた。
b. 食糧を買い込んで-サエ-おいた。
遊んで-バカリ-いる。

(影山 1993: 169 例(167))

- (8) a. (話しの) 切りだし方
しゃべり始め方, 話し終え方
b. *遊んでい方
* (推薦状の) 書いてもらい方

(影山 1993: 170 例(168))

姫野 (1999, 2018) では、「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞テ形＋動詞」の構造を持つ「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を3つの方面から研究を行う。

1. 「動詞＋動詞」型複合動詞の動詞要素の間には助詞「は」を挿入できず、「動詞＋動詞」型複雑述の動詞要素の間には助詞「は」を挿入できる
2. 「動詞＋動詞」型複合動詞における前項動詞要素の語彙的意味を保持される場合と変化する場合があるが、「動詞＋動詞」型複雑述語における前項動詞要素の語彙的意味をそのまま保持される
3. 「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞要素のみを否定形にならずに「動詞＋動詞」型複雑述語の前項動詞要素のみを否定形になる

(姫野 (1999, 2018) によりまとめ)

日高 (2018) では、アクセント構造に関して「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の違いを考察している。

複合動詞である「泣き叫ぶ」「嘆き悲しむ」は語として1つのアクセントを持つ（「1」はアクセントの位置である「下り目」を表す）。「泣いて叫ぶ」は「ないて1さけ1ぶ」のように句としての韻律が可能な一方、「ないてさけ1ぶ」のように韻律上は1語であるように振る舞うことができる。

(日高 2018: 25)

岳莎莎・吉田 (2010: 62)、姫野 (1999: 20)、姫野 (2018: 24) では、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の置き換えを次のように説明する：「語彙的複合動詞のほとんど（補文関係、比喻関係以外）は、二つの動詞を使ってそのまま「テ形」などほかの表現に言い換えられるが、統語的複合動詞はすべてテ形への言い換えが不可能である」。

(A) 並列関係

- (9) いじめられている子供が、泣いて喚いて助けを求めることができる人が子供には必要なのです。

(岳莎莎・吉田 2010: 62)

- (10) 花子ちゃんは同室の子のおもちゃを奪ったり、泣き喚いたりおもらしをしたりといった「赤ちゃん返り」の行動が続いた。

(岳莎莎・吉田 2010: 62)

(B) 原因

- (11) 外で働いて疲れた女性に食事の支度を下ごしらえからきちんとするところを求めるのは酷だ。

(岳莎莎・吉田 2010: 62)

- (12) 母は毎日働き疲れた様子で、家は極貧状態。私の幼児の記憶は、いつも祖母や父母の悲しげな姿につながる。

(岳莎莎・吉田 2010: 62)

(C) 付帯・様態

- (13) 歴史ある名木や巨木を、ソラール元職員の案内で見て回る。

(岳莎莎・吉田 2010: 62)

- (14) 地元に住む87歳の男性は内部を見回った後、「日本と中国の将来…」と話した。

(岳莎莎・吉田 2010: 62)

(D) 手段

- (15) (髪の) 色は落ちやすいと聞いていたので、とにかく、毎日洗って落ちそうと思った。

(岳莎莎・吉田 2010: 62)

(16) 大気の汚れを洗い落す雨上がりの翌日、早朝に富士山が見えることがある。

(岳莎莎・吉田 2010: 62)

中国語学では、動詞または動詞フレーズは文の述語になれるという指摘がある(劉月華(2001)、蕭橘(2010)、馬真(1997)、黄伯榮・廖序东(2007a, 2007b))。本論文では、“去买”「買いに行く」「买来」「買ってくる」のような動詞フレーズを「動詞+動詞」型複雑述語と呼ぶ。

興水・島田(2009: 20)では、「連語²⁰の構成と単語の構成は、基本的に同じルールにしたがっているため、2個の単語が組み合わさった連語は合成語²¹とまぎらわしい」と指摘している。興水・島田(2009)では、中国語のフレーズと合成語の相違点に言及していない。

黄伯榮・廖序东(2007a: 233)では、中国語の複合語を以下のように説明している。

“合成词有复合式，附加式，重叠式三种构词形式。复合式要由两个不相同的词根结合在一起。从词根和词根之间的关系看，主要有五种类型：联合型，偏正型，补充型，动宾型，主谓型。”

(複合語は複合式、付加式、重複式という三種の形式がある。複合式とは二つの異なる語幹で構成する。語幹と語幹の関係から見ると、主に、「並列式」「右側主要部式」「補充式」「述語+目的語」式、「主語+述語」式という5種類がある)

(黄伯榮・廖序东 2007a: 223)

黄伯榮・廖序东(2007b: 44-45)では、中国語の動詞フレーズを以下のように説明する。

“短语是意义上和语法上能搭配而没有句调的一组词，所以又叫词组。它是大于词而又不成句的语法单位。短语的基本类型是凭内部结构关系分的类型。……五种基本类型有主谓短语，动宾短语，偏正短语，中补短语，联合短语。”

(フレーズは意味上と文法上から構成されるが、文になれない一つのグループの語群である。そのため、語組とも呼ぶ。それは、語より広いが、文ではない文法の単位である。動詞フレーズの基本的な類型はその内部の構造関係によって分

²⁰ 中国語学には、「2つ以上の単語を組み合わせると連語になる」(興水・島田 2009: 21)。この連語は劉月華(2001)、蕭橘(2010)、馬真(1997)、黄伯榮・廖序东(2007b)に指定したフレーズは同じ構造を指す。

²¹ 興水・島田(2009: 8)では、中国語の合成語は「意味を表す成分が2つ以上組み合わせられていて語」を指す。

類されることである。…「主語＋述語」式、「述語＋目的語」式、「右側主要部式」、「述語＋補語」式、「並列式」という五種類がある)

(黄伯荣・廖序东 2007b: 44-45)

房玉清 (1992: 51-55) では、2つの動詞から構成される複合語は並列型複合語と補充型複合語があり、2つの動詞から構成されるフレーズは「動詞＋目的語」式と「述語＋補語」式、および、並列式という3種類のフレーズがあると指摘している。

日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点に関する先行研究においては、主に「動詞テ形＋動詞」という構造を持つ「動詞＋動詞」型複雑述語を研究対象として動詞要素の間の助詞挿入に注目しているが、「動詞連用形＋に＋動詞」のような複雑述語に関する先行研究が少ない。また、中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を詳しく説明されていない。

本章では、「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語における動詞要素の文法的特徴に注目し、日本語と対照することで、中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を明らかにする。

5.3 構文要素の挿入による複合動詞と複雑述語の違い

本節では、「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語における前の動詞要素と後ろの動詞要素の間に構文の意味に関する要素(本章の以下では「構文要素」と呼ぶ)の挿入に注目し、中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を考察する。

姫野 (1999: 5)(2018: 7) では、日本語には「動詞＋動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞の間に助詞「は」を挿入できず、「動詞＋動詞」型複雑述語の先行動詞と後続動詞の間に助詞「は」を挿入できると述べている。

(17) a. *やり-は-始める

b. やって-は-いる

(姫野 1999: 5)

(18) a. 目の前の路面で、ガラスの破片が飛び跳ねる。

(『失はれる物語』)

b. *目の前の路面で、ガラスの破片が飛び-は-跳ねる。

(19) a. 事務所で十ドルを払って運転免許証を受け取る。

(『ママは陽気なアラスカン』)

b. *事務所で十ドルを払って運転免許証を受け-から-取る。

(20) a. 服を洗い忘れた。

b. *服を洗い-も-忘れた。

例文 (18b) のように「動詞＋動詞」型複合動詞「飛び跳ねる」の間に助詞「は」を挿入できない。例文 (19b) の「動詞＋動詞」型複合動詞「受け取る」では、前項動詞「受ける」と後項動詞「取る」の間に接続助詞「から」を挿入できない。例文 (20b) が示すように、「動詞＋動詞」型複合動詞「洗い忘れる」の前項動詞と後項動詞の間にも助詞「も」を挿入できない。

日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞と違い、「動詞＋動詞」型複雑述語の先行動詞と後続動詞の間にほかの要素を挿入できる。

(21) a. 透析はたしかに生命を維持してくれる。

b. 透析はたしかに生命を維持して-は-くれる。

(『腎臓移植・希望の選択 あるビジネスマンの闘病記録』)

(22) a. ラジオを聞いて勉強する。

b. ラジオを聞いて-から-勉強する。

(23) a. 半分以上は外食ですし、1 週間に 1 ～ 2 回は飲みに行くし、ラーメンも食べます。

b. 半分以上は外食ですし、1 週間に 1 ～ 2 回は飲みにも-行くし、ラーメンも食べます。

(再掲)

例文 (21b) では、「動詞＋動詞」型複雑述語「維持してくれる」の前項動詞要素と後項動詞要素の間に助詞「は」を挿入できる。同様に、例文 (22b)(23b) が示すように、先行動詞と後続動詞の間に接続助詞「から」、助詞「も」を挿入できる。

(24) a. 彼は仕事を持ち帰る。

b. *彼は仕事を持ち-家に-帰る。(彼は仕事を家に持ち帰る)

- (25) a. 先生は本を持って帰った。
 b. 先生は本を持って-家に-帰った。

- (26) a. 本を借りに行く。
 b. 本を借りに-図書館-に行く。

例文 (24b) では、「家に」も移動の場所を表すが、「動詞+動詞」型複合動詞「持ち帰る」の前項動詞要素と後項動詞要素の間に挿入できない。一方、例文 (25b)(26b) では、「家に」「図書館に」は移動の場所を表し、複雑述語「持って帰る」「借りに行く」の前項動詞要素と後項動詞要素の間に挿入できる。

日本語では、「動詞+動詞」型複合動詞の動詞要素の間に構文要素を挿入できないが、「動詞+動詞」型複雑述語の動詞要素の間に構文要素を挿入できる。

朱茜 (2017b) によると、中国語の「動詞+動詞」型複合動詞において、統語的複合動詞の前項動詞要素と後項動詞要素の間に構造助詞²²“得”と否定を表す“不”を挿入できることが分かった。また、朱茜 (2019) によると、中国語の「動詞+動詞」型複雑述語において、動詞要素の間に助詞を挿入できるタイプと助詞を挿入できないタイプがあるので、本章では、中国語の「動詞+動詞」型複合動詞と「動詞+動詞」型複雑述語における動詞要素の間に助詞の挿入を検討しない。

日本語と同様に、中国語において、「動詞+動詞」型複合動詞の前項動詞と後項動詞の間にも名詞句を挿入できない。

- (27) a. 他 购买 了 公司 的 股票。
 (彼 買う+買う PERF 企業 の 株)
 「彼は企業の株を買った」
 b. *他购-公司的股票-买了。(彼は企業の株を買った)

- (28) a. 我 打碎 了 杯子。
 (私 打つ+壊れる PERF カップ)
 「私はカップを打ち壊した」
 b. *我打-杯子-碎了。(私はカップを打ち壊した)

²² 丸尾 (2010) では、中国語の助詞は「構造助詞」「アスペクト助詞」と「語気助詞」の3種類に分けられると指摘している。構造助詞は「語句の間の文法的関係を示すもの」であり、アスペクト助詞は「動詞の後に付加して、その動作の局面・状態を表す」ことであり、語気助詞は「文末に置いて疑問、確認、提案、感嘆など、話者の心情や態度を表す」ことである (丸尾 2010: 105)。

例文 (27b) の「動詞＋動詞」型複合動詞“购买”「買う」の動作対象“公司的股票”「企業の株」は前項動詞“购”「買う」と後項動詞“买”「買う」の間に挿入できない。例文 (28b) では、前項動詞“打”「打つ」の動作対象と後項動詞“碎”「壊れる」の主体とする“杯子”「カップ」も動詞要素の間に挿入できない。

一方、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語において、先行動詞と後続動詞の間に名詞句を挿入できる。

(29) a. 小王 请吃 火锅。

(PSN 招待する一食べる なべ)

「王さんはなべをご馳走する」

b. 小王 请-我-吃 火锅。

(PSN 招待する 私 食べる なべ)

「王さんは私になべをご馳走する」

(30) a. 我 去吃 饭。

(私 行く一食べる ご飯)

「私はご飯を食べに行く」

b. 我 去-食堂-吃 饭。

(私 行く 食堂 食べる ご飯)

「私は食堂に行ってご飯を食べる」

例文 (29b) では、先行動詞“请”「招待する」の動作対象とする“我”「私」は先行動詞“请”「招待する」と後続動詞“吃”「食べる」の間に挿入できる。例文 (30b) では、移動の場所を表す「食堂」「食堂」は先行動詞“去”「行く」の後に後置される。すなわち、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の先行動詞と後続動詞の間に構文要素を挿入できる。

日本語も中国語も、「動詞＋動詞」型複合動詞の動詞要素の間には構文要素を挿入できなく、「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素の間には構文要素を挿入できる。

5.4 単一の動詞要素による疑問文の答えにおける複合動詞と複雑述語の違い

本節では、疑問詞疑問文の答えに注目し、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を分析する。

日本語では、疑問詞疑問文に答えられるとき、「動詞＋動詞」型複合動詞も「動詞＋動詞」型複雑述語も単一の動詞要素を用いて述語として疑問詞疑問文に答えられない。

(31) Q: 先生は何を飲み始めたか？

A: ? 日本酒を飲んだ。(日本酒を飲み始めた)

(32) Q: どんなことでペンキを壁からこすり落としたか？

A: ? 指でこすった。(指でこすり落とした)

(33) Q: 何回書き直したか？

A: ? 三回書いた。/? 三回直した。(三回書き直した)

(34) Q: 君何を持ってくる？

A: ? りんごを持つ。(りんごを持ってくる)

(35) Q: 君は何を買いに行く？

A: ? 本を買う。(本を買いに行く)

(36) Q: 太郎は何を持って帰った？

A: ? 本を持った。(本を持って帰った)

日本語では単一の動詞要素を用いて「動詞＋動詞」型複合動詞の疑問詞疑問文に答えられないのと同様に、中国語でも「動詞＋動詞」型複合動詞の疑問詞疑問文に答えられるとき、単一の動詞要素を用いて答えられることができない。

(37) Q: 老师 昨天 批评 了 谁？

(先生 昨日 指示する＋評価する PERF 誰)

「昨日、先生は誰を叱ったか？」

A: *批了小明。/*评了小明。(批评了小明「小明さんを叱った」)

(38) Q: 论文 大约 什么时候 写完？

(論文 大体 いつ 書く＋終わる)

「論文はいつ書き終わるか？」

A: *大约明天能写。/*大约明天能完。（大约明天能写完「大体明日が書き終える」）

(39) Q: 衣服 哪里 磨破 了?

(服 どこ 磨く+破る PERF)

「(服の) どこが破ったか」

A: *袖子磨了。/? 袖子破了。（袖子磨破了「袖が破った」）

(40) Q: 今天 展览馆 展出 了 什么 东西 吗?

(今日 パビリオン 展示する+出す PERF 何 もの PTCL)

「今日、パビリオンにどのような展示品を展示したか」

A: ? 展了明代的瓷器。/*出了明代的瓷器。

(展出了明代的瓷器。「明の磁器を展示した」)

例文 (37)では、「動詞+動詞」型複合動詞“批评”“叱る”が述語とする疑問文に答えられるとき、前項動詞“批”“指示する”または後項動詞“评”“評価する”のみが述語として疑問文に答えられない。例文 (38) にも、前項動詞“写”“書く”と後項動詞“完”“終わる”のように単一の動詞要素を用いて疑問文に答えられない。例文 (39)では、動作の結果を表す“破”“破る”は「動詞+動詞」型複合動詞の意味の中心であるので、“袖子磨了”“袖を磨いた”のように前項動詞“磨”“磨く”のみを用いて述語として疑問文に答えられない。一方、疑問文の答えでなければ、“袖子破了”“袖が壊れた”は成立であるが、(39) の疑問文の答えとして、“磨”“磨く”がないと文の情報が不足であるので、後項動詞“破”“破る”は単独で文の述語にならない。例文 (40) も同様に、前項動詞“展”“展示する”または後項動詞“出”“出る”のような単一の動詞要素で疑問文に答えられない。

中国語の「動詞+動詞」型複雑述語においては、日本語とは異なり、単一の動詞要素を用いて疑問詞疑問文に答えられることができる。

(41) Q: 今天 谁 请吃 饭?

(今日 誰 ご馳走する-食べる ご飯)

「今日のご飯は誰がもてなすか?」

A: 小王 请。
(PSN ご馳走する)
「王さんがもてなす」

(42) Q: 信 寄给 谁?
(手紙 郵送する－あげる 誰)
「この手紙は誰に送ってあげるか？」

A: 给 我 朋友。
(あげる 私 友達)
「私の友達にあげる」

(43) Q: 你 去买 什么?
(君 行く－買う 何)
「何を買いに行くか？」

A: 买书。
(買う 本)
「本を買う」

例文 (41) では、「動詞＋動詞」型複雑述語“请吃”「もてなす」の先行動詞“请”「誘う」のみを述語として疑問文に答えられることができる。例文 (42)(43) も同様に、後続動詞“给”「あげる」「买”「買う」のみを用いて文の述語として疑問文に答えられることができる。

日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞も「動詞＋動詞」型複雑述語も単一の動詞要素を用いて疑問詞疑問文に答えられないことと異なり、中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞において、単一の動詞要素を用いて、疑問詞疑問文に答えられなく、「動詞＋動詞」型複雑述語の疑問詞疑問文に答えられることができる。

5.5 本章のまとめ

本章では、構文要素の挿入、単一の動詞要素を用いて疑問詞疑問文に答えられるかどうか注目し、「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を検討した。日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を[表 7]のようにまとめる。

[表 7] 日中語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の対照

	日本語		中国語	
	複合動詞	複雑述語	複合動詞	複雑述語
形態	動詞連用形＋動詞	動詞テ形＋動詞	動詞＋動詞	動詞＋動詞
		動詞連用形＋に＋動詞		
構文要素挿入	不可	可	不可	可
疑問詞疑問文の答え	単一の動詞要素で不可	単一の動詞要素で不可	単一の動詞要素で不可	単一の動詞要素で可能

[表 7]が示すように、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語は形態から判断できる。「動詞＋動詞」型複合動詞の形態は「動詞連用形＋動詞」であるが、「動詞＋動詞」型複雑述語の形態は「動詞テ形＋動詞」または「動詞連用形＋に＋動詞」である。また、「動詞＋動詞」型複合動詞の動詞要素の間に構文要素を挿入できず、「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素の間に構文要素を挿入できる。

中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語は形態から判断できない。また、「動詞＋動詞」型複合動詞において、動詞要素の間に構文要素を挿入できないし、単一の動詞要素を用いて疑問詞疑問文に答えられない。一方、「動詞＋動詞」型複雑述語において、前の動詞要素と後ろの動詞要素の間に構文要素を挿入できるし、単一の動詞要素を用いて疑問詞疑問文に答えられることができる。

第 6 章 連続動作型複雑述語

第 4 章では連続動作型複雑述語の定義を述べた。本章では日中語の連続動作型複雑述語について詳しく検討する。連続動作型複雑述語とは、先行動詞と後続動詞が両方とも本動詞であり、日本語の「動詞テ形＋動詞」または中国語の「動詞＋動詞」という構造を持つものを指す。本章では、日本語と中国語の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の意味関係、および、連続動作型複雑述語の文法的特徴に着目し、日本語と中国語における連続動作型複雑述語の相違点に言及する。

6.1 はじめに

日本語にも中国語にも、連続動作型複雑述語が存在している。

- (1) それらの本はすべて面白い。私は一度に 3 冊を買って読んだ。
- (2) オレンジを切って分ける。
- (3) 彼はそれを持って帰った。
- (4) 魚を焼いて食べる。

例文 (1)~(4) の「買って読む」「切って分ける」「持って帰る」「焼いて食べる」のように、日本語の連続動作型複雑述語は「動詞テ形＋動詞連用形」という形式を用いて先行動詞と後続動詞は意味的に対等的な関係を持ち、動作が順番に行うことである。

- (5) 我们 起立^欢呼。
(私たち 起立する－歓呼する)
「私たちは起立して歓呼する」

- (6) 窗外 的 乌鸦 被 吓飞 了。
(窓の外 の カラス PASS 驚く－飛ぶ PST)
「外のカラスは驚かされて、飛んだ」

- (7) 我 喜欢^吃 鱼。
(私 好む－食べる 魚)
「私は魚を食べるのが好きだ」

例文 (5)~(7) の“起立欢呼”「起立して歡呼する」「吓飞」「驚いて飛ぶ」「喜欢吃」「食べることが好き」のように、中国語の連続動作型複雑述語は、「動詞＋動詞」という形式を用いて先行動詞と後続動詞の意味が対等であり、動作が順番に行うことである。

本章では、日本語と中国語の連続動作型複雑述語における先行動詞と後続動詞の意味関係、主語と目的語が先行動詞と後続動詞との文法関係に注目し、日本語と中国語における連続動作型複雑述語が意味上、文法上の相違点を考察する。

6.2 節では、連続動作型複雑述語に関する先行研究を概観し、先行研究の問題点を提出する。6.3 節では、日本語と中国語の連続動作型複雑述語には、先行動詞と後続動詞の意味関係を説明する。6.4 節では、日本語と中国語の連続動作型複雑述語構文において、先行動詞と後続動詞の指向成分（指向成分とは先行動詞または後続動詞と意味関係・文法関係があることを指す）から連続動作型複雑述語の文法的特徴を説明する。6.5 節では、日本語と中国語の連続動作型複雑述語を対照し、日本語と中国語の相違点をまとめる。

6.2 連続動作型複雑述語に関する先行研究の概観と問題点

本節では日本語記述文法研究会 (2008)、益岡 (2012)、仁田 (1995) などの先行研究を概観し、連続動作型複雑述語を説明する。

中谷 (2015) では後項要素がテイク、テクルなどの「V1 テ V2」構文をテ形複雑述語と呼ぶ。

浅尾 (2009) では日本語における二つの動詞が連続して述語になる構文を連用形動詞連続（「読み始める」）とテ形動詞連続（「聞いてみる」）に分けている。テ形動詞連続をさらに語彙的テ形動詞連続（「買って出る」）、補助的テ形動詞連続（「買っておく」）、統語的テ形動詞連続（「買って帰る」）に分けている。

ヘルマニンシ (2005) では「動詞テ形＋動詞」という構造を「後続動詞が主動詞」と「後続動詞が補助動詞」という2種類に分けている。

本論文の連続動作型複雑述語は、動詞が連続し、先行動詞と後続動詞は両方とも本動詞であり、先行動詞と後続動詞は各々の意味を持ち、意味上・文法上に同等である「動詞＋動詞」型複雑述語を指す。

日本語記述文法研究会 (2008) では、テ形の複合述語用法とテ形の複文用法について説明している。日本語記述文法研究会 (2008: 280-281) では、テ形が補助動詞と結びついて複雑述語を構成するとき、「アスペクト的な述語形式となる場合」、「意志・意図を表す述語形式となる場合」、「授受動詞と結びついた場合」、「モダリティ場合（てほしい）」という4つの用法がある。複合述語用法に比べて、テ形の複文用法には並列、対比、逆接、

継起、前触れ²³、付帯状況、順接条件²⁴、原因・理由という 8 種類がある（日本語記述文法研究会 2008: 281-287）。

(8) 並列：男たちは狩りをして、女たちは木の実を集めた。

（日本語記述文法研究会 2008: 282）

対比：弟は結婚して、妹はまだ独身です。

（日本語記述文法研究会 2008: 282）

逆接：悪事を見て見ぬふりするのは、卑怯なことだ。

（日本語記述文法研究会 2008: 284）

継起：新宿へ行って、映画を見た。

（日本語記述文法研究会 2008: 282）

前触れ：問題が一つあって、父は英語が話せないのである。

（日本語記述文法研究会 2008: 282）

付帯状況：手を振って、進行した。

（日本語記述文法研究会 2008: 287）

順接条件：歩いて 20 分かかる。

（日本語記述文法研究会 2008: 286）

原因・理由：悲しい話を聞いて、涙がこぼれ落ちた。

（日本語記述文法研究会 2008: 284）

益岡 (2012:3) では、「テ形接続が表す連用関係の主要な意味領域（改訂）〔並列・時間・論理（広義因果）・様態〕」ということを指摘している。

仁田 (1995) ではシテ形接続について、付帯状況、時間的継起、起因的継起²⁵、並列に分けている。

日本語記述文法研究会 (2008) では、動詞のテ形の複雑述語用法と複文用法について述べている。しかし、日本語記述文法研究会 (2008) のテ形の複雑述語用法は補助動詞的複雑述語を中心に検討している。益岡 (2012)、仁田 (1995) では、複文におけるテ形接続の用法をめぐって分析している。本章では、日本語と中国語の連続動作型複雑述語における先行動詞と後続動詞の間の意味的關係、文法的特徴に注目し、日本語と中国語の連続動作型複雑述語を対照し、両言語の相違点を分析する。

²³ 日本語記述文法研究会 (2008:282) によれば、前触れとは「従属節で抽象的・概括的・結論的に述べた内容を、主節で具体的・詳細に述べ直す」という用法である。

²⁴ 日本語記述文法研究会 (2008:286) によれば、順接条件とは「主節の事態が従属節の事態が起こった場合にのみ発生する」という用法である。

²⁵ 仁田 (1995:110) によれば、起因的継起とは「シテ節で表される先行生起している事象が、主たる事象の生起にとって起因的に働いている」という用法である。例えば、「山の手線の電車で跳ね飛ばされて怪我をした、～」(仁田 1995:111 例文 (6)) である。

6.3 日本語と中国語の連続動作型複雑述語の意味関係

本節では、日本語と中国語の連続動作型複雑述語における先行動詞と後続動詞の意味関係に注目し、日本語と中国語における連続動作型複雑述語の意味上の相違点を分析する。

6.3.1 日本語の連続動作型複雑述語の意味関係

本節では、日本語の連続動作型複雑述語における先行動詞と後続動詞の意味関係を説明する。

(A) 時間的継起：

(9) 利用者が預金を引き出したついでに商品を買って帰る。

(『流通経済の手引』)

(10) 食器を洗って戻した。

(11) 19 世紀の偉大な実証主義も同様に、科学的言表があらゆる事物に関わる世論や信仰に取って代わる。

(『レーニン、毛、終わった 党組織論の歴史的経験の検証』)

(12) 窓ガラスが割れて落ちた。

例文 (9) の連続動作型複雑述語「買って帰る」では、先行動詞「買う」と後続動詞「帰る」は単に時間的な前後に行う。つまり、「商品を買う。それから、帰る」という意味である。例文 (10) の「洗って戻す」も同様に、「食器を洗ってから、元の所に戻す」の意味を表す。「洗う」と「戻す」は単に時間的に継起している。すなわち、連続動作型複雑述語の「買って帰る」「洗って戻す」のように、先行動詞と後続動詞が「～する。それから、～する」という意味関係を持つのが時間的継起の特徴である。

日本語では、2つの動詞が連続して、連続動作型複雑述語になるとき、先行動詞と後続動詞は時間的な関係を持つだけでなく、因果関係、様態、手段、逆接のような意味的關係がある場合も存在している。

(B) 因果関係：

(13) 今朝、電車が遅れて遅刻した。

(14) 今回の運動会は雨が降って中止された。

(15) 仕方なく水鉢をかなづちで叩いて壊してみました。

(BCCWJ)

(16) 3 時間ぐらい歩いて疲れたけどめっちゃ楽しかった。

例文 (13) の連続動作型複雑述語「遅れて遅刻する」では、「電車が遅れたので、遅刻した」という意味である。先行動詞「遅れる」は原因を表し、後続動詞「遅刻する」はその結果を表す。例文 (14) の連続動作型複雑述語「降って中止される」では、先行動詞「降る」は「中止される」の原因を表し、今回の運動会が中止される原因は雨が降るからである。例文 (15) では、「水鉢を金槌で叩いたので、水鉢が壊した」という意味であり、先行動詞「叩く」は「壊す」という結果を行う原因を表す。例文 (16) でも、先行動詞「歩く」と原因を表し、後続動詞「疲れる」は「歩く」の結果を表し、「3 時間を歩いたので、疲れた」という意味を表す。例文 (13)~(16) のように、先行動詞と後続動詞が「～するので、～する」のような意味関係を持つのが因果関係の特徴である。

(C) 様態：

(17) 白石組に入ってから毎日汗水を流して働いた。

(『親分—日本アウトロー烈伝—』)

(18) 彼女はきれいな服を買うために一つずつショッピングサイトを巡って探す。

(19) 入り口外の柱のコンクリのブロックを椅子代わりに座って食べた。

(BCCWJ)

(20) 佐吉は板場の仕事を終わると遊んで歩く。

(『桃色月夜』)

例文 (17) の連続動作型複雑述語「流して働く」では、汗水を流しながら働いていることを表す。先行動詞「流す」は後続動詞「働く」の様態である。例文 (18) の連続動作型複雑述語「巡って探す」には、ショッピングサイトを一つ一つ巡りながら、きれいな服を探しているという意味であり、「巡る」は「探す」の様態を表す。例文 (19)(20) でも同様に、先行動詞「座る」「遊ぶ」は後続動詞「食べる」「歩く」の様態であり、「座りながら食べる」「遊びながら歩く」という意味を表す。連続動作型複雑述語における先行動詞と後続動詞が「～しながら～する」のような意味関係を持つのが様態の特徴である。

(D) 手段：

(21) この種をそのまま土に植えて育てましょう。

(22) 望遠鏡を使って観測する。

(23) 虎王が扉を蹴って開ける。

(『虎王伝 魔界皇子』)

例文 (21)~(23) の連続動作型複雑述語「植えて育てる」「使って観測する」「蹴って開ける」において、先行動詞「植える」「使う」「蹴る」「洗う」は後続動詞の手段を表す。例文 (21) の場合、土の中に埋めることによって、その種を育てる。例文 (22) では、望遠鏡を使うことによって、(空、星などを) 観測する。すなわち、先行動詞と後続動詞が「~することによって、~する」という意味関係を持つのが手段の特徴である。

(E) 逆接：

(24) 彼はそんなにお酒を飲んで酔わなかった。

(25) 彼は知っていて教えてくれない。

例文 (24) の連続動作型複雑述語「飲んで酔わない」では、「飲んだのに、酔わなかった」という意味であり、つまり、先行動詞「飲む」と後続動詞「酔わない」の間には逆接の関係がある。例文 (25) にも、「知っているのに、教えない」のように解釈できる。先行動詞「知っている」と後続動詞「教えない」の間関係は逆接である。すなわち「~するのに、~しない」のような意味を持つ意味関係が逆接の特徴である。

日本語の連続動作型複雑述語における先行動詞と後続動詞の間に、時間的継起、因果関係、手段、様態、逆接という 5 つの意味関係がある。

6.3.2 中国語の連続動作型複雑述語の意味関係

本節では、中国語の連続動作型複雑述語における先行動詞と後続動詞の意味関係を説明する。

中国語の連続動作型複雑述語において、先行動詞と後続動詞の間に、時間的継起、因果関係、手段、補文関係という 4 つの意味関係がある。

(A) 時間的継起：

(26) 职工 的 工资标准， 工资形式 等， 由 董事会 讨论^決定。

(職員 の 給料の基準、給料の形式 など から 取締役会 相談する一決める)

「職員の基本給料、給料の(支払い)形式などは、取締役会に相談されて決まる」

(《技术贸易实务》)

(27) 全场 起立^欢呼。

(満場 起立する－欢呼する)

「満場の人が起立して欢呼する」

(《鏡子里的陌生人》)

(28) 改天 我 请喝 酒。

(他日 私 誘う－飲む お酒)

「他日に私はお酒を誘う」

(《四世同堂》)

(29) 他 在 西沙群岛 的 北岛 考察^发现 了 年代

(彼 に パラセル諸島 の ノース島 考察する－発見する PST 年代

至少 为 明清 以来 的 一系列 住居遗址。

少なくとも になる 明清 以来 の 大規模 住居跡)

「彼はパラセル諸島のノース島に考察して、その年代が少なくとも明清以来の大規模な住居跡を発見した」

(《人民日报》 1995 年 3 月)

例文 (26) では、先行動詞“讨论”「相談する」と後続動詞“決定”「決める」は時間的に継起している。“讨论之后决定”「相談した。それから、(結果を)決める」という言い方に置き換える。先行動詞“讨论”「相談する」という動作が行った後、後続動詞“決定”「決める」という動作が行う。例文 (27) でも同様に、先行動詞“起立”「起立する」と後続動詞“欢呼”「歡呼する」も時間的継起という意味関係により構成される。“全场起立之后(大声)欢呼”「満場が起立してから、歡呼する」という言い方と同じ意味である。先行動詞“起立”「起立する」と後続動詞“欢呼”「歡呼する」が前後に実現する。例文 (28)(29) の連続動作型複雑述語“请喝”「(お酒を)誘う」「考察发现」「考察して発見する」の先行動詞と後続動詞の意味関係は時間的継起である。つまり“～之后”「～した後～する」という意味関係を持つのが時間的継続の特徴である。

中国語の連続動作型複雑述語においても、先行動詞と後続動詞の間には、時間的継起という関係だけでなく、因果関係、手段という意味的關係も存在している。

(B) 因果関係：

(30) 他 训哭 了 妹妹。

(彼 叱る－泣く PERF 妹)

「彼は妹を叱って、妹が泣いた」

(31) 他 被 吓晕 了。

(彼 PASS 驚く－気絶する PERF)

「彼は驚いて気絶した」

(32) 一阵风 把 他 的 帽子 吹跑 了。

(一陣の風 前置詞 彼 の 帽子 吹く－走る PERF)

「風が彼の帽子を飛ばした」

(下地 2018: 327)

例文 (30) では、連続動作型複雑述語“训哭”「叱って、泣かせる」の先行動詞“训”「叱る」は後続動詞“哭”「泣く」の原因を表し、“因为被训了所以哭了”「叱られたので泣く」という意味である。例文 (31)(32) も同様に、先行動詞“吓”「驚く」「吹」「吹く」は原因を表し、後続動詞“晕”「気絶する」「跑」「走る」は先行動詞の結果を表す。すなわち、中国語では、先行動詞と後続動詞が“因为～所以～”「～したので、～する」のような意味関係を持つのが因果関係の特徴である。

(C) 手段：

(33) 这 本 书 我 能 借看 一会儿 吗？

(この 冊 本 私 できる 借りる－見る しばらく PTCL)

「この本について、私はしばらく借りて読むことができるか」

(再掲)

(34) 这间房子 我 租用 一年 了 。

(この部屋 私 賃借りする－使う 一年間 PERF)

「この部屋は私が一年間を借りて使った」

(35) 我 能 借使 一下 这只笔 吗？

(私 できる 借りる－使う ADV このペン PTCL)

「このペンは私に借りてくれるか？」

例文 (33) の連続動作型複雑述語“借看”「借りて見る」では、“通过借的方式来看”「借りることによって、見る」という意味であり、先行動詞“借”「借りる」は手段を表す。例文 (34)(35) の連続動作型複雑述語“租用”「賃借りして使う」「借使」「借りて使う」には、先行動詞“租”「賃借りする」「借」「借りる」と後続動詞“用”「使う」「使」「使う」の間の意味関係も手段である。「大家さんから部屋を賃借りするという手段を利用してこの部屋を使う」という意味であり、先行動詞“租”「貸す」は後続動詞“用”「使う」という動作が実現するための手段を表す。つまり、中国語では、先行動詞と後続動詞が“通过～，～”「～することによって～する」という意味関係を持つのが手段の特徴である。

中国語の連続動作型複雑述語において、先行動詞と後続動詞は補文関係による構成されることもある。以下の例文 (36)~(39) の連続動作型複雑述語“准备写”「書くことを準備する」、「希望成为」「なることを望む」、「喜欢唱」「歌を歌うことが好きだ」「爱喝」「飲み物が好きだ」を例として説明する。

(D) 補文関係：

(36) 我 准备^写 关于 国际商务谈判的文章。

(私 準備するー書く について 国際ビジネス交渉の論文)

「私は国際ビジネス交渉に関する論文を書くことを準備している」

(37) 我 希望^成为 大富翁。

(私 望むーなる 大金持ち)

「私は大金持ちになることを望む」

(38) 他 喜欢^唱 林俊杰 的 歌。

(彼 好むー歌う PSN の 歌)

「彼はよく林さんの歌を歌う」

(39) 我 爱喝 牛奶。

(私 愛するー飲む 牛乳)

「私は牛乳が好きだ」

例文 (36) の連続動作型複雑述語“准备写”「書くことを準備する」では、先行動詞“准备”「準備する」と後続動詞“写”「書く」の間には、補文関係がある。後続動詞“写”「書く」は先行動詞“准备”「準備する」の目的語になる。例文 (37) の連続動作型複雑述語“希望成为”「成ることを望む」も同様に、後続動詞“成为”「成る」は先行動詞“希

望」「望む」の目的語になり、先行動詞“希望”「望む」と後続動詞“成为”「成る」は補文関係を持っている。例文 (38)(39) も同様に、後続動詞“唱”「歌う」「喝”「飲む」の意味役割は先行動詞“喜欢”「好む」「爱”「愛する」の動作対象である。例文 (36)~(39) から見ると、先行動詞と後続動詞が補文関係である。

日本語において、先行動詞と後続動詞とは様態関係を持っている。日本語と異なり、中国語において、動詞を用いて後項述要素の様態を表す場合、「動詞+“着”+動詞」という形式で表す。

(40) 这 是 给 你 的, 你 拿-着-吃 吧。

(これは あげる あなた の あなた 持つ zhe 食べる ましょう)

「これが君にあげたのもですから、君は持ちながら食べましょう」

(41) 他 总是 躺-着-看 电视。

(彼 いつも 横になる zhe 見る テレビ)

「彼はいつも横になって、テレビを見る」

また、中国語には、先行動詞と後続動詞の意味的關係が逆接である場合、接続詞“但”「しかし」、「却”「けれども」を用いて前後の逆接を表す。

(42) 他 喝 了 那么 多 酒 却 没有 醉。

(彼 飲む PST そんなに 多い お酒 que NEG 酔う)

「彼はそんなにお酒を飲んで酔わなかった」

(43) 他 知道 但 不 教 我。

(彼 知る dan NEG 教える 私)

「彼は知っていて教えてくれない」

中国語の連続動作型複雑述語において、先行動詞と後続動詞の間に時間的継起、因果関係、手段、補文関係という4つの意味関係がある

日本語にも中国語にも、時間的継起、因果関係、手段という3つの意味関係により構成される連続動作型複雑述語が存在していることが分かった。一方、日本語には、様態と逆接という2つの意味関係により構成される連続動作型複雑述語が存在しているが、中国語には、連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の間に様態と逆接の意味関係がなくて、補文関係がある。

6.4 日本語と中国語の連続動作型複雑述語の文法的特徴

本節では、日本語と中国語の連続動作型複雑述語構文において、構文中の主語・目的語と先行動詞・後続動詞との文法関係に着目し、日本語と中国語における連続動作型複雑述語の文法的特徴を検討する。

6.4.1 日本語の連続動作型複雑述語の文法的特徴

6.3.1 節から日本語の連続動作型複雑述語において、先行動詞と後続動詞の間に 5 つの意味関係があることが分かった。本節では、日本語の 5 種類の連続動作型複雑述語構文において、先行動詞・後続動詞が構文中のどの成分を指向するかに注目し、日本語の連続動作型複雑述語の文法的特徴を考察する。

本論文での「指向」とは、連続動作型複雑述語の先行動詞・後続動詞が構文中の主語・目的語と意味関係・文法関係を持つことを指す。（例えば、先行動詞が主語と意味関係・文法関係がある場合、先行動詞が主語を指向し、主語が先行動詞の指向成分だと言う。）

(A) 時間的継起：

日本語の時間的継起の意味関係を持つ連続動作型複雑述語構文において、先行動詞と後続動詞の指向成分が一致²⁶する。

(44) 図書館から本を借りて読む。

(45) 野菜を洗って食べる。

(46) そして私は書き損じた遺書をぜんぶ細かく破って捨てました。

（『ねじまき鳥クロニクル』）

(47) 皆が起立して拍手する。

(48) テーブルに置かれたグラスが倒れて落ちる。

例文 (44) では、省略された主語「私」は先行動詞「借りる」と後続動詞「読む」の動作主であり、目的語「本」も先行動詞「借りる」と後続動詞「読む」の動作対象である。つまり、先行動詞「借りる」は省略された主語「私」と目的語「本」を指向し (44'a)、後続動詞「読む」も主語「私」と目的語「本」を指向する (44'a)。例文 (45')(46') が示すように、連続動作型複雑述語「洗って食べる」「破って捨てる」には、先行動詞と後続動詞は主語とも目的語とも指向する。例文 (47')(48') から見ると、連続動作型複雑述語「起立して拍手する」「倒れて落ちる」の先行動詞とも後項動詞とも自動詞から構成され、連続

²⁶ 本論文での「一致」は、先行動詞と後続動詞が同じ成分を指向することを指す。

動作型複雑述語構文に目的語がないので、先行動詞と後続動詞は主語のみを指向する。

(44') a. (私は) 図書館から本を借りる。

b. (私は) 本を読む。

(45') a. (私は) 野菜を洗う。

b. (私は) 野菜を食べる。

(46') a.そして私は書き損じた遺書をぜんぶ細かく破った。

b.そして私は書き損じた遺書を捨てました。

(47') a.皆が起立する。

b.皆が拍手する。

(48') a.テーブルに置かれたグラスが倒れる。

b.テーブルに置かれたグラスが落ちる。

上述した例文から見ると、日本語には、時間的継続の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分が一致し、主語と目的語または主語のみを指向できる。

(B) 因果関係：

因果関係により構成される連続動作型複雑述語構文において、先行動詞と後続動詞の指向成分が一致しない。

(49) 今回の運動会は雨が降って中止された。

(50) 今朝、電車が遅れて遅刻した。

例文 (49) では、先行動詞「降る」は主語「雨」を指向する (49'a) が、後続動詞「中止される」は主題「今回の運動会」を指向する (49'b) 。例文 (50) では、先行動詞は主語「電車」を指向する (50'a) が、後続動詞「遅刻する」は主語「電車」を指向しない (50'b) 。

(49') a.雨が降った。

b.今回の運動会は中止された。

(50') a.今朝、電車が遅れた。

b. ? 今朝、電車が遅刻した。

日本語には、因果関係の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分が一致しない。先行動詞は主語を指向し、後続動詞は主題を指向する。

(C) 様態：

様態の意味関係により構成される連続動作型複雑述語構文において、先行動詞と後続動詞の指向成分が部分的に一致する。

(51) 彼はあちらこちらにおいをかいで歩く。

(52) 私は、小学生の二人の女の子を連れて、彼を追って走りました。

(53) (君は) もっと手を振って歩きましょ。

(『教育学・私の方法 教育とは何か』)

例文 (51) の連続動作型複雑述語構文において、先行動詞「嗅ぐ」は主語「彼」とも目的語「匂い」とも指向する (51'a) が、後続動詞「歩く」は主語「彼」のみを指向し、目的語「匂い」を指向しない (51'b) 。例文 (52)(53) でも同様に、先行動詞「追う」「振る」は主語「私」「君」とも目的語「彼」「手」とも指向する (52'a)(53'a) が、後続動詞「走る」「歩く」は主語「私」「君」のみを指向する (52'b)(53'b)。

(51') a. 彼はあちらこちらにおいをかぐ。

b.*あちらこちらにおいを歩く。(彼はあちらこちらに歩く。)

(52') a. 私は、小学生の二人の女の子を連れて、彼を追った。

b.*私は、小学生の二人の女の子を連れて、彼を走りました。

(私は、小学生の二人の女の子を連れて、走りました。)

(53') a. (君は) もっと手を振る。

b.*もっと手を歩きましょ。(君は歩きましょ)

日本語には、様態の連続動作型複雑述語の先行動詞とも後続動詞とも主語を指向できる。一方先行動詞は目的語を指向できるが、後続動詞は目的語を指向できない。つまり、様態の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分が部分的に一致する。

(D) 手段 :

手段の意味関係により構成される連続動作型複雑述語構文において、先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する。

(54) (彼は) 草木の芽や実を指先でちぎって取る。

(<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/ちぎって>)

(55) お母さんはスイカを切って分けた。

(56) 太郎は窓を押して開けた。

例文 (54) の連続動作型複雑述語「ちぎって取る」では、先行動詞「ちぎる」は主語「彼」とも目的語「草木の芽や実」とも指向する (54'a) し、後続動詞「取る」も主語「彼」と目的語「草木の芽や実」を指向する (54'b) 。例文 (55)(56) でも同様に、先行動詞と後続動詞は主語とも目的語とも指向できる (58')~(60')。

(54') a. (彼は) 草木の芽や実を指先でちぎる。

b. (彼は) 草木の芽や実を取る。

(55') a. お母さんはスイカを切った。

b. お母さんはスイカを分けた。

(56') a. 太郎は窓を押した。

b. 太郎は窓を開けた。

日本語には、手段の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する。先行動詞と後続動詞は主語とも目的語とも指向できる。

(E) 逆接 :

逆接により構成される連続動作型複雑述語構文において、先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する。

(57) 彼はそんなにお酒を飲んで酔わなかった。(再掲)

(58) 彼は知っていて教えてくれない。(再掲)

例文 (57') が示すように、連続動作型複雑述語「飲んで酔わない」の先行動詞「飲む」

と後続動詞「酔わない」の指向成分が一致し、両方とも主語「彼」と目的語「お酒」を指向する。例文 (58') から見ると、複雑述語「知っていて教えてくれない」の先行動詞とも後続動詞とも主語「彼」を指向する。

(57') a. 彼はそんなにお酒を飲んだ。

b. 彼はそんなにお酒に酔わなかった。

(58') a. 彼は知っている。

b. 彼は教えてくれない。

日本語には、逆接の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分が一致し、主語と目的語または主語のみを指向できる。

日本語には、時間的継起、手段、逆接という意味関係により構成される連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する。時間的継起と逆接という意味関係を持つ連続動作型複雑述語には、先行動詞と後続動詞は主語と目的語または主語のみを指向できる。手段という意味関係を持つ連続動作型複雑述語には、前項動詞と後続動詞は主語と目的語を指向できる。

一方、因果関係という意味関係により構成された連続動作型複雑述語には、先行動詞と後続動詞の指向成分が一致しない。先行動詞は主語を指向するが、後続動詞は主題を指向する。様態という意味関係により構成された連続動作型複雑述語には、先行動詞と後続動詞の指向成分が部分的に一致する。先行動詞は主語とも目的語とも指向できるが、後続動詞は主語のみを指向できる。

6.4.2 中国語の連続動作型複雑述語の文法特徴

6.3.2 節から中国語の連続動作型複雑述語において、先行動詞と後続動詞の間に 4 つの関係があることが分かった。本節では、中国語の連続動作型複雑述語構文において、先行動詞・後続動詞が構文中のどの成分を指向するか注目し、中国語の連続動作型複雑述語の文法的特徴を考察する。

(A) 時間的継起：

中国語には、時間的継起により構成される連続動作型複雑述語において、先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する場合がある。

(59) 我们 讨论^总结 了 这一年来的经验教训。
(私たち 検討するー結論する PERF この一年間の経験と教訓)
「私たちはこの一年間の経験と教訓を検討してまとめた」

(60) 警察 调查^收集 了 他的犯罪证据。
(警察 調査するー収集する PERF 彼の犯罪の証拠)
「警察は彼の犯罪の証拠を調査して収集した」

(61) 课长 今天 请吃 大餐。
(課長 今日 招待するー食べる 素敵な料理)
「課長は今日、素敵な料理をご馳走する」

例文 (59) では、先行動詞“讨论”「検討する」は主語“我们”「私たち」とも目的語“经验和教训”「経験と教訓」とも指向する (59'a) し、後続動詞“总结”「結論する」も主語“我们”「私たち」とも目的語“经验和教训”「経験と教訓」とも指向する (59'b)。つまり、先行動詞“讨论”「検討する」と後続動詞“总结”「結論する」の指向成分が一致する。例文 (60')(61') から見ると、例文 (60)(61) の連続動作型複雑述語“调查收集”「調査して収集する」「请吃」「料理をご馳走する」の先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する。

(59') a. 我们 讨论 了 这 一年来 的 经验教训。
(私たち 検討する PERF この 一年間 の 経験と教訓)
「私たちはこの一年間の経験と教訓を検討した」

b. 我们 总结 了 这 一年来 的 经验教训。
(私たち 結論する PERF この 一年間 の 経験と教訓)
「私たちはこの一年間の経験と教訓をまとめた」

(60') a. 警察 调查 了 他 的 犯罪证据。
(警察 調査する PERF 彼 の 犯罪の証拠)
「警察は彼の犯罪の証拠を調査した」

b. 警察 收集 了 他 的 犯罪证据。
(警察 収集する PERF 彼 の 犯罪の証拠)
「警察は彼の犯罪の証拠を収集した」

(61') a. 課長 今天 請 大餐。
(課長 今日 招待する 素敵な料理)
「課長は今日、素敵な料理をご馳走する」

b. 課長 今天 吃 大餐。
(課長 今日 食べる 素敵な料理)
「課長は今日、素敵な料理を食べる」

一方、中国語には、時間的継起により構成される連続動作型複雑述語構文には、先行動詞と後続動詞の指向成分が部分的に一致する場合もある。

(62) 課長 今天 請吃 大餐 , 但 他 不 参加。
(課長 今日 招待する－食べる 素敵な料理 dan 彼 NEG 参加する)
「課長は今日、素敵な料理をご馳走するが、彼が参加しない」

(63) 他 派去 了 騎兵連。
(彼 派遣する－いく PERF 騎兵中隊)
「彼は騎兵中隊を派遣した」

(64) 我們 起立^欢呼。
(私たち 起立する－歡呼する)
「私たちは起立して歡呼する」

例文 (62) では、先行動詞“請”「招待する」は主語“課長”「課長」とも目的語“大餐”「素敵な料理」とも指向する (62'a) が、後続動詞“吃”「食べる」は目的語“大餐”「素敵な料理」のみを指向する (62'b)。例文 (63) では、先行動詞“派”「派遣する」は主語“他”「彼」とも目的語“騎兵連”「騎兵中隊」とも指向する (63'a) が、目的語“騎兵連”「騎兵中隊」は後続動詞“去”「行く」の動作主であり、後続動詞“去”「行く」は目的語“騎兵連”「騎兵中隊」のみを指向する (63'c)。中国語の時間的継起の連続動作型複雑述語構文には、先行動詞は主語と目的語を指向できるが、後続動詞は目的語のみを指向する。

(62') a. 課長 今天 請 大餐, 但 他 不 参加。
(課長 今日 招待する 素敵な料理 dan 彼 NEG 参加する)
「課長は今日、素敵な料理をご馳走するが、彼が参加しない」

b.*課長 今天 吃 大餐, 但 他 不 参加。
(課長 今日 食べる 素敵な料理 dan 彼 NEG 参加する)
(意味：課長は今日、素敵な料理を食べるが、彼が参加しない)

(63') a. 他 派 了 騎兵連。
(彼 派遣する PERF 騎兵中隊)
「彼は騎兵中隊を派遣した」

b. ? 他 去 了 騎兵連。
(彼 行く PERF 騎兵中隊)
「彼は騎兵中隊へ行った」

c. 騎兵連 去 了。
(騎兵中隊 行く PERF)
「騎兵が行った」

また、例文 (64) では、先行動詞“起立”「起立する」は主語“我们”「私たち」のみを指向する (64'a)。後続動詞“欢呼”「歡呼」も主語“我们”「私たち」を両方とも指向する (64'b)。つまり、中国語の時間的継起の連続動作型複雑述語構文には、先行動詞とも後続動詞とも主語を指向する。

(64') a. 我们 起立。
(私達 起立する)
「私たちは起立する」

b. 我们 欢呼。
(私達 歡呼する)
「私たちは歡呼する」

中国語には、時間的継起の連続動作型複雑述語構文の先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する場合があるし、部分的に一致する場合もある。指向成分が一致する場合に、先行

動詞と後続動詞は主語と目的語または主語のみを指向できる。指向成分が部分的に一致する場合に、先行動詞は主語と目的語を指向するが、後続動詞は目的語のみを指向する。

(B) 因果関係：

因果関係により構成される連続動作型複雑述語において、先行動詞と後続動詞の指向成分が部分的に一致する。

(65) 我 跑丢 了 一只鞋。
(私 走る－失う PERF 片方の靴)
「走って片方の靴をなくした」

(66) 他 坐塌 了 椅子。
(彼 座る－つぶれる PERF 椅子)
「彼は椅子に座ってつぶした」

(67) 风 吹飞 了 阳台上 的 衣服。
(風 吹く－飛ぶ PERF ベランダ 上 の 衣服)
「風がベランダにかけた服を飛ばした」

例文 (65) では、先行動詞“跑”「走る」は主語“我”「私」のみを指向する (65'a) が、後続動詞“丢”「失う」は主語“我”「私」と目的語“一只鞋”「片方の靴」を指向する (65'b)。つまり、先行動詞と後続動詞の指向成分は主語のみ一致する。

(65') a. 我 跑。
(私 走る)
「私は走る」

b. 我 丢 了 一只鞋。
(私 失う PERF 片方の靴)
「私は片方の靴を失う」

例文 (66) では、先行動詞“坐”「座る」は主語“他”「彼」とも目的語“椅子”「椅子」とも指向する (66'a) が、目的語“椅子”「椅子」は後続動詞“塌”「つぶれる」の動作主体であり、後続動詞“塌”「つぶれる」は目的語“椅子”「椅子」のみを指向する (66'b)。例文 (67) では、先行動詞“吹”「吹く」は主語“风”「風」とも目的語“阳台

上的衣服”「ベランダにかけた服」とも指向する (67'a) が、目的語“阳台上的衣服”「ベランダにかけた服」は後続動詞“飞”「飛ぶ」の動作主体であり、後続動詞“飞”「飛ぶ」は目的語“阳台上的衣服”「ベランダにかけた服」を指向する (67'b)。つまり、先行動詞と後続動詞の指向成分は目的語のみ一致する。

(66') a. 他 坐 椅子。

(彼 座る 椅子)

「彼は椅子に座る」

b. 椅子 塌 了。

(椅子 潰れる PERF)

「椅子が潰れた」

(67') a. 风 吹 阳台 上 的 衣服。

(风 吹く ベランダ 上 の 衣服)

「風がベランダにかけた服を吹く」

b. 阳台 上 的 衣服 飞 了。

(ベランダ 上 の 衣服 飛ぶ PERF)

「ベランダにかけた服が飛んだ」

中国語には、因果関係の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞が部分的に一致する。先行動詞は主語のみを指向するが、後続動詞は主語と目的語を指向する。先行動詞は主語と目的語を指向するが、後続動詞は目的語のみを指向する。

(C) 手段：

手段により構成される連続動作型複雑述語において、先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する。

(68) 他 踢开 门， 然后 大步 走 了 进来。

(彼 蹴るー開ける ドア そのあと 大股で 走る PST 入る)

「彼はドアを蹴って開ける。そのあと大股で歩いてきた」

(69) 我 借用 一下 你 的 电脑。
 (私 借りるー使う 助数詞 君 の パソコン)
 「私は君のパソコンを借りて使う」

例文 (68) では、先行動詞“踢”「蹴る」は主語“他”「彼」と目的語“门”「ドア」を指向する (68'a) し、後続動詞“开”「開ける」も主語“他”「彼」と目的語“门”「ドア」を指向する (68'b)。例文 (69) では、先行動詞“借”「借りる」も主語“我”「私」と目的語“你的电脑”「君のパソコン」を指向する (69'a) し、後続動詞“用”「使う」も主語“我”「私」と目的語“你的电脑”「君のパソコン」を指向する (69'b)。

(68') a. 他 踢 门, 然后 大步 走 了 进来。
 (彼 蹴る ドア そのあと 大股で 走る PST 入る)
 「彼はドアを蹴ってから、大股で歩いてきた」

b. 他 开 门, 然后 大步 走 了 进来。
 (彼 開ける ドア そのあと 大股で 走る PST 入る)
 「彼はドア開けてから、大股で歩いてきた」

(69') a. 我 借 一下 你 的 电脑。
 (私 借りる 助数詞 君 の パソコン)
 「私は君のパソコンを借りる」

b. 我 用 一下 你 的 电脑。
 (私 使う 助数詞 君 の パソコン)
 「私は君のパソコンを使う」

中国語には、手段の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する。先行動詞とも後続動詞とも主語と目的語を指向する。

(D) 補文関係：

補文関係により構成される連続動作型複雑述語において、先行動詞と後続動詞の指向成分が部分的に一致する。

(70) 明天 我 打算去 图书馆。

(明日 私 考えるー行く 図書館)

「明日私は図書館に行くつもりだ」

(71) 他 喜欢说 笑话。

(彼 好むー話す 冗談)

「彼は冗談を言うのが好きだ」

(72) 小明 准备学 美术。

(PSN 準備するー学ぶ 美術)

「明さんは美術を学ぶことを準備している」

(73) 他 想买 玩具。

(彼 思うー買う おもちゃ)

「彼はおもちゃを買いたい」

例文 (70) では、先行動詞“打算”「考える」は主語“我”「私」と後続動詞“去”「行く」を指向する (70'b) が、後続動詞“去”「行く」は主語“我”「私」と目的語“图书馆”「図書館」を指向する (70'c) 。例文 (71')~(73') が示すように、例文 (71)~(73) でも同様に、先行動詞は主語と後続動詞を指向するが、後続動詞は主語と目的語を指向する。

(70') a. *我打算图书馆。

b. 我 打算 去。

(私 考える 行く)

「私は行くつもりだ」

c. 我 去 图书馆。

(私 行く 図書館)

「私は図書館に行く」

(71') a. ?他喜欢笑话。 (意味：彼は冗談が好きだ)

b. 他 喜欢 说。

(彼 好む 話す)

「彼は言うことが好きだ」

c. 他 说 笑话。

(彼 話す 冗談)

「彼は冗談を言う」

(72') a.?小明准备美术。(意味：明さんは美術を準備する)

b. 小明 准备 学。

(PSN 準備する 学ぶ)

「明さんは学ぶことを準備する」

c. 小明 学 美术。

(PSN 学ぶ 美術)

「明さんは美術を学ぶ」

(73') a.*他想玩具。(意味：彼はおもちゃを思う)

b. 他 想 买。

(彼 思う 買う)

「彼は買いたい」

c. 他 买 玩具。

(彼 買う おもちゃ)

「彼はおもちゃを買う」

中国語には、補文関係の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分は部分的に一致する。先行動詞は主語と後続動詞を指向するが、後続動詞は主語と目的語を指向する。

中国語の連続動作型複雑述語構文において、時間的継起により構成される複雑述語における先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する場合があるし、部分的に一致する場合もある。指向成分が一致する場合に、先行動詞と後続動詞は主語と目的語または主語のみを指向できる。指向成分が部分的に一致する場合に、先行動詞と後続動詞は目的語のみ一致す

る。

因果関係と補文関係により構成される連続動作型複雑述語には、先行動詞と後続動詞の指向成分が部分的に一致する。因果関係の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞は主語のみまたは目的語のみ一致する。一方補文関係の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分は主語のみ一致する。

手段という意味関係により構成された複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する。先行動詞とも後続動詞とも主語と目的語を指向する。

6.5 日本語と中国語の連続動作型複雑述語の対照

日本語と中国語における連続動作型複雑述語の意味的・文法的な相違点を[表 8]のようにまとめる。

[表 8] 日本語と中国語における連続動作型複雑述語の指向成分と意味関係

		時間的継起		因果関係		様態	手段	逆接	補文関係	
日本語	一致性	一致		不一致		部分一致	一致	一致	×	
	先行動詞	主・目	主語のみ	主語		主・目	主・目	主・目		
	後続動詞			主題						主語のみ
中国語	一致性	一致		部分一致	部分一致		×	一致	×	部分一致
	先行動詞	主・目	主語のみ	主・目	主語のみ	主・目		主語と後続動詞		
	後続動詞			目的語のみ	主・目	目的語のみ		主語と目的語		

(×：その意味関係は存在しないことを示す；主・目：主語と目的語)

[表 8]が示すように、日本語と中国語の連続動作型複雑述語の共通点と相違点を以下のようにまとめる。

(A) 意味関係の共通点：

日本語と中国語の連続動作型複雑述語には、先行動詞と後続動詞の間に時間的継起、因果関係、手段という意味関係がある点が共通する。

(B) 指向の共通点：

日本語でも中国語でも、手段という意味関係を持つ連続動作型複雑述語の指向成分が一致する。先行動詞とも後続動詞とも主語と目的語を指向できる。

(C) 意味関係の相違点：

日本語の連続動作型複雑述語だけに、先行動詞と後続動詞の間に様態と逆接という

意味関係が見られる。一方中国語の連続動作型複雑述語だけに、先行動詞と後続動詞の間に補文関係という意味関係が見られる。

(D) 指向の相違点：

日本語では、時間的継起、手段、逆接という意味関係を持つ連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する。時間的継起の連続動作型複雑述語と逆接の連続動作型複雑述語における動詞要素は、主語と目的語または主語のみを指向できる。

一方因果関係の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分は一致しない。因果関係の連続動作型複雑述語では、先行動詞は主語を指向するが、後続動詞は主題を指向する。様態の連続動作型複雑述語では、先行動詞と後続動詞の指向成分は部分的に一致する。つまり、先行動詞は主語と目的語の両方を指向するが、後続動詞は主語のみを指向するので、先行動詞と後続動詞の指向成分は主語のみ一致する。

中国語では、時間的継起の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分が一致する場合があるし、部分的に一致する場合もある。指向成分が一致する場合には、先行動詞と後続動詞の両方が主語と目的語の両方または主語のみを指向する。部分的に一致する場合には、先行動詞は主語と目的語の両方を指向するが、後続動詞は目的語のみを指向する。つまり、先行動詞と後続動詞の指向成分は目的語のみ一致する。

また、中国語では、因果関係の連続動作型複雑述語と補文関係の連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分が部分的に一致する。先行動詞が主語のみを指向する時、後続動詞は主語と目的語の両方を指向する。先行動詞が主語と目的語の両方を指向する時、後続動詞は目的語のみを指向する。すなわち、先行動詞と後続動詞の指向成分は主語のみまたは目的語のみ一致する。一方、補文関係の連続動作型複雑述語では、先行動詞は主語と後続動詞を指向するが、後続動詞は主語と目的語を指向するので、先行動詞と後続動詞の指向成分は主語のみ一致する。

6.6 本章のまとめ

本章では、連続動作型複雑述語の意味的・文法的な特徴を分析し、日本語と中国語における連続動作型複雑述語の相違点をまとめた。

日本語の連続動作型複雑述語には、先行動詞と後続動詞の間に、時間的継起、因果関係、様態、手段、逆接という5つの意味関係がある。日本語と異なり、中国語の連続的複雑述語には先行動詞と後続動詞の間に、時間的継起、因果関係、手段、補文関係という4つの意味関係が存在している。

また、連続動作型複雑述語における動詞要素の指向成分から見ると、日本語では、時間的継起、手段、逆接により構成される連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成

分は一致するが、因果関係により構成される連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分は一致しない。様態により構成される連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分は部分的に一致する。

中国語では、手段により構成される連続動作型複雑述語における動詞要素の指向成分は一致するし、因果関係と補文関係により構成される連続動作型複雑述語における動詞要素の指向成分は部分的に一致する。一方、時間的継起により構成される連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分は一致する場合もあるし、部分的に一致する場合もある。

第7章 行為目的型複雑述語

第4章では行為目的型複雑述語の定義を述べた。本章では、日中語の行為目的型複雑述語について詳しく検討する。行為目的型複雑述語とは、日本語の「動詞連用形+に+移動動詞²⁷」または中国語の「移動動詞+動詞」という構造を持ち、先行動詞と後続動詞が両方とも本動詞であるものを指す。本章では、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の形態的・文法的特徴を考察し、日中語の行為目的型複雑述語の相違点に言及する。

7.1 はじめに

日本語にも中国語にも、行為目的型複雑述語がある。

- (1) 休日に遊びに行く。
- (2) 太郎が本を買いに行った。

(村田 2001: 4)

- (3) あの人は診査を受けに来る。

例文 (1)~(3) のように、動詞「遊ぶ」「買う」「受ける」の連用形は助詞「に」と組み合わせあって移動の目的を表し、移動動詞の前に置き、行為目的型複雑述語「遊びに行く」「買いに行く」「受けに来る」になる。「遊びに行く」「買いに行く」「受けに来る」のように、日本語の行為目的型複雑述語は「動詞連用形+に+移動動詞」という構造である。

- (4) 周末 我 和 他 一起 去看 电影。

(週末 私 と 彼 一緒に 行くー見る 映画)

「週末に私は彼と一緒に映画を見に行く」

- (5) 那个人 是 来送 书 的。

(その人 は 来るー送る 本 のだ)

「その人は本を送りに来るのだ」

²⁷ 松本 (1997: 128) では、「移動とは時間の経過に伴って起きる物体の位置の変化である」と述べている。三宅 (1996: 143) での移動動詞は、「移動を表す動詞」を指す。本章では、「行く、来る、走る」などのように、移動を伴う動きを表す動詞を移動動詞と呼ぶ。

(6) 奶奶 去买 菜 了。

(お婆さん 行くー買う 野菜 PST)

「お婆さんは野菜を買いに行った」

例文 (4)~(6) のように、中国語には、動詞“看”「見る」「送」「送る」「买」「買う」は“去”「行く」「来”「来る」の目的を表し、行為目的型複雑述語“去看”「見に行く」「来送”「送りに来る」「去买”「買いに行く」になる。“去看”「見に行く」「来送”「送りに来る」「去买”「買いに行く」のように、中国語の行為目的型複雑述語は「移動動詞＋動詞」という形式である。

本章は「遊びに行く」「去旅行」「旅行しに行く」のような行為目的型複雑述語を研究対象とし、日本語と中国語の行為目的型複雑述語を対照し、両言語の相違点を研究する。7.3 節では、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の構造に着目し、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の形態、構成要素を説明する。7.4 節では、行為目的型複雑述語構文の中に、場所名詞や参加者が存在する場合、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の文法的特徴を分析する。7.5 節では、日本語と中国語の行為目的型複雑述語を対照する。

7.2 行為目的型複雑述語に関する先行研究の概観と問題点

本節では、行為目的型複雑述語に関する先行研究を概観する。

岸本・由本 (2014) では、「教えに行く」「借りに来る」のような「動詞の連用形＋に＋動詞」という複雑述語構文を「再構成を起こす不定詞構文」と呼ばれる。「動詞連用形＋に＋移動動詞」という複雑述語構造には、「動詞連用形＋に」という部分は移動の目的を表すため、本論文では、「動詞連用形＋に＋移動動詞」という形式を用いて移動の目的を表す複雑述語を行為目的型複雑述語と呼ぶ。

新井 (2016) では、「V に行く」構造の先行動詞 (V) について、検討している。新井 (2016:6) では「「に」の先行要素について、単純和語動詞が生起する場合は動名詞ではなく動詞の連用形である」と述べている。

(7) 太郎 {が/*の} ゴミ {を/*Ø} 出しに行った、太郎 {が/*の} 雪 [を/*Ø] 掻きに行った。

(新井 2016: 7 例 (12b))

日本語の行為目的型複雑述語には、先行動詞の部分は動詞だけでなく、動作名詞もある。本章の 7.3 節では、行為目的型複雑述語の語順と構成要素に着目し、日本語と中国語の複雑述語の相違点を研究する。

莊司 (1997) では「V に行く」構文の補文構造に関する研究を行っている。莊司 (1997) では、以下の結論を得た。①「V に」と移動動詞の間にほかの語を挿入できる (例文 (8))。② 連結構文での省略が可能である (例文 (9) (10))。③ 前の「V に」だけが「お～になる」尊敬表現になれる (例文 (11)) ことを指摘している。

(8) 確かに映画を見には行ったが、それは勤務時間外のことだ。

(莊司 1997: 49 例 (33))

(9) ぜひまたわが家へ遊びに、娘の相手をしに来てください。

(莊司 1997: 49 例 (35))

(10) 私はちょっとだけ話を聞きに、彼は単に冷やかに行ったまでです。

(莊司 1997: 49 例 (36))

(11) 傘をお取りに戻られる。

(莊司 1997: 49 例 (37))

新井 (2016)、莊司 (1997) では、日本語の「V に行く」構文の構造的特徴のみに着目する。本章では、「V に行く」のような行為目的型複雑述語構文の形態的・文法的特徴に着目し、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の相違点を検討する。

7.3 日中語の行為目的型複雑述語の形態的特徴

本節では、行為目的型複雑述語の内部構造に着目し、日本語と中国語の相違点を研究する。7.3.1 節では、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の語順を考察する。7.3.2 節では、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の構成要素を考察し、日本語と中国語の相違点を検討する。

7.3.1 日中語の行為目的型複雑述語の語順の対照

日本語の行為目的型複雑述語構造には、「動詞連用形+に」は移動の目的を表し、移動動詞の直前に置かれる。

(12) 彼はわざわざ敬意を表しに来る。

(13) 彼は明日に泳ぎに行く。

(14) 彼はボールを拾いに走った。

(15) 私は山野を犬と一緒に狩りに歩く。

(『歴史上の本人』)

例文 (12) では、「彼は敬意を表すために、わざわざ来る」という意味である。動詞「表す」の連用形が助詞「に」と組み合わさって行為の目的を表し、移動動詞「来る」の前に置かれる。例文 (13) でも同様に、「明日、彼は泳ぐために行く」という意味を表す。動詞「泳ぐ」の連用形＋「に」＋移動動詞「行く」という語順で、行くという動作行為の目的を表す。例文 (14)(15) でも同様に、動詞「拾う」「狩る」の連用形＋「に」＋方向性²⁸を持たない移動動詞「走る」「歩く」という順番で、移動行為の目的を表す。つまり、日本語では、複雑述語の語順は動作が行う順番とは逆であり、「目的を表す要素＋に＋移動動詞」という構造を用いて行為目的型複雑述語になる。

日本語と異なり、中国語において、行為目的型複雑述語は動作が行う順番により並べる。

(16) 他 特地 来^表达 敬意。

(彼 わざわざ 来る－表す 敬意)

「彼はわざわざ敬意を表しに来る」

(17) 他 明天 去^游泳。

(彼 明日 行く－泳ぐ)

「彼は明日に泳ぎに行く」

(18) 我 来^买 水果。

(私 来る－買う 果物)

「私は果物を買いに来る」

(19) 小王 每周末 去^学 英语。

(PSN 毎週の週末 行く－学ぶ 英語)

「王さんは毎週の週末に英語を勉強しに行く」

例文 (16) の行為目的型複雑述語“来表达”「表しに来る」では、動作“来”「来る」は先に行った。そのあと、目的を表す動作“表达”「表す」が行われるため、移動動詞“来”「来る」は目的を表す動詞“表达”「表す」の前に出る。例文 (17) では、行為目的型複

²⁸ 本章で指摘した「方向性を持つ移動動詞」は「出る」（中から外へ）「入る」（外から中へ）のような、動詞本体自身に移動の方向を含意される移動動詞を指す。「走る」「歩く」のような、動詞本体自身に移動の方向を含意されない移動動詞を「方向性を持たない移動動詞」と呼ぶ。

雑述語“去游泳”「泳ぎに行く」も同様に、2つの動詞は動作前後により並べ、先行動詞“去”「行く」の目的は“游泳”「泳ぐ」である。例文 (18)(19) にも、後続動詞“买”「買う” “学”「学ぶ」は先行動詞“来”「来る” “去”「行く」の移動の目的を表す。そのため、中国語には、移動動詞“来”「来る” “去”「行く」を用いて行為目的型複雑述語になるとき、「移動動詞+目的要素」という構造を用いて構成される。

例文 (16)~(19) では、移動動詞“来”「来る” “去”「行く」は方向性を持つため、直接に目的要素とつながり、行為目的型複雑述語を構成することができるが、方向性を持たない移動動詞を用いて行為目的型複雑述語にならず、“去/来”「行く/来る」などの方向性を持つ移動動詞と共起しなければならない。

- (20) 他 跑去捡 球 了。
 (彼 走る—行く—拾う ボール PERF)
 「彼はボールを拾いに走った」

- (21) 她 专门 从 那边 走来问 我 问题。
 (彼女 わざわざ から その辺 歩く—来る—聞く 私 問題)
 「彼女はわざわざその辺から私に問題を聞きに歩く」

- (22) 每年过生日的时候，他 都 从 北京 飞来陪 我。
 (毎年誕生日の時、 彼 すべて から 北京 飛ぶ—来る—付き添う 私)
 「毎年、私の誕生日の日、私に付き添うために彼は北京から（飛行機に）乗ってくる」

- (23) 他 从 对岸 游来救 人。
 (彼 から 対岸 泳ぐ—来る—救う 人)
 「彼は対岸から泳いできて、人を救う」

例文 (20)(21) が示すように、中国語において、“跑”「走る” “走”「歩く」のような方向性を持たない移動動詞が行為目的型複雑述語になるとき、移動動詞は直接に目的要素と共起できず、移動動詞の後ろに方向性を持つ動詞“去/来”「行く/来る」を付けなければならない。すなわち、中国語において、方向性を持たない移動動詞を用いて行為目的型複雑述語になるとき、「移動動詞+“去/来”+目的要素」という形式で構成される。

日本語では、行為目的型複雑述語の語順は動作の行う順番と逆に、移動動詞の方向性の有無と関係なく、「目的要素+に+移動動詞」という構造を用いて構成される。中国語では、動作の行う順番によって複雑述語を構成する。方向性を持つ移動動詞は直接に移動の

目的を表す要素と組み合わせ（「移動動詞＋目的要素」という形式である）、複雑述語を構成できる。一方、方向性を持たない移動動詞は、「移動動詞＋“去/来”＋目的要素」という形式を用いて複雑述語になる。

7.3.2 日中語の行為目的型複雑述語の構成成分の対照

本節では、日本語と中国語において、行為目的型複雑述語の構成成分を考察する。

7.3.1 節では、例文 (24)(25) 「表しに来る」「泳ぎに行く」が示すように、単純動詞の連用形＋助詞「に」という形式を用いて行為の目的を表す。

(24) 彼はボールを拾いに走った。

（例文 (14) の再掲）

(25) 私は山野を犬と一緒に狩りに歩く。

（『歴史上の本人』）（例文 (15) の再掲）

日本語では、単純動詞の連用形だけでなく、複合動詞の連用形、動詞使役形式の連用形、動詞の受身の連用形、動作名詞も行為目的型複雑述語の先行動詞とすることがある。

(26) 彼女は原稿を受け取りに行く。

(27) そのお婆さんは銀行の窓口に年金から小遣いを引き出しに来る。

(28) 先生は嘆願書を県庁に取り戻しに走る。

(29) ぼくはあわてて廊下へ飛び出して、取り返しに行きました。

（『当世酔っ払い事情 酒飲みの奇態、醜態、狂態』）

例文 (26) では、行為目的型複雑述語「受け取りに来る」の目的要素は複合動詞「受け取る」の連用形である。例文 (27)~(29) でも同様に、移動動詞「行く」「走る」は複合動詞「引き出す」「取り戻す」「取り返す」の連用形と共起できる。

日本語には、動詞の使役形式と受身形式も移動動詞と組み合わせ、行為目的型複雑述語になれる。

(30) その人は島の火山を爆発させに行く。

(31) 猫は鼠をとるのが得手で、主人に死骸を見せに来る。

(32) 羊に草を食べさせに行く。

（『図説夜の中世史』）

例文 (30)~(32) が示すように、移動動詞「行く」「来る」は「爆発させる」「見せる」「食べさせる」のような動詞使役形式の連用形と共起できる。

(33) 猫カフェに癒されに行く。

(34) 無謀です。ヌムたちに殺されに行く。

(『女王陛下のアルバイト探偵』)

(35) チーちゃんは、お医者さんから、カーちゃんの病状を聞かされに行っていて居ませんでした。

(『明日を探して マーちゃんが過ごした日々』)

例文 (33)~(35) では、動詞「癒す」「殺す」「聞く」の受身形式「癒される」「殺される」「聞かれる」の連用形も移動動詞「来る」「行く」の目的要素になれる。

(36) 今週末、小学生たちは博物館に見学に行く。

(37) ごみを回収に来る。

(38) デザイン会社に面接に行った。

(39) 前進準備は中止！すぐ連絡に行け！

(『南十字星に向かって 開戦とシンガポール攻略戦の検証』)

例文 (36)~(39) では、移動動詞「行く」「来る」は単純動作名詞「見学」「回収」「面接」「連絡」と共起する。つまり、日本語では、単純動作名詞は行為目的型複雑述語の目的要素になることができる。

例文 (36)~(39) が示すような普通名詞以外、例文 (40)~(42) の「雪掻き」「井戸掘り」「取立て」のような複合動作名詞も目的要素になれる。

(40) 彼は雪掻きに行く。

(41) その人は井戸掘りに来る。

(42) 闇金が家に取立てに来る。

日本語の行為目的型複雑述語において、単純動詞の連用形、複合動詞の連用形、動詞使役形式の連用形、動詞受身形式の連用形などのような動詞の連用形や動作名詞が行為目的型複雑述語の目的要素になれる。日本語と対照し、中国語の行為目的型複雑述語において、移動動詞は単純動詞、または、複合動詞と共起しかない。

例文 (43)~(46) が示すように、行為目的型複雑述語“来取”「取りに来る」「去借」「借

りに行く」「去见」「会いに行く」「去唱」「歌いに行く」のように、移動動詞“来”「来る」「去」「行く」は単純動詞“取”「取る」「借”「借りる」「见”「見る」「唱”「歌う」と共起する。

(43) 她 来取 原稿。

(彼女 来る－取る 原稿)

「彼女は原稿を取りに来る」

(44) 他 来借 书。

(彼 来る－借りる 本)

「彼は本を借りに来る」

(45) 我 去见 我 女朋友。

(私 行く－見る 私 彼女)

「私は彼女に会いに行く」

(46) 我们 经常 一起 去唱 歌。

(私たち いつも 一緒 行く－歌う 歌)

「私たちはいつも一緒に歌を歌いに行く」

例文 (47)~(50) が示すように、中国語の行為目的型複雑述語において、複合動詞“攀登”「登る」、「检查”「診察する」「帮忙”「手伝う」「培育”「育成する」も移動動詞“去”「行く」「来”「来る」の目的要素になれる。

(47) 他 去^攀登 珠穆朗玛峰 了。

(彼 行く－攀じる＋登る エベレスト PST)

「彼はエベレストに登りに行った」

(48) 我 来^检查 身体。

(私 来る－検査する 体)

「私は診察しに来る」

(49) 他的朋友 来^帮忙。

(彼の友達 来る－助ける)

「彼の友達が手伝いに来る」

(50) 我 要 用 这些知识 去^培育 新一代的学生。

(私 つもり 使う これらの知識 行くー育てる 新入生)

「私はこれらの知識を用いて、新入生を育成しに行く」

例文 (51)(52) が示すように、中国語の行為目的型複雑述語では、使役表現、受身表現は目的要素にならない。

(51) *那个人 去 让 火山 爆发。

(その人 行く CAUS 火山 爆発する)

(意味：その人は火山を爆発させに行く)

(52)*他 去 猫咪咖啡馆 被 治愈。

(彼 行く 猫カフェ PASS 癒す)

(意味：猫カフェに癒されに行く)

また、中国語では、名詞としても動詞としても使われる語が存在している。例えば、“面試”「面接」「旅游」「旅行」²⁹である。しかし、例文 (53)(54) の“面試”「面接」「旅游」「旅行」は目的要素になるとき、複合動詞として使われていると解釈される。

(53) 他 今天 去^面試。

(彼 今日 行くー面接する)

「今日、彼は面接しに行く」

(54) 他 下周 去^旅行。

(彼 来週 行くー旅行する)

「彼は来週に旅行しに行く」

日本語には、移動動詞は、単純動詞の連用形だけでなく、複合動詞の連用形、動詞使役

²⁹ 中国語の“面試”「面接」「旅游」「旅行」の動詞用法と名詞用法について、以下の例文を用いて説明する。

他今天作为考官面試新人。「彼は面接官として面接者を面接する」(動詞用法)

他今天有一个面試。「今日、彼は一つの面接がある」(名詞用法)

他要去泰国旅游。「彼はタイに旅行するつもりだ」(動詞用法)

他很喜欢旅游。「彼は旅行が好きだ」(名詞用法)

形式または受身形式の連用形および動作名詞とも共起できる。日本語に対し、中国語には、移動動詞は単純動詞、複合動詞としか共起できず、名詞、動詞の使役形式や受身形式と共起できない。

7.4 日中語の行為目的型複雑述語の文法的特徴

本節では、行為目的型複雑述語構文に存在する場所名詞、共同参与者および動作の実現状況に着目し、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の文法的特徴を研究する。7.4.1 節では、場所名詞がある場合、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の相違点を考察する。7.4.2 節では、共同参与者が文脈に明示される場合、日本語と中国語の相違点を考察する。7.4.3 節では、過去を表す構文に、移動動作と目的を表す動作の実現状況に注目し、日本語と中国語の行為目的型複雑述語を考察する。

7.4.1 場所名詞から見た日中語の行為目的型複雑述語の対照

本節では、場所名詞が存在する場合、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の相違点を検討する。本章の以下では、~~~~~により場所名詞を示す。

日本語において、場所名詞は行為目的型複雑述語全体の前に置く場合がある。

- (55) スポーツ用品店に靴を買いに走る。
- (56) 小学生はお父さんと近場で遊びに行く。
- (57) 朝一番で会社に届けに行く。
- (58) 喫茶店へ紅茶を飲みに行く。

例文 (55)~(58)では、場所名詞「スポーツ用品店」「近場」「会社」「喫茶店」は行為目的型複雑述語の前に置かれる。例文 (59)(60) のように、場所名詞は移動動詞の直前に置く場合がある。

- (59) 太郎が次郎に会いに神戸へ行った。(再掲)
- (60) 太郎が本を借りに図書館に行った。

日本語では、場所名詞は行為目的型複雑述語全体の前に置いても、移動動詞の直前に置いても、移動の目的地を表す。

中国語では、場所名詞は一般的に移動動詞の直後に置かれる。例文 (61)~(62) が示すように、場所名詞は移動動詞“去”「行く」「来」「来る」と目的要素“学习”「学ぶ」「买」「買う」「看」「診る」の間に置かれる。

(61) 我 去 图书馆 学习。

(私 行く 図書館 学ぶ)

「私は図書館に学びに行く」

(62) 他 明天 去 书店 买 书。

(彼 明日 行く 本屋 買う 本)

「彼は明日に本屋に本を買いに行く」

(63) 我 去 电影院 看 电影。

(私 行く 映画館 見る 映画)

「私は映画館へ行って映画を見る」

(64) 小王 明天 来 医院 看 牙。

(PSN 明日 行く 病院 診る 歯)

「王さんは明日、歯科へ行って歯を診る」

(65) 我 今天 中午 去 食堂 吃。

(私 今日 昼 行く 食堂 食べる)

「私は今日の昼に食堂にご飯を食べに行く」

(66) 他 (拿着衣服) 去 房间 收拾。

(彼 服を持っている 行く 部屋 片付ける)

「彼は服を持って部屋に行って(その服を)片付ける」

しかし、中国語においては、例文 (68)(70)のように、場所名詞は行為目的型複雑述語全体の直後に置く場合もある。

(67) 我 今天 中午 去 食堂 吃。

(私 今日 昼 行く 食堂 食べる)

「私は今日の昼に食堂にご飯を食べに行く」

(再掲)

(68) 我 今天 中午 去吃 食堂。

(私 今日 昼 行く-食べる 食堂)

「私は今日の昼に食堂(のもの)を食べに行く」

例文 (67) が示すように、中国語において、場所名詞“食堂”「食堂」は移動動詞“去”「行く」と行為の目的を表す動詞要素“吃”「食べる」の間に置かれ、“去食堂吃”「食堂に食べに行く」という構造になる。この場合、“食堂”「食堂」は移動の目的地のみを表し、食べるものは食堂のものに限らず、自分で作ったおにぎりやお弁当なども構わない。例文 (68) のように、場所名詞“食堂”「食堂」は行為目的型複雑述語“去吃”「食べに行く」の後ろに置き、“食堂”「食堂」は移動の目的地だけでなく、「食堂の食べ物」も指す。この場合、自分で作ったお弁当などではなく、食堂のものしか食べられない。

(69) 他 (拿着衣服) 去 房间 收拾。

(彼 持つ CONT 衣服 行く 部屋 片付ける)

「彼は服を持って部屋に行って(その服を)片付ける」

(再掲)

(70) 他 去收拾 房间。

(彼 行く 片付ける 部屋)

「彼は部屋を片付けに行く」

例文 (69) では、場所名詞“房间”「部屋」は服を片付ける場所のみを表す。「服を持ちながら部屋へ行って片付ける」という意味を表す。例文 (70) では、場所名詞“房间”「部屋」は移動の目的地および部屋の中のものを表す。この場合、例文 (71) のように服を持ちながら部屋に行き片付けることを表せず、例文 (72) のように部屋へ行って部屋の中の服を片付けることを表す。

(71) *他 拿着衣服 去收拾 房间。

(彼 持つ CONT 衣服 行く 片付ける 部屋)

(彼は服を持って部屋へ行って、その服を片付ける)

(72) 他 去收拾 房间里 的衣服。

(彼 行く 片付ける 部屋 中 の 服)

「彼は部屋の中の服を片付けに行く」

日本語では、場所名詞は構文に存在する位置に関わらず、移動の目的地を表す。日本語と異なり、中国語では、場所名詞は移動動詞の後ろに置く場合、移動の目的地のみを表し、行為目的型複雑述語全体の後ろに置く場合、その場所だけではなく、場所に存在するもの

も表す。

7.4.2 行為目的型複雑述語構文における共同参与者

本節では、行為目的型複雑述語構文において、共同参与者がある場合、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の相違点を検討する。本論文の以下では、共同参与者を単に参与者と呼び、_____により参与者を示す。

日本語では、参与者がある場合、ト格で参与者を提示し、行為目的型複雑述語の前に置く。

(73) 彼は上司と話しに来る。

(74) 毎週の土曜日に、私は妹と一緒に夕食を食べに行く。

(75) 今夜はその友達と飲みに行く。

(『桜闇のロンド』)

(76) あの老人は毎月に孫と遊園地に遊びに行く。

例文 (73) では、動作主「彼」と参与者「上司」と同じ、「話す」という動作を行う。例文 (74) では、主語の「私」と参与者とする「妹」は両方とも「食べる」の動作主である。例文 (73)~(76) から見ると、日本語の行為目的型複雑述語構文において、主語（動作主）と共同参与者は同一の目的を用いて移動する。

日本語に対し、中国語では、参与者がある場合、2 つの構造がある。1 つは例文 (77)(79)(81) のように、参与者は行為目的型複雑述語全体の前に置かれる。もう 1 つは例文 (78)(80)(82) のように、参与者は行為目的型複雑述語の移動動詞の後ろ（先行動詞と後続動詞の間）に置かれる。

(77) 我 和³⁰ 小李 来买 东西。

(私 と PSN 来る一買う もの)

「私と李さんとはものを買いに来る」

(78) 我 来 和 小李 买 东西。

(私 来る に PSN 買う もの)

「私は李さんのところへ行って、李さんからものを買う」

³⁰ 中国語の“和”は接続詞用法と前置詞用法がある。例文 (77) では、“和”は接続詞であり、日本語の「と」に訳す。例文 (78) では、“和”は前置詞として使われ、日本語「に」に訳す。

例文 (77) では、動作主“我”「私」と参与者“小李”「李さん」は一緒にものを買うに行くという意味を表す。動作主と参与者は同一の目的(ものを買う)のために移動する。一方、例文 (78) では、参与者“小李”「李さん」はものを売る人であり、動作主“我”「私」はまず参与者“小李”「李さん」のところへ行って李さんからものを買うことを表す。「ものを買う」という移動の目的は動作主“我”「私」だけの目的である。

(79) 我 和 小王 去学 做饭。

(私 と PSN 行くー学ぶ 料理)

「私と王さんとは料理を学びに行く」

(80) 我 去 和 小王 学 做饭。

(私 行く に PSN 学ぶ 料理)

「私は王さんのところへ行って、王さんから料理を学ぶ」

例文 (79) では、動作主“我”「私」は参与者“小王”「王さん」と一緒に料理を学ぶために行くという意味を表す。「料理を学ぶ」は私と王さんの移動の目的である。一方、例文 (80) では、王さんは料理が上手だから、私は王さんから料理を学ぶという目的のために行く。料理を学ぶ人は動作主“我”「私」だけである。

(81) 我 和 张三 来借 书。

(私 と PSN 来るー借りる 本)

「私は張さんと一緒に本を借りに来る」

(82) 我 来 和 张三 借 书。

(私 来る に PSN 借りる 本)

「私は張さんに本を借りに来る」

例文 (81) では、動作主“我”「私」は参与者“张三”「張さん」と一緒に本を借りるために(図書館など)に来るという意味である。“我”「私」は“张三”「張さん」に連れて本を借りに来る。一方、例文 (82) では、参与者“张三”「張さん」は本を持っていて、私は張さんから本を借りる。この場合の参与者“张三”「張さん」は本の所有者である。

例文 (77)~(82) から見ると、中国語には、共同参与者が構文中の位置により意味が変わることが分かった。参与者は行為目的型複雑述語全体の前に置かれる場合に、動作主と参

与者は同一の目的を持って移動するということを表すが、参与者は行為目的型複雑述語の先行動詞と後続動詞の間に置かれる場合、動作主だけが目的を持って移動することを表す。

日本語では、参与者は行為目的型複雑述語全体の前に出て、動作主と同一の目的を持ち、一緒に移動する。日本語に対し、中国語では、参与者の位置により構文の意味が異なる。

7.4.3 行為目的型複雑述語構文における動作の実現

本節では、過去を表す構文に着目し、移動動作と目的を表す動作の実現状況を中心に、日本語と中国語の異なるところを検討する。

(83) a. 彼は本を借りに行った。

b. 彼は本を借りに行ったが、借りられなかった。

(84) a. 太郎は郵便物を郵送しに行った。

b. 太郎は郵便物を郵送しに行ったが、休日なので郵送できなかった。

(85) a. 私は漫画を買いに来た。

b. 私は漫画を買いに来たが、人気があるので売り切れた。本を買えなかった。

例文 (83) の行為目的型複雑述語「借りに行った」では、「行く」という移動動作が実現したことが分かり、「借りる」という動作が実現した場合（例文 (83a)）も実現しない場合例文 (83b)）も存在している。例文 (84)(85) でも、(84a)(85a) の場合、先行動詞「郵送する」「買う」の動作が実現したが、(84b)(85b) の場合、後続動詞「行く」「来る」の動作のみが実現したし、先行動詞「郵送する」「買う」という動作が実現していない。

中国語では、動作の完了を表す助詞“了”は構文中の位置により行為目的型複雑述語構文の意味が異なる。

(86) a. 他 去借 书 了

(彼 行く－借りる 本 PERF)

「彼は本を借りに行った」

b. 他 去借 书 了, 但 没 借到。

(彼 行く－借りる 本 PST しかし NEG 借りられる)

「彼は本を借りに行ったが、借りられなかった」

(87) a. 他 去借 了 书。

(彼 行くー借りる PERF 本)

「彼は行って本を借りた」

b. *他 去借 了 书, 但 没 借到。

(彼 行くー借りる PST 本 dan NEG 借りられる)

(意味：彼は本を借りに行ったが、借りられなかった)

(88) a. 我 去看 电影 了。

(私 行くー見る 映画 PERF)

「私は映画を見に行った」

b. 我 去看 电影 了, 但 中途 发现 没 带

(私 行くー見る 映画 PST dan 途中 気づく NEG 持つ

钱 就 没 看成。

お金 ので NEG 見ることができる)

「私は映画を見に行ったが、途中にお金を持たなかったことに気づいて、(最後に) 見なかった」

(89) a. 我 去看 了 电影。

(私 行くー見る PERF 映画)

「私は映画を見に行った」

b. *我 去看 了 电影, 但 没 看成。

(私 行くー見る PST 映画 dan NEG 見ることができる)

(意味：私は映画を見に行ったが、見なかった)

(90) a. 我 来取 书 了。

(私 来るー取る 本 PERF)

「私は本を取りに来た」

b. 我 来取 书 了, 但 人 都 不 在 没 取上。

(私 来るー取る 本 PST dan 人 すべて NEG いる NEG 取れる)

「私は本を取りに来たが、誰もいないので取れなかった」

(91) a. 我 来取 了 书。
 (私 来る－取る PERF 本)
 「私は本を取りに来た」

b. *我 来取 了 书, 但 人 都 不 在 没 取上。
 (私 来る－取る PST 本 dan 人 すべて NEG いる NEG 取れる)
 (意味：私は本を取りに来たが、誰もいないので取れなかった)

例文 (86) では、完了の助詞“了”は文末に置かれる。(86a) の場合、発話者の移動動作“去”「行く」が実現したが、(86b) の場合、目的を表す動作“借”「借りる」が実現していない。例文 (87) では、完了の助詞“了”は行為目的型複雑述語“去借”「借りに行く」の直後に置かれる。この場合、発話者の移動動作“去”「行く」も目的を表す動作“借”「借りる」とも実現したことが分かる。例文 (88)(89) と例文 (90)(91) でも同様に、完了の助詞“了”は文末に置かれる場合、先行動詞が実現したが、後続動詞の実現状況が不明である。一方、完了の助詞“了”は行為目的型複雑述語の直後に置かれる場合、前項述行要素とも後続動詞とも実現した。

日本語では、過去を表す構文において移動動作の実現は含意するが、目的を表す動作の実現状況は不明である。一方中国語では、完了の助詞“了”の位置に関わる。完了の助詞“了”は文末に置かれる場合、日本語と同様に、移動動作の実現は含意するが、目的を表す動作の実現状況は不明である。完了の助詞“了”は複雑述語の直後に置かれる場合、移動動作も目的を表す動作も実現したことが分かる。

7.5 日中語の行為目的型複雑述語の対照

本章では、日本語と中国語における行為目的型複雑述語の構造、および、複雑述語構文を考察した。日本語と中国語における行為目的型複雑述語の違いを以下の[表 9]のようにまとめる。

[表 9] 日本語と中国語の行為目的型複雑述語の対照

	日本語	中国語
語順	動作の行う順番と逆	動作の行う順番
構成要素	方向性を持つ移動動詞： 目的要素＋に＋方向性移動動詞	方向性を持つ移動動詞： 方向性移動動詞＋目的要素
	方向性を持たない移動動詞： 目的要素＋に＋非方向性移動動詞	方向性を持たない移動動詞： 非方向性移動動詞＋“去／来”＋目的要素
目的要素	単純動詞の連用形 複合動詞の連用形 動詞の使役形式の連用形 動詞の受身形式の連用形 単純動作名詞 複合動作名詞	単純動詞 複合動詞
場所名詞	複雑述語全体の前： 移動の目的地を表す	複雑述語全体の後ろ： 移動の目的地と目的地のものを表す
	移動動詞の前： 移動の目的地を表す	移動動詞の後ろ： 移動の目的地を表す
参与者	複雑述語全体の前： 同一の目的を持ちながら移動する	複雑述語全体の前： 同一の目的を持ちながら移動する
	移動動詞の後ろ：×	移動動詞の後ろ： 動作主だけが目的を持って移動する
動作の実現	移動動作が実現済み、目的を表す動作の実現状況不明	完了の助詞“了”が文末： 移動動作が実現済み、目的を表す動作の実現状況不明
		完了の助詞“了”が複雑述語の直後： 移動動作とも目的を表す動作とも実現済み

上述の[表 9]が示すように、日本語と中国語の行為目的型複雑述語の共通点と相違点がある。

共通点：

(A) 日本語と中国語の行為目的型複雑述語では、単純動詞と複合動詞のどちらも目的を表す要素になれる。

(B) 日本語と中国語の行為目的型複雑述語構文では、参与者が行為目的型複雑述語の全体の前に置かれる場合、動作主と参与者は同一の目的を持ちながら移動することを表す。

相違点：

(A) 形態から見ると、日本語の行為目的型複雑述語の語順は動作の行う順番と逆であるが、中国語の行為目的型複雑述語の語順は動詞の行う順番と同じである。

また、日本語では、移動動詞の方向性と関係なく、「目的要素＋に＋移動動詞」という形式を用いて行為目的型複雑述語になる。中国語では、行為目的型複雑述語の形式は移動動詞の方向性と相関する。方向性を持つ移動動詞は目的要素と直接共起し、「方向性移動

動詞＋目的要素」という形式で現れる。方向性を持たない移動動詞は“去／来”とつながって目的要素と共起し、「非方向性移動動詞＋“去／来”＋目的要素」という形式で行為目的型複雑述語になる。

さらに、日本語では、使役動詞・受身動詞の連用形や動作名詞も目的要素になれるが、中国語では、使役表現・受身表現や動作名詞は目的要素にならない。

(B) 文法的特徴から見ると、日本語では、行為目的型複雑述語構文の意味が場所名詞と参加者の位置と関係しない。場所名詞は行為目的型複雑述語全体の前に現れても、移動動詞の前に現れても、移動の目的地を表す。参加者は複雑述語全体の前のみに置かれ、移動動詞の後ろに置かれない。

日本語と異なり、中国語では、行為目的型複雑述語構文の意味が場所名詞と参加者の位置と関係する。場所名詞は行為目的型複雑述語全体の後ろに置かれると、移動の目的地と目的地のものを表すが、移動動詞の後ろに置かれると、移動の目的地のみを表す。参加者は移動動詞の後ろに置かれると、動作主だけが目的を持って移動することを表す。

(C) 過去を表す行為目的型複雑述語構文を対照すると、日本語の行為目的型複雑述語では、移動動作の実現は含意するが、目的を表す動作の実現状況は不明である。中国語の行為目的型複雑述語では、完了の助詞“了”が文末に置かれる場合、移動動作の実現は含意するが、目的を表す動作の実現状況は不明である。完了の助詞“了”が複雑述語の直後に置かれる場合、移動動作も目的を表す動作も実現したことを表す。

7.6 本章のまとめ

本章では、行為目的型複雑述語の形態的・文法的な特徴を分析し、日本語と中国語における行為目的型複雑述語の相違点をまとめた。

日本語では、動作の行う順番と逆に、「目的要素とする単純動詞・複合動詞・使役動詞・受身動詞の連用形や動作名詞＋に＋移動動詞」という構造を用いて行為目的型複雑述語になる。また、場所名詞は構文中の位置と関係しなく、移動の目的地を表し、参加者は同一の目的を持ちながら移動することを表す。過去を表す構文に移動動作の実現は含意するが、目的を表す動作の実現は不明である。

一方、中国語では、動作の行う順番に従い、方向性を持つ移動動詞は目的を表す動詞と直接共起し、方向性を持たない移動動詞は“去／来”とつながって目的を表す動詞と共起する。また、中国語の行為目的型複雑述語構文の意味は、場所名詞、参加者、完了の助詞“了”の位置と関係する。場所名詞は移動動詞の後ろに置かれると、目的地のみを表し、複雑述語全体の後ろに置かれると、目的地だけでなくその場所に存在する物を表す。参加者は複雑述語全体の前に置かれると、動作主と参加者は同一の目的を持ち、移動することを表し、移動動詞の後ろに置かれると、動作主だけが目的を持って移動する。完了の助詞“了”は文

末の場合、移動動作の実現は含意するが、目的を表す動作の実現は不明である。完了の助詞“了”は複雑述語の直後の場合、移動動作も目的を表す動作も実現したことを含意する。

第 8 章 補助動詞型複雑述語

第 4 章では、補助動詞型複雑述語の定義を述べた。本章では、日中語の補助動詞型複雑述語について詳しく検討する。補助動詞型複雑述語とは、日本語の「動詞テ形＋補助動詞」、中国語の「動詞＋補助動詞」という構造を持つものを指す。本章では、方向補助動詞型複雑述語の形態的・意味的・文法的な特徴、および、授受補助動詞型複雑述語の授受方向と形態的・文法的特徴に着目し、日本語と中国語における補助動詞型複雑述語の相違点を言及する。

8.1 はじめに

補助動詞とは、本来の意味が希薄し、別の動詞につながることで文法的機能を果たす動詞を指す。

日本語の補助動詞型複雑述語は、「動詞テ形＋補助動詞」という構造を用いて構文中に 1 つの述語として振る舞う。

(1) 次々と行われていく。

(陳燕生 1996: 78)

(2) 水平線から真っ赤な太陽が昇ってくる。

(『私が変わればまわりも変わる プロアクティブな生き方へ』)

(3) 病気で寝ていると、友人がご飯を作ってくれた。

(鹿浦・小村 2016: 32)

(4) 私がともだちにアイスを買ってあげた。

(鹿浦・小村 2016: 35)

例文 (1)(2) では、動詞「行われる」「昇る」は、補助動詞（つまり本来の意味が希薄した移動動詞）「いく」「くる」とつながり、補助動詞型複雑述語「行われていく」「昇ってくる」になる。例文 (3)(4) には、動詞のテ形「作って」「買って」は授受補助動詞「くれる」「もらう」とつながり、補助動詞型複雑述語「作ってくれる」「買ってあげる」になる。

中国語の補助動詞型複雑述語は、「動詞＋補助動詞」という形式を用いて構文中に 1

つの述語として振る舞う。

(5) 他 买来 了 一个 西瓜。

(彼 買うーくる PERF 一つ スイカ)

「彼はスイカを買ってきた」

(6) 我们 把 他的 事迹 写进 了 报告 里。

(私たち 前置詞 彼の 業績 書くー入る PERF 報告書 中)

「私たちは彼の業績を報告書に書き込んだ」

(7) 我 推荐 给 他 一名 英语老师。

(私 推薦するーあげる 彼 一名 英語教師)

「私は彼に英語教師を一名推薦してあげる」

(8) 这 是 中学老师 教给 他们 的 做法。

(これ は 中学校の先生 教えるーあげる 彼達の やり方)

「このやり方は中学校の先生から彼らに教えてあげたのだ」

例文 (5)(6) には、動詞“买”「買う」「游」「泳ぐ」は方向補語“来”「くる」「出」
「出る」とつながり、補助動詞型複雑述語“买来”「買ってくる」「写进」「書き込む」
になる。例文 (7)(8) の補助動詞型複雑述語“推荐给”「推薦してあげる」「教给」「教
えてあげる」は授受補助動詞“给”「あげる」が動詞“推荐”「推薦する」「教」「教え
る」に後続して構成される。

本章では「行われていく」「昇ってくる」「买来」「買ってくる」「写进」「書き込む」
のような動作の移動や方向を表す複雑述語を方向補助動詞型複雑述語と呼ぶ。「作ってく
れる」「教给」「教えてあげる」のようなものの授受を表す複雑述語を授受補助動詞型複
雑述語と呼ぶ。本章では、方向補助動詞型複雑述語と授受補助動詞型複雑述語に着目し、
日本語と中国語における補助動詞型複雑述語の相違点を説明する。

8.3 節では、日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語が形態上・意味上・文法上の特
徴を分析する。8.4 節では、日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語が形態上・意味上・
文法上の特徴を分析する。8.5 節では、日本語と中国語の補助動詞型複雑述語の特徴を対
照し、日本語と中国語の相違点を明らかにする。

8.2 補助動詞型複雑述語に関する先行研究の概観と問題点

日本語の補助動詞型複雑述語において、方向補助動詞型複雑述語と授受補助動詞型複雑

述語だけではなく、「～てしまう、～ておく、～てみる、～てみせる、～ている、～である」が動詞テ形に後続し構成する補助動詞型複雑述語も存在している。

山本 (2018) では、日本語の補助動詞と動詞のみで表現形式と敬語形式と比較し、「補助動詞は固すぎず、ゆるすぎない。補助動詞が「動詞のみ」や「敬語」よりも丁寧で親身な印象がある」と指摘している。

森田 (1971) では、補助動詞「～てしまう」「～ておく」「～てみる」「～てみせる」は動作の起こり方を表す語であると述べている。

内山 (2012) では、日本語の「～てしまう」と「～しおわる」のアスペクトを分析し、その違いを説明している。

- 1) 時間的にシオワルが完了の一点を指すのに対し、テシマウは完結まで含んだ動作全体をひとまとまりとして、その成立を指す。

- 2) シオワルは完了の意味とは共存しにくい、テシマウは共存できる。

内山 (2012: 10)

陳燕生 (1996: 89-91)では、日本語の「～てしまう」に対して、中国語には“到最后”や“完了”を用いて動作の最終段階の完了を表し、日本語の「～ておく」に対応する表現について、「中国語の表現は主に文脈によって形がいろいろあるが、語彙的に決まることも少なくない」（陳燕生 1996: 93-96）と指摘している。

(9) 作品の読みに入る前に、その時代背景を説明しておきましょう。

(陳燕生 1996: 96)

(9') 在 阅读 作品 之 前, 先 谈 一 谈 其 时代 背景 吧。

(前置詞 読む 作品 の 前 先に 話す 量詞 話す その 時代 背景 PTCL)

「作品の読みに入る前に、その時代背景を説明しておきましょう」

(陳燕生 1996: 96)

陳燕生 (1996) が述べたように、日本語の「V-てしまう、V-ておく、V-てみる、V-てみせる、V-ている、V-である」という形式を持つ補助動詞型複雑述語に対し、中国語には補助動詞型複雑述語を使わず、単純動詞 (10')、「動詞+結果を表す形容詞」(11')ようにいろいろな形式を用いて表現するので、本章では、日本語と中国語における方向補助動詞型複雑述語と授受補助動詞型複雑述語のみを研究対象として対照研究を行う。

(10) 惜しいことに、この本はすでに散逸してしまっている。

(陳燕生 1996: 89)

(10') 可惜 的 是, 那 本 书 已经 丢 了。

(惜しい の は その 本 すでに 失う PERF)

「惜しいことに、この本はすでに散逸してしまっている」

(11) 今日はお客がくるので、ビールを3本買ってある。

(陳燕生 1996: 93)

(11') 今天 有 客人 来, 所以 买好 了 三瓶啤酒。

(今日 いる 客 くる だから 買うー良い PST 3本のビール)

「今日はお客がくるので、ビールを3本買ってある」

本節では、日本語と中国語において、方向補助動詞型複雑述語と授受補助動詞型複雑述語に関する先行研究を概観し、近年来に、補助動詞型複雑述語に関する研究に存在している問題点に提出する。

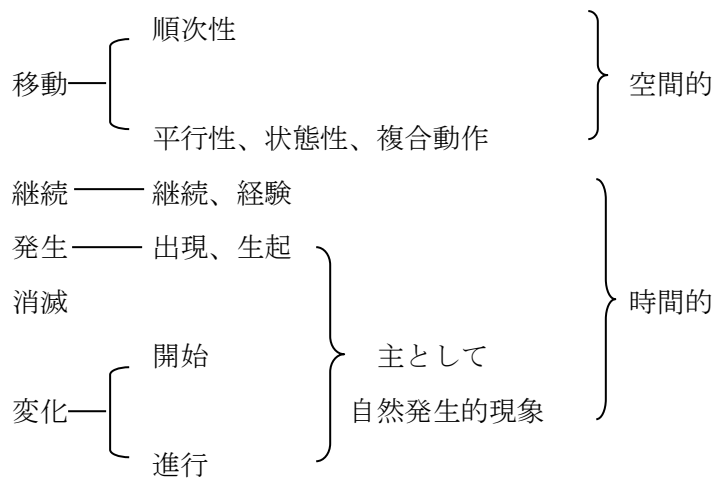
8.2.1 方向補助動詞型複雑述語に関する先行研究

本節では、日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語に関する先行研究を概観する。

(i) 日本語の方向補助動詞型複雑述語に関する先行研究

日本語の方向補助動詞型複雑述語に関する先行研究は、青井 (1970)、庵他 (2000)、筒井 (2019)、陳燕生 (1996)、三上 (1975)、近藤 (1984)、村田 (2001)、主濱 (2011) などがある。青井 (1970)、庵他 (2000)、陳燕生 (1996)、三上 (1975)、近藤 (1984)、村田 (2001) では、日本語の方向補助動詞型複雑述語の用法について説明している。

森田 (1994) では、日本語の補助動詞「いく／くる」をその表す意味によって、以下のよう分類している。



[図 1] 日本語補助動詞「いく／くる」の意味分類

(森田 1994: 97)

森田 (2008) によれば、話者の視点から見ると、日本語の補助動詞「いく／くる」は「動作性の動詞は、単なる動作・作用・行為・現象の成立を意味するだけで、それを話者がどうとらえているかの具体性がない。「て」を介して「いく／くる」を添えることによって、その行為や現象が話者の目から具体的にどのようなとらえられているか、抽象的な動詞的概念に具体的意味が与えられる。その与えられる意味は、大きく見れば次の四種である。

(A) 移動、(B) 継続・経験、(C) 発生・消滅、(D) 変化」と指摘している。さらに、この 4 種の意味を「(A) 本動詞としての移動性を宿しているものと、(B) ～ (D) 状況への話者の受け止めを加える場合の二種がある」と述べている。

(A) 移動：その行為と移動動作との関係に対する話者の視点

(B) 継続・経験：継続する行為や事態の時間的有り様をとらえる話者の視点

(C) 発生・消滅：出現・生起・消滅する事態への話者の時間的受け止め

(D) 変化：事態の開始や進行に対する話者の視点

(森田 2008: 126)

また、森田 (2008: 126) では、補助動詞「いく／くる」が移動を表す場合には、移動の有り様により、「① 順次性：ある行為をしてからの移動；② 並行性：同時進行の移動；③ 状態性：移動の手段；④ 移動性：移動の有り様（移動動詞に付く）」という 4 種に分けている。

森田 (2008: 128) では、補助動詞「いく／くる」が変化を表す場合、「てくる」を用いると、過去から現在へ、今の時点で状況を受け止める意識となる。まだ状態変化を食い

止め得るとの意識が濃厚。一方、「ていく」を用いると、未来に向かって状態変化が限りなく続く意識。もはや止めようがないとの気分が付きまとう」と述べている。

青井 (1970) では、日本語の補助動詞「いく」「くる」は空間的な用法と時間的な用法に分けている。空間的な用法は「動作そのものの空間的な近づき、遠のきを表す」(青井 1970: 171)。時間的な用法は「動作の始まり」または「動作の継続や展開」を表す(青井 1970: 172)。

庵他 (2000) では、補助動詞「～ていく」「～てくる」については、「空間的用法 1: 主体の移動、空間的用法 2: 対象の移動、時間的用法」という 3 つの用法がある。

近藤 (1984: 25-34) では日本語の補助動詞「～テクル」「～テイク」は「空間型」と「時間型」に分類し、「時間型」をさらに「変化型」と「継続型」に分けている。

村田 (2001) では、日本語の「いく」「くる」を本動詞、軽動詞と補助動詞という 3 つに分けている。村田 (2001) では、「本動詞と補助動詞の「いく」「くる」は物理的移動動詞であるが、軽動詞の「いく」「くる」は心理的移動動詞である」と指摘している。

三上 (1975) では「のぼってゆく、ぼんやりしてくる」のような構造を「あわせ動詞」と呼んでいる(三上 1975: 34-36)。また、日本語の「てゆく」「てくる」を空間的カテゴリーと時間的カテゴリーに分けている。

三上 (1975: 35-44) によれば、空間的カテゴリーを以下の 3 種類に分けている。

- (a) 「「動作」の示す行為をしてのち、行為者が行為の行われた場所を離れる（「ゆく」がつく場合は話し手の視点に対して遠ざかる。「くる」の場合は近づく）ことをあらわす」(三上 1975: 35)

(12) 僕はご飯を食べてくる。

(三上 1975: 38)

(13) 夏になるとそれを連れて山へ来て、山での収入を取り上げて行ったそうだ。

(三上 1975: 39)

- (b) 「行為と移動とが同時に生起することをあらわす」(三上 1975: 35)

(14) 番台を頭の上に載せて太鼓を叩いていく。

(三上 1975: 40)

- (c) 「「動詞」はすでに移動をあらわす移動動詞であるが、「ゆく・くる」はこれにとく

に「境遇性」³¹を付与する」 (三上 1975: 35)

(15) 彼は彼の妻だけがよろよろと歩く二本の立木のやうに動いて行った。

(三上 1975: 41)

また、三上 (1975: 45-50) によれば、時間的カテゴリーを以下の3種類に分けられる。

(d) 「時間の推移のうちに、「動詞」の指し示す行為がなされること、いわば行為の持続的な進行をあらわす」 (三上 1975: 45)

(16) 笛を吹き、羊と遊んで暮らして来た。

(三上 1975: 46)

(e) 「「動詞」が指し示している行為それ自体がより深く進行、展開することをあらわす」 (三上 1975: 47)

(17) ただ自分は自分たちの仕事を積み上げていく。

(三上 1975: 47)

(f) 「状態変化の進行をあらわす」 (三上 1975: 45)

(18) 仕事の高は眼の前で減って行った。

(三上 1975: 49)

陳燕生 (1996) では、日本語の「～ていく」と「～てくる」の「アスペクトを表わす」用法について説明している。陳燕生 (1996) によれば、日本語の「～ていく」は 1.消滅の過程；2.変化の過程；3.ある時点からの持続を表すが、「～てくる」は 1.出現の過程；2.変化の過程；3.過程の始まり；4.ある時点までの持続を表すと述べている。

筒井 (2019) では、補助動詞「～てくる」の感情表現としての用法を説明している。筒井 (2019: 127) によれば、「「V-テクル」が不満表明の発話で用いられることで、話者と話者以外の人物との対立する立場を表し、他者の行為の影響が話者に及んだ結果、話者が他者の行為の理不尽さに対して不満や不快感、怒りなどの否定的な感情を抱いていることを表現していた。また〈自己の経験の語り〉では、経験を語り始める発話において V-テクルが用いられ、聞き手に対して以前話題にした話の続きを聞いてほしいという気持ちを

³¹ 三上 (1975: 35) によれば、「境遇性」は「語り手の視点に対して、近づく、遠のく」ということを指す。

表現していた」と分かった。

主濱 (2011) では、人称制限と話しの視点から、日本語の補助動詞「～てくる」を考察している。

①「～テクル」で表される動作の受け手の位置は、一人称者を表す名詞句を置く安定する」という「～テクル」の人称制限は、単文では成り立つが、複文の従属節中では必ずしも成り立つわけではない。

②複文の従属節中の「～テクル」の人称制限については、「複文の視点ハイアラーキー」により、主節の名詞句の指示対象寄りに話者の視点、が置かれ、その方向に「～テクル」により表される行為が直接または間接的に及んでいれば、適切な解釈が可能となる。

(主濱 2011: 70)

(ii) 中国語の方向補助動詞型複雑述語に関する先行研究

中国語の方向補助動詞型複雑述語に関する先行研究は、濱口 (2014)、玄玥 (2018)、丸尾 (2010) などがある。

濱口 (2014)、玄玥 (2018)、劉月華 (2001) などでは、中国語の方向補助動詞³²“来”は動詞が表す行為によって人や物が発話基準点に近づくことを、“去”は動詞が表す行為によって人や物が発話基準点から遠ざかることを指摘している。

濱口 (2014: 22) によれば、「複合方向補語³³は、“上” “下” “进” “出” “回” “过” “起” “到” が表す方向と、“来” “去” が表す方向を合わせた方向を表す」と述べている。

(19) 电梯 坏 了， 我们 走上去 吧。

(エレベータ 壊れる PERF 私たち 歩くー上がる#いく 語気助詞)

「エレベータが壊れたから、歩いてあげましょう」

(濱口 2014: 22)

³² 中国語学では、「方向補語」という用語を用いて“V 来, V 去, V 进, V 出”などの構造における“来, 去, 进, 出”を示す。日本語の補助動詞と同様に、中国語の方向補語とする“来, 去, 进, 出”なども動詞とする本来の意味が希薄し、別の動詞につながることで文法的機能を果たすので、本論文では、用語の統一するために、中国語の動詞から由来した方向補語を方向補助動詞と呼ぶ。

³³ 濱口 (2017: 24) では、「中国語の文法では、動詞、形容詞の後ろに置かれる補足的な表現を「補語」という。濱口 (2014) では、“来, 去, 上, 下”などは単純方向補語で、“上来, 下去, 进来, 回来”などは複合方向補語と呼ぶ。玄玥 (2018) では、“来, 去, 上, 下”などは単音節趨向補語で、“上来, 下去, 进来, 回来”などは二音節趨向補語と呼ぶ。本論文では、“来, 去, 上, 下”などの単純方向補語と“上来, 下去, 进来, 回来”などの複合方向補語を方向補助動詞と総称する。奥水・島田 (2009: 111) では、「方向補語には一音節動詞の単純方向補語と、それらの組み合わせで構成される複合方向補語がある」と述べた。

沈力 (1997: 19) では、“寄来”「郵送してくる」は「語」であるが、“寄一封信”「一通の手紙を郵送する」あるいは“寄一封信来”「一通の手紙を郵送してくる」のような構造は「句」とであると主張している。沈力 (1997: 20) では、中国語には可能不可能を示す要素“得／不”は合成語には挿入できるが、句には挿入できないので、“寄来”は「語」である。

丸尾 (2010) では、中国語の方向補語を①類：“来／去”；②類：“上／下／进／出／回／过／起”；③類：②類の補語に“来／去”が加わった形 3 種類に分けている。

[表 10] 丸尾 (2010) での中国語の方向補語の分類

②類 ①類	上	下	进	出	回	过	起
来	上来	下来	进来	出来	回来	过来	起来
去	上去	下去	进去	出去	回去	过去	

(丸尾 (2010: 216))

丸尾 (2010: 217) では、中国語の方向補語の用法について説明している。丸尾 (2010: 217) では、「②類の場合には、目的語は方向補語の後ろに置かれます；①類および③類のように“来／去”が現れる場合には、目的語が場所を表す名詞であれば“来／去”の前に置かれます。目的語が一般の事物で、その動作・行為が既に完了している場合には、“来／去”の前のみならず、後ろに置くことも可能です。未然を表す場合には、目的語である事物は通常“来／去”の前に置かれます」と述べている。

(iii) 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の対照に関する先行研究

丸尾 (2014)、陳湘奉 (2017)、陳燕生 (1996) では、日本語と中国語における方向補助動詞型複雑述語を対照し、研究を行う。

丸尾 (2014: 186-188) によれば、中国語の“来／去”の方向補助動詞型複雑述語において、「主体の移動、対象の移動、動作の方向、状態変化」を表す場合、日本語には方向補助動詞型複雑述語ではなく、複合動詞あるいは単純動詞を用いて表現すると述べている。

陳湘奉 (2017) では日本語の補助動詞「ていく、てくる」と中国語の“去・来”に対応し、日本語の「ていく、てくる」を「空間的移動用法³⁴・時間的アスペクト用法³⁵・認知的用

³⁴ 日本語の「ていく、てくる」の「空間的移動用法」は「本来の移動動詞の「いく・くる」の特徴を受け継いで、前接する動詞に主導的、あるいは補助的な方向性を付与する。意味的には、対象の位置変化という空間的移動を表す用法」である（陳湘奉 2017: 62）。

³⁵ 日本語の「ていく、てくる」の「時間的アスペクト用法」は「先行動詞で表わす動作による効果が、空間における位置変化ではなく、時間の流れに沿って主体に起きる変化—「変化の発生」、または変化

法³⁶」の3つの用法に注目し、日本語「ていく、てくる」と中国語の“去/来”の対応関係を以下の3点のように説明している。

1) 日本語の「てくる」が往復の移動を表す場合、中国語の“来”と対応関係を持たず、“去”と対応する。

(20) 今日は、なんの映画を観てきたの。

(20') 今天 去看 什么 电影 了 吗?

(今日 いく 一見る 何 映画 PST PTCL)

「今日はなんの映画を見に行ったか」

(陳湘奉 2017: 64)

2) 「ていく、てくる」が時間的アスペクト用法として使われるとき、中国語の“去・来”と対応関係がなくて、“下去・下来”と対応する。また、「中国語では、語義の中に「上へ」或は「下へ」という方向性がすでに内在している動詞がある場合、中国語では、“下去”を使わず動詞のみで表わすことができる」と指摘している。

(21) 今まで日本語を勉強してきて、もう話せるようになった。

(21') 日语 至今 学下来 已经 能说 了。

(日本語 今まで 学ぶ 下がる#くる すでに 話せる PST)

「今まで日本語を勉強してきて、もう話せるようになった」

(陳湘奉 2017: 67)

(22) 日がたつにつれて、白鳥の数がふえてきました。

(22') 天鵝 的 数量 一天天 增加。

(白鳥 の 数 日がたつ 増える)

「日がたつにつれて、白鳥の数がふえてきました」

(陳湘奉 2017: 67)

から生まれ、そして維持されつつある新しい結果状態―「態の継続」を表わす」用法を指す(陳湘奉 2017: 64)。

³⁶ 日本語の「ていく、てくる」の「認知的用法」は「先行動詞で表わす働きかけによって、主体の認知範囲に影響を及ぼし、その意識されたショックを強調するため、源となる動態事象を表す用法である。また、「空間的移動用法」「時間的アスペクト用法」と異なるのは、ただ移動・変化という事実を述べるのではなく、それをすべて抽象化した背景に置いておき、認知への影響のみを強調するところである」(陳湘奉 2017: 68)。

3) 認知的用法の「てくる」は中国語の“来”と対応しなくて、“起来”と対応する。また、消失動詞に後続する「ていく」も中国語の“去”と対応しない。

(23) 雨が降ってきました。

(23') 雨 下起来 了。

(雨 降る一起きる#くる PST)

「雨が降ってきました」

(陳湘奉 2017: 70)

(24) 見てごらん、虹がどんどん消えていくよ。

(24') 你瞧，彩虹 眼看 就 不见 了。

(見て 虹 まもなく 接続詞 消える PST)

「見てごらん、虹がどんどん消えていく」

(陳湘奉 2017: 69)

陳燕生 (1996) では、日本語の「～てくる」「～ていく」が空間的移動の意味を表す場合のみ中国語の方向を表す補助動詞型複雑述語に対応すると指摘している。

8.2.2 授受補助動詞型複雑述語に関する先行研究

本節では、日本語と中国語における授受補助動詞型複雑述語に関する先行研究を概観する。

(i) 日本語の授受補助動詞型複雑述語に関する先行研究

日本語の授受方助動詞型複雑述語に関する先行研究は、山口 (2015)、原田 (2006)、鹿浦・小村 (2016)、山本 (2003)、松下 (1928) などがある。

松下 (1928) では、「助けて貰う、泣いて居る、載せて置く」の「～貰う、～居る、～置く」のような実的意義が無く唯形式的意義だけを持っている動詞「形式動詞」と呼ばれる。森田 (2008: 128) では、日本語の「もらう」「くれる」「あげる」を「受給動詞」と呼ぶ。

森田 (2008: 132) では、日本語の授受補助動詞³⁷の意味を説明している。森田 (2008: 132) によれば、「～てやる (～てあげる)」は「① 利益・恩恵の給与 (本を貸してあげた) ;

³⁷ 森田 (2008) では、「～てやる」「～てもらう」「～てくれる」「～てあげる」を受給表現と呼ぶ。

② 不利益の給与（殺してやる）；③ 自棄自虐・強い意志（自殺してやる）」、「～てくれる」は「④ 感謝（一生懸命働いてくれた）；⑤ 迷惑（偉いことをしてくれたよ）；⑥ 許可・許容（今からでも試験を受けさせてくれるといいが）；⑦ 希求・懇願（早く帰ってくれ）；⑧ 不利益の給与（目にももの見せてくれる）」、「～てもらう」は「⑨ 利益の自主的受身（先生に紹介してもらった）；⑩ 依頼・命令（君には外回りをやってもらう）；⑪ 迷惑（勝手に入ってもらっちゃ迷惑だ）；⑫ 許可を求める（私にも、ひとこと言わせてもらいます）」という意味がある。

山口 (2015: 13) では、「～てもらう」の機能拡張に注目し、受身文と比べて、「同じ事態に対して、テモラウ文は恩恵、受身文は迷惑でありと話し手が捉えている場合に用いられる」と述べている。

(25) 私はマスコミに記事を書いてもらう。(恩恵)

(26) 私はマスコミに記事を書かれる。(迷惑)

原田 (2006)、鹿浦・小村 (2016) では、日本語の「～てくれる」は感謝を表し、「～てもらう」は依頼を表すと指摘している。

(27) 病気で寝ていると、友人がご飯を作ってくれた。

(鹿浦・小村 2016: 32)

(28) 友人に電話して、家に来てもらった。

(鹿浦・小村 2016: 33)

山本 (2003) によれば、授受補助動詞は恩恵的用法、非恩恵的用法、と中立的用法という3つの用法があることが分かった。恩恵を表す場合、「～テクレル」は恩恵を受動的に受け取ることを表し、「～テモラウ」は依頼的な受け取りを表す傾向がある(山本 2003: 274)。また、「～テヤル」は話し手の側が恩恵を与えることを表すのもであり、相対的に話し手が受け手である聞き手より上の立場になってしまうことから、「恩着せがましい」「威張っている」という印象を聞き手に与える可能性がある(山本 2003: 275)。

(ii) 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の対照に関する先行研究

日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の対照研究について、成戸 (2017a, 2017b)、陳月吾・周莉莉 (2009: 468)、周莉莉 (2011, 20112) などの先行研究がある。

成戸 (2017a, 2017b) では、中国語には“V+給”構造における動詞Vと“給”の空間的な方向性が一致し、日本語には「～てくれる、～てもらう」などの場合には、中国語の“V

+給”のような空間的方向性の一致を要求しないと指摘している。

陳月吾・周莉莉 (2009: 467) では、日本語と中国語の授受表現には2つ大きな区別があると説明している。

一つは中国語にはただ一つの授受動詞—「給」しかないのに対して、日本語には「やる」「あげる」「さしあげる」「くれる」「くださる」「もらう」「いただく」の七つの授受動詞がある。従って、その授受表現も中国語より甚だしく複雑になっているわけである。もう一つは、中国語の授受表現は「誰かが誰かのために何かをする」を簡単に表すのに対し、日本語の授受表現は、授受補助動詞により、話し手の主観的な評価を加えたり、授受関係の恩恵方向の転換を巧みに表したりするのである。

(陳月吾・周莉莉 (2009: 467))

(29) 東京へ売られていく時、あの人がたった一人見送ってくれた。

(陳月吾・周莉莉 2009: 468)

(29') 我 被 卖 到 东京 时, 只有 他 一个人 来 给 我 送行。

(私 PASS 売る 至る 東京 とき ただ 彼 一人 くる 前置詞 私 見送る)

「東京へ売られていく時、あの人がたった一人見送ってくれた」

(陳月吾・周莉莉 2009: 468)

(30) お煙草を忘れていらしたらしいから、持って来てあげたんですわ。

(陳月吾・周莉莉 2009: 468)

(30') 您 忘记 带 烟 了 吧, 我 给 您 送来

(君 忘れる 持つ タバコ PERF PTCL 、私 前置詞 君 送る—くる
啦。

PTCL)

「お煙草を忘れていらしたらしいから、持って来てあげたんですわ」

(陳月吾・周莉莉 2009: 468)

周莉莉 (2011) では、日本語と中国語に授受表現における恩恵方向性の転換を説明している。日本語では、方向性の転換が存在しているが、中国語では、方向性の転換が存在しないと述べている。

周莉莉 (2012: 697) によれば、「中国語の授受動詞には、体系的な敬語・非敬語の区別、

身内へ・よそのへの区別がなく、単なる与え動詞である「給」しかない」とわかった。また、周莉莉 (2012: 702) では、「日本語は授受補助動詞そのものが上下方向性を持つから、授受関係も上下方向性を持つのである。それに対して、中国語では、「为, 给, 替, 请, 让」といった語そのものが上下方向性を持っておらず、後につく第二人称代名詞の敬語（您）／非敬語（你）と共に使われることによって、授受関係における上下の方向性を表すのである」と述べている。

中国語の“V+给+N”構造について、“给+N”という前置詞句が動詞 V に後置された形式とする見方（Y・ハシモト (1986)、興水・島田 (2009)）と“V+给”は一つのまとまりとする見方（沈家煊 (1999)、胡竹安 (1960)、郭春貴 (2001) など）に分けている。

8.2.3 先行研究の問題点

本節では、日本語と中国語の補助動詞型複雑述語に関する先行研究の問題点を提出する。

1 つ目は、日本語の「V て-いく／くる」の「いく／くる」は本動詞であるか補助動詞であるかという問題である。

村田 (2001: 3) では、補助動詞構文の「V て-いく」「V て-くる」において、動詞テ形が「～てから」に置き換えられると指摘している。しかし、補助動詞とは動詞本来の意味が希薄であり、文法的機能を果たす動詞である。本論文では、例文 (31) の「やっていく」の「いく」は補助動詞とは言えず、本動詞であり、従って連続動作型複雑述語に分類すべきと考える。

(31) a. 掃除をやっていく。

b. 掃除をやってからいく。

(村田 2001: 3)

2 つ目は、中国語の“V-来／去”“V-给”は複合動詞であるか、複雑述語であるかという問題である。

沈力 (1997) では、可能不可能を示す要素“得／不”を挿入できるかどうかにより、中国語の“寄来”のような“V-来／去”が語であると説明している。しかし、中国語において、語彙的複合動詞にも“得／不”を挿入できないので、中国語の語彙的複合動詞は語ではないと言えない（“失守”“*失不守”“*失得守”）。

さらに、“寄来”において、“不”しか挿入できず、“得”を挿入できない。

(32) *寄得来一封信。（一通の手紙を郵送できる）

また、ハシモト (1986)、興水・島田 (2009) では、“给+N”が1つのまとまりである

が、“給”と動詞Vが1つの述語ではないと見なす。

本論文の第4章と第5章では、「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の特徴と相違点を説明した。“V－来／去”“V－給”の間に、名詞句を挿入できるし、単一の動詞要素のみを用いて疑問文に答えられることから、“V－来／去”“V－給”は「動詞＋動詞」型複雑述語である。

3つ目は、陳月吾・周莉莉 (2009) は中国語の授受補助動詞型複雑述語に関する研究ではなく、授受表現に関する研究である。陳月吾・周莉莉 (2009) に挙げた例文 (29')(30') から見ると、中国語の授受表現には「誰かが誰かのために何かをする」という意味を表すが、この場合の“給”は動詞ではなく、前置詞である。日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の相違点に言及しない。

本章では、日本語の方向補助動詞型複雑述語の用法を整理し、日本語と中国語における方向補助動詞型複雑述語の用法の違いを分析する。また、方向補助動詞型複雑述語と授受補助動詞型複雑述語の形態的・意味的・文法的な特徴を検討し、日本語と中国語における補助動詞型複雑述語の相違点を全面的に解明しようとする。

8.3 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の特徴

本節では、日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の形態的・意味的・文法的な特徴を考察する。8.3.1 節では、日本語と中国語における方向補助動詞型複雑述語の形態を説明する。8.3.2 節では、日本語の方向補助動詞型複雑述語の用法を整理し、日本語の方向補助動詞型複雑述語に対照し、中国語の方向補助動詞型複雑述語の用法を分析する。8.3.3 節では、日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語構文に注目し、方向補助動詞型複雑述語の文法的特徴を考察する。

8.3.1 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の形態的特徴

本節では、日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の形態を説明する。

日本語の方向補助動詞型複雑述語は「動詞テ形＋補助動詞の「いく／くる」」という構造を持つものである。

(33) そのカラスは、西から飛んできて、東へ消えていった。

(34) 犬がアルプス公園にとぼとぼと歩いていった。

(村田 2001: 2)

(35) 実家からお米を送ってくる。

(36) 友人が夜遅く電話してきた。

例文 (33)(34) では、動詞テ形「沈んで」「歩いて」と補助動詞「いく」が組み合わさって補助動詞型複雑述語になる。方向補助動詞型複雑述語の「V てーいく」は物事の方が遠ざかることを表す。例文 (33)(35) では、動詞テ形「飛んで」「送って」と補助動詞「くる」がつながって補助動詞型複雑述語になる。方向補助動詞型複雑述語の「V てーくる」は物事の方が近づくことを表す。

日本語と異なり、中国語の方向補助動詞型複雑述語は単純方向補助動詞型複雑述語と複合方向補助動詞型複雑述語に分けられる。

単純方向補助動詞型複雑述語は「動詞＋方向補助動詞」という形式を持つものである。本論文では、中国語の単純方向補助動詞“进”「入る」「出”「出る」「回”「帰る」「来”「来る」「去”「行く」「起”「起きる」「上”「上がる」「下”「下がる」を中心に分析する³⁸。

(37) 他 把 车 停进 地下车库 了。

(彼 前置詞 車 止まるー入る 地下車庫 PERF)

「彼は車を地下車庫に止めた」

(38) 他 救回 了 两个 小孩儿。

(彼 救うー帰る PERF 2人 子供)

「彼は2人の子供を救った」

(39) 他 为 我 端来 一碗 汤。

(彼 前置詞 私 持つーくる 数詞 スープ)

「彼はスープを持ってくる」

(40) 他 朝 图书馆 跑去。

(彼 に 図書館 走るーいく)

「彼は図書館に走っていった」

(41) 他 默默地 举起 了 手。

(彼 黙々に 挙げるー起きる PERF 手)

「彼は黙々に手を挙げた」

³⁸ 中国語の方向補助動詞“过”は経路を通過することのみを表し、動作の方向は“来／去”で表す。本論文では、方向補助動詞“过”を検討しない。

例文 (37) では、複雑述語“停进”「止めて入る」は動詞“停”「止める」と方向補助動詞“进”「入る」から構成される。方向補助動詞“进”は動作主体が外部から内部への移動方向を表す。例文 (38) では、動詞“救”「救う」と方向補助動詞“回”「帰る」が組み合わさって複雑述語“救回”「救う」になり、「死の危機から生に復帰」ことを表す。方向補助動詞“回”「帰る」は元の位置や状態に戻るという動作の方向を表す。例文 (39)(40) の複雑述語“端来”「持ってくる」「跑去」「走っていく」では方向補助動詞“来”「くる」「去」「いく」は動詞“端”「(両手で) 持つ」「跑」「走る」に後続して方向補助動詞型複雑述語になる。方向補助動詞“来”「くる」は移動の方向が話し手に近づくことを表し、“去”「いく」は移動の方向が話し手に離れることを表す。例文 (41) では、動詞“举”「挙げる」と方向補助動詞“起”「起きる」がつながり方向補助動詞型複雑述語“举起”「挙げる」になる。方向補助動詞“起”「起きる」は下から上への移動方向を表す。

また、中国語において、動詞が 2 つの方向補助動詞（複合方向補助動詞）とつながり、「動詞＋方向補助動詞 1＋方向補助動詞 2」という形式を用いて、複合方向補助動詞型複雑述語になる。

(42) 他 买^回来 一本书。
 (彼 買うー帰る#くる 一冊の本)
 「彼は一冊の本を買って帰ってきた」

(43) 布料 又 缩^进去 一寸多。
 (布地 また 縮むー入る#いく 一寸あまり)
 「布地がまた一寸あまり縮んだ」

(44) 小鸟 从 笼子里 飞^出去 了。
 (鳥 から 籠 中 飛ぶー出る#いく PERF)
 「鳥が籠から飛び出した」

(45) 太阳 升^起来 了。
 (太陽 昇るー起きる#くる PST)
 「太陽が昇ってきた」

例文 (42)~(45) から見ると、中国語の複合方向補助動詞型複雑述語において、“进”「入る」「回”「帰る」「出”「出る」「起”「起きる」のみが方向補助動詞 1 になり、方向補助動詞“来”「くる」「去”「いく」は方向補助動詞 2 しかない。例文 (42) では、

方向補助動詞 1 “回”「帰る」は元の位置へ戻る方向を表し、方向補助動詞 2 “来”「くる」は話し手に近づくことを表す。例文 (43) の方向補助動詞 1 “进”「入る」は中へ移動する方向を表し、例文 (44) の方向補助動詞 1 “出”「出る」は外へ移動の方向を表し、方向補助動詞 2 “去”「いく」は方向が遠のくことを表す。例文 (45) の複合方向補助動詞 “起来”「上がる」は低いところから高いところへの移動方向を表す。つまり、中国語の複合方向補助動詞型複雑述語において、2 つの方向補助動詞が表す方向が組合せ、物事などの移動方向を表す。

日本語の方向補助動詞型複雑述語の形態は「動詞テ形＋補助動詞の「いく／くる」」である。一方中国語の方向補助動詞型複雑述語には単純方向補助動詞型複雑述語と複合方向補助動詞型複雑述語がある。単純方向補助動詞型複雑述語の形態は「動詞＋方向補助動詞（“进”“回”“来”“去”）」であり、複合方向補助動詞型複雑述語の形態は「動詞＋方向補助動詞 1（“进”“回”“出”“起”）＋方向補助動詞 2（“来”“去”）」である。

8.3.2 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の意味的特徴

本節では、日本語の方向補助動詞型複雑述語の用法を整理し、日本語の方向補助動詞型複雑述語に対照し、中国語の方向補助動詞型複雑述語の用法を分析する。

青井 (1970)、陳燕生 (1996)、三上 (1975)、近藤 (1984) に述べた日本語方向補助動詞型複雑述語の用法を整理し、本論文では、日本語の方向補助動詞型複雑述語の用法を基本用法と派生用法に分けている。方向補助動詞型複雑述語の基本用法は空間的移動の方向を表す。派生用法は有から無への消失、無から有への出現、状態変化、動作の始まりと動作の継続という 5 つがある。

日本語の方向補助動詞型複雑述語「V てーくる」は空間的移動の方向の近づくことという基本用法と無から有への出現、ここまでの状態変化、動作の始まり、ある時点まで動作の継続という派生用法がある。

(46) a. 彼は電車に乗ってくる。

b. 言葉は生活の中から生まれてくる。

c. 以上のようなわけで、油絵を解剖してみると、油絵の本質が見えてくる。

（『油絵を解剖する 修復から見た日本洋画史』）

d. 雨が降ってきた。

e. ここまで考えてくると、選択肢「C 5」は、表面的な選択であったことがわかる。

（『歴史小説真剣勝負』）

例文 (46a) の「乗ってくる」は空間的な距離が近づき、主語「彼」は話し手への移動方向を表す。これは方向補助動詞型複雑述語「V てーくる」の基本用法であり、空間的に、距離が近づくことを表す。例文 (46b) の「生まれてくる」は主語「言葉」が無から有への出現過程を表し、物事が無から有への出現を表す。例文 (46c) の「見えてくる」は、元々存在している「油絵の本質」がどんどん見えるという状態の変化を表す。例文 (46d) の「降ってくる」は「雨が降ることが始まる」ことを表し、この場合に、方向補助動詞型複雑述語「V てーくる」は動作の始まりを表す。例文 (46e) では、「考えてくる」はこの（時点）点まで考えるという動作の持続を表す。

「V てーくる」と比べ、日本語の方向補助動詞型複雑述語「V てーいく」は空間的移動の方向の遠ざかるという基本用法と有から無への消失、これからの状態変化、ある時点から動作の継続という派生用法がある。

(47) a. 田中さんはもう古里へ帰って行った。

(陳燕生 1996: 85)

b. そのことが人々の心から消えていった。

c. このままどんどん太っていくんだーか?

(『食べてキレイ “25kg ダイエット” と “ニキビ・アトピー完治” のミラクル大作戦』)

d. 日が西に沈んでいく。

(中山 2014: 1)

例文 (47a) では、「帰っていく」は主語「田中さん」が話し手より空間的な距離が遠くことを表す。例文 (47b) では、方向補助動詞型複雑述語「消えていく」は「そのことが心に有から無への消失過程を表す。例文 (47c) では「太っていく」太くなる状態の変化を表す。例文 (47d) の「沈んでいく」は日がこの時点から西に沈むことの継続を表す。

日本語と異なり、中国語において、方向補助動詞型複雑述語は「1.空間的移動の方向、2.無から有への出現、3.状態変化、4.動作の始まり」という 4 つの用法がある。また、方向補助動詞の違いにより、方向補助動詞型複雑述語の用法も異なる。

本章に言及する全ての方向補助動詞型複雑述語は空間的移動の方向を表すことができる。本章の 8.3.1 節に述べたように、中国語の複合方向補助動詞型複雑述語は「2 つの方向補助動詞が表す方向が組合せ、物事などの移動方向を表す」ので、本節では方向補助動詞型複雑述語の“Vー进”“Vー回”“Vー来”“Vー去”“Vー起来”“Vー出”“Vー

上” “V一下”のみを検討する。

(48) a. 他 把 信 锁进 了 抽屉 里。

(彼 前置詞 手紙 鍵をかけるー入る PERF 引き出し 中)

「彼は手紙を引き出しの中に入れて鍵をかけた」

b. 他 把 书 还回 图书馆 了。

(彼 前置詞 本 返すー帰る 図書館 PERF)

「彼は本を図書館に返して帰った」

c. 他 寄来 了 一箱苹果。

(彼 郵送するーくる PERF 一箱のリンゴ)

「彼はリンゴを一箱郵送してきた」

d. 他 给 经理 送去 了 一盒烟。

(彼 前置詞 マネージャー 送るーいく PERF 1 ケースのたばこ)

「彼はマネージャーに煙草を1 ケース送っていった」

e. 小狗 从 地上 蹦^起来。

(犬 から 地面 ジャンプするー起きる#くる)

「犬が地面から飛び上がった」

f. 一周 了, 他 只 卖出 一台 机器。

(一週間 PERF 彼 ただ 売るー出る 一個 機器)

「一週間になったけど、彼は機器を一個しか売らなかった」

g. 那么 多 画, 他 只 挂上 了 一幅。

(そんな 多い 絵 彼 ただ 掛けるー上がる PERF 一枚)

「多くの絵があるけど、彼は1 っしか掛けなかった」

h. 他 撕下 了 墙 上 的 画。

(彼 外すー下がる PERF 壁 上 の 絵)

「彼は壁にかけた絵を外した」

例文 (48a) の“锁进” 「(何の中に) 入れて鍵をかける」では、方向補助動詞“进”

「入る」は引き出しの外から中への移動方向を表す。例文 (48b) の“还回”「返す」では、方向補助動詞“回”「帰る」は「図書館から借りた本がまた図書館に戻る」という意味を表し、元の位置に戻して往復という移動方向を表す。例文 (48c) では、方向補助動詞型複雑述語“寄来”「郵送する」の“来”「くる」はリンゴの移動方向が話し手に近づくことを表す。例文 (48d) では、方向補助動詞型複雑述語“送去”「送る」の“去”「いく」は煙草の移動方向が話し手に遠ざかることを表す。例文 (48e) の“跳起来”「飛び上がる」では、方向補助動詞“起来”「起きる」は犬が低いところから高いところへの移動方向を表す。例文 (48f) “卖出”「売り出す」では、方向補助動詞“出”「出る」は内部のところから外への移動方向を表す。例文 (48g) “挂上”「掛ける」では、方向補助動詞“上”「上がる」は低いところから高いところへの移動方向を表す。例文 (48h) “撕下”「外す」では、方向補助動詞“下”「下がる」は高いところから低いところへの移動方向を表す。

中国語の方向補助動詞型複雑述語の空間的移動の方向について、以下のようにまとめる。

“V－进”：外部から内部への移動方向を表す

“V－回”：移動方向が一回往復して、元の位置・状態に戻ることを表す

“V－来”：近づくことを表す

“V－去”：遠ざかることを表す

“V－起”：低いところから高いところへの移動方向を表す

“V－出”：内部から外部への移動方向を表す

“V－上”：低いところから高いところへの移動方向を表す

“V－下”：高いところから低いところへの移動方向を表す

また、中国語において、方向補助動詞型複雑述語の“V－出”“V－出来”を用いて物事が無から有への出現を表す。

(49) 他 游出 了 新 的 世界纪录。

(彼 泳ぐ－出す PERF 新しい の 世界記録)

「彼は水泳で新しい世界記録を出した」

(50) 花 了 1 个小时， 蛋糕 终于 做^出来 了。

(かかる PERF 1 時間 ケーキ やっと 作る－出る#くる PERF)

「一時間にかかって、ケーキはやっとできあがった」

例文 (49) の方向補助動詞“出”「出る」は、“新的世界纪录”「新しい世界記録」が

無から出現してきたことを表す。例文 (50) の 方向補助動詞 “出来” 「出る」も、“蛋糕” 「ケーキ」が無から有への出現ことを表す。

中国語において、方向補助動詞型複雑述語の“V－去”を用いて物事が有から無への消失を表す。

(51) 他 擦去 了 黑板 上 的 字。

(彼 拭く－いく PERF 黑板 上 の 字)

「彼は黒板に書かれた字を消した」

(52) 这件 衣服 花去 我 一个月 的 工资。

(この 衣服 払う－いく 私 一か月 の 給料)

「この服は私の一か月分の給料をかかった」

中国語において、方向補助動詞型複雑述語の“V－起来”を用いて状態の変化と動作の始まりを表す。

(53) 国民 GDP 逐年 增长^起来。

(国民の GDP 年々 増える－一起きる#くる)

「国民の GDP が年々上がっている」

(54) 喜庆 的 锣鼓 敲^起来 了。

(お祝い の どらや太鼓 叩く－一起きる#くる PTCL)

「お祝いのどらや太鼓が鳴り始めた」

(戴耀晶 1997: 96)

例文 (53) では、方向補助動詞“起来”は状態の変化を表し、例文 (54) では、方向補助動詞“起来”は動作の始まりを表す。

中国語において、方向補助動詞型複雑述語“V－下来”“V－下去”を用いて動作の継続を表す。

(55) 日语 至今 学下来 已经 能说 了。

(日本語 今まで 学ぶ－下がる#くるすでに 話せる PST)

「今まで日本語を勉強してきて、もう話せるようになった」

(陳湘奉 2017: 67)

(56) 这本书 他会 一直 写下去。
 (この本 彼 できる ずっと 書くー下がる#いく)
 「この本について、彼は書き続けていく」

例文 (55) では、方向補助動詞“下来”は“至今”「今まで」という時点まで“学”「学ぶ」という動作の継続を表す。例文 (56) では、方向補助動詞“下去”は発話時点から“写”「書く」という動作の継続を表す。

日本語と中国語における方向補助動詞の用法について、以下の[表 11]のようにまとめる。

[表 11] 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の基本用法と派生用法

	基本用法	派生用法				
	空間的移動 の方向	有から無 への消失	無から有 への出現	状態変化	動作の始 まり	動作の継続
日 本 語	V てーくる	×	○	ここまでの 変化	○	ある時点まで の継続
	V てーいく	○	×	これからの 変化	×	ある時点から の継続
中 国 語	“Vー起来”	×	×	これからの 変化	○	×
	“Vー出”	×	○	×	×	×
	“Vー出来”	×	○	×	×	×
	“Vー去”	○	×	×	×	×
	“Vー下来”	×	×	×	×	ある時点まで の継続
	“Vー下去”	×	×	×	×	ある時点から の継続
	その他	×	×	×	×	×

(その他は“Vー来”“Vー进”“Vー进来”“Vー进去”“Vー回”“Vー回来”“Vー回去”
 “Vー出去”“Vー起”“Vー上”“Vー下”“Vー上来”“Vー上去”を指す)

[表 11]が示すように、日本語には、2 種類の方向補助動詞型複雑述語がある。方向補助動詞型複雑述語には基本用法と派生用法がある。方向補助動詞型複雑述語の「V てーいく」のみは物事が有から無への消失という派生用法を表し、方向補助動詞型複雑述語の「V てーくる」のみは物事が無から有への出現と動作の始まりという派生用法を表す。

一方、中国語には、19 種類の方向補助動詞型複雑述語がある。19 種類の方向補助動詞型複雑述語には基本用法がある。ただし中国語の方向補助動詞型複雑述語の派生用法は限られている。方向補助動詞型複雑述語の“V－起来”のみが状態の変化・動作の始まりという派生用法を表す。方向補助動詞型複雑述語の“V－出”“V－出来”のみが物事が無から有への出現という派生用法を表す。方向補助動詞型複雑述語の“V－去”のみが物事が有から無への消失という派生用法を表す。方向補助動詞型複雑述語の“V－下来”のみがある時点まで動作の継続を表し、方向補助動詞型複雑述語の“V－下去”のみがある時点から動作の継続を表す。

日本語には、2 種類の方向補助動詞型複雑述語しかない。しかし、この 2 種類の方向補助動詞型複雑述語は派生用法を豊富に持つ。一方中国語には、19 種類の方向補助動詞型複雑述語があるにもかかわらず、“V－起来”“V－出”“V－出来”“V－去”“V－下来”“V－下去”のみに派生用法がある。

8.3.3 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の文法的特徴

本節では、日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語構文に注目し、方向補助動詞型複雑述語の文法的特徴を考察する。

第 4 章では、日本語と中国語の補助動詞型複雑述語とは異なり、日本語の補助動詞型複雑述語における先行動詞と後続動詞の間に名詞句を挿入できないが、中国語の補助動詞型複雑述語における先行動詞と後続動詞の間に名詞句を挿入できると説明した。

丸尾 (2010) では、中国語の方向補助動詞型複雑述語において、“来／去”を持たない単純方向補助動詞型複雑述語構文には、「目的語は方向補助動詞の後ろに置かれ」、「来／去」を持つ方向補助動詞型複雑述語構文には、「目的語が場所を表す名詞であれば“来／去”の前に置かれ、目的語が一般の事物で、その動作・行為がすでに完了している場合には、“来／去”の前のみならず、後ろに置くことも可能である」と述べた。

中国語の方向補助動詞型複雑述語において、名詞句は先行動詞と方向補助動詞の間に挿入するだけでなく、複合方向補助動詞型複雑述語には、名詞句は方向補助動詞 1 と方向補助動詞 2 の間にも挿入できる。本節では、構文中の目的語の位置に注目し、日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の相違点を分析する。

(57) 本屋へ行って絵本を買ってきた。

(陳燕生 1996: 85)

(58) 図書館へ本を借りてきた。

日本語の方向補助動詞型複雑述語構文において、目的語は方向補助動詞型複雑述語の全体の前に置かれる。一方中国語方向補助動詞型複雑述語構文において、目的語の位置は方向補助動詞の違いによって位置は異なる。

- (59) 他 把 钱 塞进 衣服里 了。
(彼 前置詞 お金 詰める－入る 衣服の中 PERF)
「彼はお金を服の中に詰め込んだ」

- (60) 他 把 东西 寄回 家 了。
(彼 前置詞 もの 郵送する－帰る 家 PERF)
「彼は荷物を家に郵送して帰った」

- (61) 他 只 还回 了 一本书。
(彼 ただ 返す－帰る PERF 一冊の本)
「彼は本を一冊のみを返して来た」

- (62) 他 一个人 背回 了 所有的行李。
(彼 一人 背負う－帰る PERF すべての の 荷物)
「彼は一人で荷物をすべて背負って帰ってきた」

方向補助動詞“来”「来る」「去」「行く」を持たない方向補助動詞型複雑述語において、例文 (59)(60) から見ると、場所を表す要素がある場合、前置詞“把”を用いて目的語が方向補助動詞型複雑述語全体の前に置かれる。例文 (61)(62) が示すように、構文中に場所を表す要素がない場合、目的語は方向補助動詞 2 の後ろに置かれる。

方向補助動詞“来”「来る」「去」「行く」を持つ単純方向補助動詞型複雑述語において、目的語は方向補助動詞 1 の前にも、方向補助動詞 2 の後ろにも置かれる。

- (63) a. 我 给 他 汇去 一千块钱。
(私 前置詞 彼 振り込む－いく 1 千元)
「私は彼に 1 千元を振り込みに行った」

- b. 我 给 他 汇 一千块钱 去。
(私 前置詞 彼 振り込む 1 千元 いく)
「私は彼に 1 千元を送っていく」

(63') a. *明天, 我给他汇去.....一千块钱。

(意味: 明日、私は彼に 1 千元を振り込みに行く)

b. 明天, 我 给 他 汇一千块钱 去。

(明日 私 前置詞 彼 振り込む 1 千元 いく)

「明日、私は彼に 1 千元を送っていく」

(64) a. 他 发来一封电报。

(彼 送るーくる 一通の電報)

「彼は一通の電報を送ってきた」

b. 他 发一封电报 来。

(彼 送る 一通の電報 くる)

「彼は電報を一通送ってきた」

(64') a. *他说他明天发来.....一封电报。

(意味: 彼は明日一通の電報を送ってくると言った)

b. 他 说 他 明天 发一封电报 来。

(彼 言う 彼 明日 送る 一通の電報 くる)

「彼は明日電報を一通送ると言った」

例文 (63)(64) から見ると、目的語は方向補助動詞 2 の後ろにも、方向補助動詞 1 の前にも置かれる。例文 (63a)(64a) のように、目的語“一千块钱”“一千元”“一封电报”“一通の電報”は方向補助動詞 2 の後ろに置かれる場合、“汇去”「(お金を) 送っていく」「发来」「(電報を) 送ってくる」という出来事が実現したことを表す。例文 (63b)(64b) のように、目的語“一千块钱”“一千元”“一封电报”“一通の電報”は方向補助動詞 1 の前に置かれる場合、“汇一千块钱”“一千元を振り込む”“发一封电报”“一通の電報を送る」という出来事が実現しないことを表す (63'b)(64'b)。

複合方向補助動詞型複雑述語において、目的語は方向補助動詞 2 の後ろにも、方向補助動詞 1 の前にも、方向補助動詞 2 の前にも置かれる。

(65) a. 小狗 从 外面 叼回来 了 一只鸟。

(犬 から 外 くわえるー帰る#くる PERF 1羽の鳥)

「犬は外から鳥をくわえて帰ってきた」

b. 小狗 从 外面 叼 了 一只鸟 回来。

(犬 から 外 くわえる PERF 1羽の鳥 帰るーくる)

「犬は外から鳥を1羽くわえて帰ってきた」

c. 小狗 从 外面 叼回 了 一只鸟 来。

(犬 から 外 くわえるー帰る PERF 1羽の鳥 くる)

「犬は外から鳥をくわえて帰ってきた」

(65') a. *小狗从外面叼回来了一只鸟，但途中掉了。

(意味：犬は外から鳥をくわえて帰ってくるが、途中に落ちた)

b. 小狗 从 外面 叼 了 一只鸟 回来，但 途中

(犬 から 外 くわえる PERF 1羽の鳥 帰るーくる dan 途中

掉 了。

落ちる PERF)

「犬は外から鳥を1羽くわえて帰ってくるが、途中に落ちた」

(66) a. 他 买回去 了 一本书。

(彼 買うー帰る#いく PERF 1冊の本)

「彼は本を買って帰ってきた」

b. 他 买 了 一本书 回去。

(彼 買う PERF 1冊の本 帰るーいく)

「彼は本を1冊買って帰ってきた」

c. 他 买回 了 一本书 去。

(彼 買うー帰る PERF 1冊の本 いく)

「彼は本を買って帰ってきた」

例文 (65a) では、目的語“一只鸟”「1羽の鳥」は複合方向補助動詞型複雑“叼回来”
「くわえて帰ってくる」の後ろに置かれ、“叼回来一只鸟”「1羽の鳥をくわえて帰って

くる」という出来事が実現したことを表す。例文 (65b) では、目的語“一只鸟”「1羽の鳥」は複合方向補助動詞“回来”「帰ってくる」の前に置かれ、“叫”「くわえる」という動作のみが実現したことを表す。

例文 (66a) では、目的語“一本书”「1冊の本」は複合方向補助動詞型複雑“买回去”「買って帰ってくる」の後ろに置かれ、“买回去”「買って帰ってくる」という動作に注目する。例文 (66b) では、目的語“一本书”「1冊の本」は複合方向補助動詞“回去”「帰ってくる」の前に置かれる。この場合に、目的語“一本书”「1冊の本」に注目し、他のものではなく本であるという意味を表す。例文 (65c)(66c) では、目的語の“一只鸟”「1羽の鳥」“一本书”「1冊の本」は方向補助動詞2“来”「くる」「去”「いく」の前に置かれる。この場合に、目的語の“一只鸟”「1羽の鳥」「一本书”「1冊の本」に注目することだけでなく、話し手の意外・予想外の気持ちも含意される。

中国語の方向補助動詞“来 / 去”を持つ方向補助動詞型複雑述語構文において、目的語が既知情報である場合、前置詞“把”を用いて方向補助動詞型複雑述語全体の前に置かれることもできる。

(67) 他 把 那封电报 发来 了。

(彼 前置詞 その電報 送るーくる PERF)

「彼はその電報を送ってきた」

(68) 他 把 那本书 买^回去 了。

(彼 前置詞 その本 買うー帰る#いく PERF)

「彼はその本を買って帰ってきた」

“V一起来”という方向補助動詞型複雑述語構文において、目的語は方向補助動詞2の前にしか置かれない。

(69) 他 高兴地 唱起 歌 来。

(彼 楽しい 歌うー一起きる 歌 くる)

「彼は楽しくて歌を歌い始めた」

(69') *他高兴地唱歌起来。

*他高兴地唱起来歌。

(70) 工人们 用 一块块转 砌起 房子 来。

(労働者 使う 1つ1つレンガ 築く一起きる 家 くる)

「労働者は1つ1つレンガを用いて家を築き始めた」

(70') *工人们用一块块转砌房子起来。

*工人们用一块块转砌起来房子。

中国語の単純方向補助動詞型複雑述語において、“V—进 / 回”という方向補助動詞型複雑述語構文には、場所名詞がない場合、目的語は方向補助動詞の後ろに置かれるが、場所名詞がある場合、目的語は前置詞“把”を用いて複雑述語全体の前に置かれる。一方“V—来 / 去”という方向補助動詞型複雑述語構文には、目的語は方向補助動詞の後ろに置かれる場合、出来事が実現したことを表すが、目的語は方向補助動詞の前に置かれる場合、出来事が実現しないことを表す。

また、中国語の複合方向補助動詞型複雑述語において、目的語は方向補助動詞2の後ろに置かれる場合、動作に注目し、出来事が実現したことを表す。一方目的語は方向補助動詞1の前に置かれる場合、動作対象に注目し、先行動詞の動作のみが実現したことを表す。目的語は方向補助動詞2の前に置かれる場合、発話者の意外・予想外の気持ちを表す。

8.3.4 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の対照

日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の特徴を対照し、[表 12]のようにまとめる。

[表 12] 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の対照

	日本語	中国語	
形態	動詞＋方向補助動詞	単純型：動詞＋方向補助動詞	
		複合型：動詞＋方向補助動詞 1＋方向補助動詞 2	
用法	空間的移動の方向；有から無への消失；無から有への出現；状態変化；動作の始まり；動作の継続	空間的移動の方向；有から無への消失；無から有への出現；状態変化；動作の始まり；動作の継続	
目的語の位置	目的語が方向補助動詞型複雑述語全体の前に置かれる（常に OVA という語順である）	“V－进／回”	場所名詞なし：VAO
			場所名詞あり：“把” OVAL
		“V－来／去”	VAO：出来事が実現済み
			VOA：出来事が実現しない
		複合型	VA1A2O：出来事が実現済み
			VOA1A2：目的語（動作対象）に注目し、先行動詞の動作のみが実現済み
			VA1OA2：意外・予想外の気持ち
			“把” OVA1A2：目的語が既知情報である

(V:verb; O:object; L:location; A:auxiliary verb;単純型：単純方向補助動詞型複雑述語；複合型：複合方向補助動詞型複雑述語)

[表 12]が示すように、日本語と中国語における方向補助動詞型複雑述語を対照し、両言語の方向補助動詞型複雑述語は以下の相違点がある。

(A) 形態的には、日本語の方向補助動詞型複雑述語は「動詞＋方向補助動詞」という 1 種類しかない。中国語の方向補助動詞型複雑述語は「動詞＋方向補助動詞」という単純方向補助動詞型複雑述語と「動詞＋方向補助動詞 1＋方向補助動詞 2」という複合方向補助動詞型複雑述語の 2 種類がある。

(B) 目的語が構文中の位置から見ると、日本語において目的語が方向補助動詞型複雑述語全体の前のみに置かれる。中国語において目的語が方向補助動詞 2 の後ろにも、方向補助動詞 1 の前にも、方向補助動詞 2 の前にも置かれる。

8.4 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の特徴

本節では、日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の形態的・意味的・文法的な特徴を考察する。8.4.1 節では、日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の形態を説明する。8.4.2 節では、日本語の授受補助動詞型複雑述語の授受方向に対照し、中国語の授受補助

動詞型複雑述語を分析する。8.4.3 節では、日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語構文に注目し、授受補助動詞型複雑述語の文法的特徴を考察する。

8.4.1 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の形態的特徴

本節では、日本語と中国語における授受補助動詞型複雑述語の形態を説明する。

日本語において、授受補助動詞型複雑述は「V て－くれる」「V て－もらう」「V て－あげる」「V て－やる」「V て－くださる」「V て－いただく」「V て－さしあげる」という7つがある。

(71) a. 太郎は（私に）本を読んでくれる。

b. 次郎は太郎に本を読んでもらう。

c. 太郎は次郎に本を読んであげる。

d. 太郎は孫に本を読んでやる。

e. 先生は本を読んでくださる。

f. 太郎は先生に本を読んでいただく。

g. 太郎は先生に本を読んでさしあげる。

日本語授受補助動詞型複雑述語「V て－くれる」「V て－もらう」「V て－あげる」に対応し、中国語の授受補助動詞型複雑述語は“V－给”しかない。

(72) 他 把 那个 秘密 卖给 了 我。

（彼 前置詞 その 秘密 売る－あげる PERF 私）

「彼はその秘密を売ってくれた／私は彼にその秘密を売ってもらった」

(73) 他 写给 我 一封信。

（彼 書く－あげる 私 一通の手紙）

「彼は手紙を書いてくれた」

8.4.2 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の授受方向

本節では、日本語の授受補助動詞型複雑述語には授受方向と格の関係に対照し、中国語の授受補助動詞型複雑述語における授受方向と格の関係を分析する。「V て－くださる」「V て－いただく」「V て－さしあげる」は「V て－くれる」「V て－もらう」「V て－あげる」の丁寧な形であり、「V て－やる」と「V て－あげる」の授受動作の方向性が同じなので、本節と 8.4.3 節では、日本語における授受補助動詞型複雑述語の「V て－くれる」「V て－もらう」「V て－あげる」を中心に研究を行う。

本論文では、授受する物や出来事を授受対象と呼ぶ。また、授受対象を与える側が与え手であり、授受対象を受ける側が受け手である。意味的には、授受対象の授受方向はすべて与え手から受け手への移動方向を表す。

日本語記述文法研究会 (2009: 127-128) によれば、授受補助動詞型複雑述語の「V てーくれる」「V てーあげる」には与え手を「が」、受け手を「に」で示す。授受補助動詞型複雑述語の「V てーもらう」には与え手を「に」または「から」、受け手を「が」で表す。

(74) 彼は（私に）英語を教えてくれる。

(75) 母は（私に）料理を作ってくれる。

(76) 私は太郎に英語を教えてあげる。

(77) 太郎は花子にお茶を入れてあげる。

(78) 妹は父に本を買ってもらった。

(79) 私は太郎に英語を教えてもらう。

例文 (74)~(77) には、主語は与え手であり、間接目的語³⁹は受け手である。授受対象の授受方向は主語から間接目的語への方角を表す。例文 (78)(79) には、主語は受け手であり、間接目的語は与え手であるので、授受対象の授受方向は間接目的語から主語への方角を表す。つまり、日本語において、「V てーくれる」「V てーあげる」という授受補助動詞型複雑述語構文には授受対象は主語から間接目的語へ移し、「V てーもらう」という授受補助動詞型複雑述語構文には授受対象は間接目的語から主語へ移る。

日本語と異なり、中国語の授受補助動詞“给”は授受対象の授受方向を制限し、主語から間接目的語への移動方向のみを表す。

中国語の“借”は日本語の「借りる」と「貸す」という2つの意味があり、授受動詞の授受方向も2種類がある。本論文では、中国語“借”のような2つの相対的な授受方向を表す動詞を双方向動詞と呼ぶ。

(80) 我 借 了 小明 一支笔。

(私 借りる・貸す PERF PSN ペン)

「私は明さんからペンを借りた／私は明さんにペンを貸した」

³⁹ 影山 (2001: 128) では、間接目的語（与格）は「「～に」のように授与の相手を表す格のことを言う」と述べている。亀井他 (1996: 1339) では、「授与の行動は、与えられる物とその物と与えられる相手の2つを表わす2つの目的語が必要とされる。この場合、与えられる物を表わす語を直接目的語といい、与えられる相手を表わす語を間接目的語という」と指摘している。

(81) 小明 租 了 小张 一间房。

(PSN 賃貸する PERF PSN 部屋)

「明さんは張さんに一部屋を賃貸した／明さんは張さんから一部屋を賃貸した」

(82) 小明 貸 了 小王 一笔钱。

(PSN 貸借する PERF PSN お金)

「明さんは王さんにお金を貸し出した／明さんは王さんからお金を貸し入れた」

例文 (80) では、「私は明さんからペンを借りた」と「私は明さんにペンを貸した」という 2 つの意味がある。例文 (80)~(82) が示すように、“借”「借りる／貸す」のような双方向動詞のみを使う場合、構文の意味が多義である。しかし、このような動詞が授受補助動詞とつながって授受補助動詞型複雑述語になるとき、授受対象の授受方向を制限し、文は 1 つの意味しかない。

(80') 我 借给 小明 一支笔。

(私 借りる－あげる PSN ペン)

「私は明さんにペンを貸した」

(81') 小明 租给 小张 一间房。

(PSN 賃貸する－あげる PSN 部屋)

「明さんは張さんに部屋を賃貸した」

(82') 小明 贷给 小王 一笔钱。

(PSN 貸借する－あげる PSN お金)

「明さんは王さんにお金を貸し出した」

例文 (80') では、授受対象“一支笔”「ペン」は主語“我”「私」から“小明”「明さん」への授受方向を表す。例文 (81')(82') も同様に、授受対象は主語から間接目的語への授受方向しかない。

8.4.3 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の文法的特徴

本節では、授受補助動詞型複雑述語構文の主語になれる要素と授受対象・与え手・受け手の省略に注目し、授受補助動詞型複雑述語の文法的特徴を考察する。

日本語記述文法研究会 (2009: 127-128) によれば、授受補助動詞型複雑述語の「V て－くれる」「V て－あげる」には与え手が主語になるが (例文の (83)~(86))、授受補助動

詞型複雑述語の「V てーもらう」には受け手が主語になる（例文の (87)(88)）ことが分かった。

(83) 困っていると、友達が助けてくれた。

（鹿浦・小村 2016: 35）

(84) 友達が私にアイスを買ってくれた。

(85) 田中が鈴木のために引っ越しを手伝ってあげた。

（日本語記述文法研究会 2009: 127）

(86) 私が友達にアイスを買ってあげた。

(87) 私は友人に窓を開けてもらった。

(88) 太郎は友達に宿題を手伝ってもらった。

日本語の授受補助動詞型複雑述語構文において、授受対象が主語になる場合がある。

(89) 着替えは用意してあげる。

(90) 雨が降ってきたよ。傘、貸してあげようか。

（日本語記述文法研究会 2009: 126）

上述の例文から見ると、日本語の授受補助動詞型複雑述語構文では、与え手、受け手と授受対象が主語になれる。

また、日本語の授受補助動詞型複雑述語構文において、1 人称または既知情報としての与え手、受け手や授受対象が省略できる。

(91) 先生に論文を直してもらった。

(92) お医者さんは大きな病院への紹介状を書いてくれた。

(93) 先生にほめてもらった。

（日本語記述文法研究会 2009: 129）

(94) Q: 誰が君の自転車を修理したか?

A: 田中さんは（自転車）修理してくれた。

(95) 獣医さんが年なので、手術するより、車椅子を用意してあげると言われた。

例文 (91)~(93) では、受け手としての 1 人称を省略される。また、例文 (94)(95) から

見ると、上下の文脈にあれば、また聞き手が既知情報を持つ場合、日本語の授受補助動詞型複雑述語構文における与え手、受け手や授受対象を省略できる。

8.4.2 節に述べたように、中国語の授受補助動詞型複雑述語の授受方向が一つしかないので、授受補助動詞型複雑構文には与え手と授受対象が主語になれるが、受け手は主語にならない。

(96) 老师 教给 我们 知识。

(教師 教えるーあげる 私たち 知識)

「先生は私たちに知識を教えてくれる」

(97) 他 把 他 的 喜悦 传递^给 了 我。

(彼 前置詞 彼 の 喜び 渡るーあげる PERF 私)

「彼は喜びを渡ってくれた」

(98) 这个 消息 最后 卖给 了 小王。

(この メッセージ 最後に 売るーあげる PERF PSN)

「このメッセージは最後に王さんに売ってあげた」

(99) 那个 秘密 已经 告诉^给 他 了。

(その 秘密 すでに 伝えるーあげる 彼 PERF)

「その秘密はすでに彼に伝えてあげた」

例文 (96)(97) では、与え手“老师”「先生」「他」「彼」は主語である。例文 (98)(99) では、既知の授受対象“这个消息”「このメッセージ」「那个秘密」「その秘密」は主語になれる。中国語の授受補助動詞型複雑述語構文には、授受対象が未知情報である場合、主語にならない。

(98') *一个 消息 最后 卖给 了 小王。

(一つ メッセージ 最後に 売るーあげる PERF PSN)

(意味：メッセージは最後に王さんに売ってあげた)

(99') *一个 秘密 已经 告诉给 他 了。

(一つ 秘密 すでに 伝えるーあげる 彼 PERF)

(意味：秘密はすでに彼に伝えてあげた)

また、中国語の授受補助動詞型複雑述語構文において、与え手は省略できない。

- (100) 我 的 钱 都 汇给 我妈妈 了。
(私 の お金 すべて 振り込むーあげる お母さん PERF)
「私のお金はすべてお母さんに送ってあげた」

- (101) 自行车 是 买给 妹妹 的。
(自転車 は 買うーあげる 妹 の)
「(その) 自転車は妹に買ってあげたのだ」

- (102) Q: 你 的 房子 租^出去 了?
(君 の アパート 賃貸するー出る#いく PERF)
「君のアパートが貸し出したか?」

A: 嗯, 租给 了 一个 大学生。
(はい 賃貸するーあげる PERF 一人 大学生)
「はい、大学生に貸してあげた」

- (103) Q: 你 的 钱 呢?
(君 の お金 語気助詞)
「君のお金は?」

A: 借给 同学 了。
(貸すーあげる クラスメイト PERF)
「クラスメイトに貸してあげた」

例文 (100)(101) から見ると、1 人称の与え手が省略される。例文 (102)(103) が示すように、与え手と授受対象が上下の文脈に含意される場合、与え手とも授受対象とも省略できる。しかし、中国語において、受け手が上下の文脈に含意しても、省略できない。

- (104) 妈妈没有钱了, 我 把 钱 都 汇给 她 了。
(お母さんはお金がない 私 前置詞 お金 すべて 振り込むーあげる 彼女 PERF)
「お母さんはお金がないので、私はお金をすべて彼女に送ってあげた」

- (104') *妈妈没有钱了, 我把钱都汇给了。

例文 (104) では、お金の受け手はお母さんであることが前節に含意したが、例文 (104') のように受け手を省略できず、人称名詞“她”「彼女」を用いて指し示す。

日本語の授受補助動詞型複雑述語構文において、与え手とも受け手とも授受対象とも主語になれる。また、1 人称または上下の文脈に含意される与え手・受け手・授受対象を省略できる。一方、中国語の授受補助動詞型複雑述語構文において、与え手と既知情報である授受対象のみが主語になれる。さらに、授受補助動詞型複雑述語の受け手は省略できない。

8.4.4 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の対照

日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の特徴を対照し、[表 13]のようにまとめる。

[表 13] 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の対照

	日本語	中国語
形態的	7 種類の授受補助動詞	“V-给”のみ
授受方向と 格関係	「V て-くれる」：主語から間接目的語へ	主語から間接目的語へ
	「V て-あげる」：主語から間接目的語へ	
	「V て-もらう」：間接目的語から主語へ	
主語になれる 要素	「V て-くれる」：与え手	与え手または 既知の授受対象
	「V て-あげる」：与え手または授受対象	
	「V て-もらう」：受け手	
省略できる 要素	1 人称または文脈により含意される与え手、受け手や授受対象	1 人称または文脈により含意される与え手や授受対象

[表 13]が示すように、日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語を対照することで、以下の相違点が明らかになった。

(A) 形態的には、日本語の授受補助動詞型複雑述語は「動詞＋授受方助動詞」という構造であるが、中国語の授受補助動詞型複雑述語は「動詞＋授受補助動詞“给”」という構造である。

(B) 日本語の授受補助動詞型複雑述語構文「V て-くれる／あげる」では、授受対象が主語から間接目的語へ移るが、授受補助動詞型複雑述語構文「V て-もらう」では、授受対象が間接目的語から主語へ移る。一方、中国語の授受補助動詞型複雑述語構文において、授受対象は主語から間接目的語への授受方向しかない。

(C) 日本語において、授受補助動詞型複雑述語構文「V て-くれる」の主語は与え手

であり、授受補助動詞型複雑述語構文「V てーあげる」の主語は与え手または授受対象であり、授受補助動詞型複雑述語構文「V てーもらう」の主語は受け手である。中国語において、与え手または既知情報である授受対象が授受補助動詞型複雑述語構文の主語になれる。

(D) 日本語の授受補助動詞型複雑述語構文では、1 人称または文脈により含意される与え手、受け手や授受対象を省略できるが、中国語の授受補助動詞型複雑述語構文には 1 人称または文脈により含意される与え手と授受対象のみを省略でき、受け手を省略できない。

8.5 本章のまとめ

本章では、方向補助動詞型複雑述語と授受補助動詞型複雑述語の形態的・意味的・文法的な特徴を分析し、日本語と中国語における方向補助動詞型複雑述語と授受補助動詞型複雑述語の相違点をまとめた。

日本語では、2 種類の方向補助動詞型複雑述語しかなかった。しかし、この 2 種類の方向補助動詞型複雑述語は多くの派生用法を持っていた。一方中国語では、19 種類の方向補助動詞型複雑述語があるにもかかわらず、“Vー起来” “Vー出” “Vー出来” “Vー去” “Vー下来” “Vー下去” のみに派生用法がある。

日本語の補助動詞型複雑述語の内部に目的語を挿入できない。一方、中国語において、目的語は補助動詞型複雑述語の内部に挿入できるし、目的語の位置により構文の意味も異なる。

中国語の単純方向補助動詞型複雑述語のうち、“Vー进 / 回” という方向補助動詞型複雑述語構文では、場所名詞がない場合、目的語は方向補助動詞の後ろに置かれるが、場所名詞がある場合、目的語は前置詞“把”を用いて複雑述語全体の前に置かれる。一方“Vー来 / 去” という方向補助動詞型複雑述語構文では、目的語が方向補助動詞の後ろに置かれる場合、出来事が実現したことを表すが、目的語が方向補助動詞の前に置かれる場合、出来事が実現しないことを表す。中国語の複合方向補助動詞型複雑述語において、目的語が方向補助動詞 2 の後ろに置かれる場合、動作に注目し、出来事が実現したことを表す。一方目的語が方向補助動詞 1 の前に置かれる場合、動作対象に注目し、先行動詞の動作のみが実現したことを表す。目的語が方向補助動詞 2 の前に置かれる場合、発話者の意外・予想外の気持ちを表す。

また、敬語形式を含めて日本語には 7 種類の授受補助動詞型複雑述語があることに對し、中国語では“Vー给”しかない。日本語の授受補助動詞型複雑述語では上下関係・親疎関係が含意されるが、中国語の授受補助動詞型複雑述語では上下関係・親疎関係が含意されない。さらに、日本語の授受補助動詞型複雑述語構文において、与え手・受け手・授受対

象がすべて主語になれることに対し、中国語の授受補助動詞型複雑述語構文において、与え手・既知の授受対象のみが主語になれる。

第9章 結論

本論文は日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の音韻的・形態的・文法的特徴に着目し、日本語と中国語の対照を通じて日中両言語における「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の類似点と相違点を全面的に解明することを目的とした。さらに日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の対応関係を全面的に把握できることを目指した。

本論文では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語を以下のように定義した。本論文での「動詞＋動詞」型複合動詞は、2つの動詞が組み合わさって一語として振る舞い、1つの動詞としての用法・文法機能を持つものを指す。「動詞＋動詞」型複雑述語は、2つの動詞がつながって1つの述語として振る舞うが、一語にならない構造を指す。

第1章は本論文の研究内容と論文全体の表記法を概観する部分である。第1章では、研究内容・研究目的・研究背景と研究意義を説明した。さらに、例文の示し方と使用される略語などを説明した。

第2章から第3章までは「動詞＋動詞」型複合動詞を対象にして、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の特徴を考察する部分である。

第2章では、本論文での「動詞＋動詞」型複合動詞を定義した。その上で、「動詞＋動詞」型複合動詞の音韻的・形態的・文法的特徴に注目し、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞の相違点を明らかにした。日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞は、一語であり、前項動詞と後項動詞の間に文法的要素が入れないので、動詞の結びつきが強い。中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞も一語であるが、前項動詞と後項動詞の間に文法的要素が挿入できるので、動詞の結びつきが弱いという結論が得た。

第3章では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞を語彙的複合動詞と統語的複合動詞に分けた。その上で、日本語と中国語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違いを明らかにした。日本語において、語彙的複合動詞の前項動詞のみを主語尊敬形にできず、副詞は複合動詞全体を修飾する。一方、統語的複合動詞の前項動詞のみを主語尊敬形にする可能性があり、副詞が前項動詞または後項動詞のみを修飾する可能性がある。また、日本語の語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係には並列関係、手段、様態、因果関係、補文関係の5種類があるが、統語的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係は補文関係に限られている。

中国語において、語彙的複合動詞の全体を否定できるが、後項動詞のみを否定できない。さらに副詞も語彙的複合動詞全体を修飾する。一方、統語的複合動詞の後項動詞のみを否

定する可能性があるだけでなく、副詞が統語的複合動詞の後項動詞のみを修飾する。また、中国語の語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係には並列関係、手段、様態の3種類があるが、統語的複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味関係には因果関係、補文関係の2種類がある。

第4章から第8章までは日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語を対象にして、「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の違い、および3つのタイプの「動詞＋動詞」型複雑述語の特徴を考察する部分である。

第4章では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語を「連続動作型複雑述語」「行為目的型複雑述語」と「補助動詞型複雑述語」に下位分類した。さらに、形態的・文法的な特徴から日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の中では、日本語の補助動詞型複雑述語と中国語の行為目的型複雑述語の動詞要素の結びつきが一番強いことが分かった。

[表 6] 日中語の「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素の独立性

		日本語			中国語		
		連続動作型	行為目的型	補助動詞型	連続動作型	行為目的型	補助動詞型
挿入要素	助詞	○	○	○	○	×	○
	名詞句	○	○	×	○	○	○
否定のスコープ		複雑述語全体/先行動詞	複雑述語全体/先行動詞	複雑述語全体/先行動詞	後続動詞	後続動詞	後続動詞
単一動詞要素の答え	前項	×	×	×	○	×	△
	後項	×	×	×	○	○	○

(○は文が成立を示し、△は成立の場合も不成立の場合もあることを示し、×は不成立を示す。○が多いのは動詞要素の独立性が高いである。)

日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の独立性を比べてみると、日本語では、単一の動詞要素を用いて疑問文に答えられないので、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語における動詞要素の独立性は日本語より高いということが分かった。

第5章では、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語の違いを分析した。日本語では、「動詞＋動詞」型複合動詞と「動詞＋動詞」型複雑述語は構文要素の挿入のみが異なった。「動詞＋動詞」型複合動詞の動詞要素の間に構文要素を挿入できず、「動詞＋動詞」型複雑述語の動詞要素の間に構文要素を挿入できた。

中国語の「動詞＋動詞」型複合動詞において、動詞要素の間に構文要素を挿入できない

し、単一の動詞要素を用いて疑問詞疑問文に答えられない。一方「動詞＋動詞」型複雑述語において、動詞要素の間に構文要素を挿入できるし、単一の動詞要素を用いて疑問詞疑問文に答えられることが分かった。

第6章から第8章までは、第4章に分類された3タイプの「動詞＋動詞」型複雑述語について詳しく説明する部分である。

第6章では、連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の意味関係・指向成分に着目し、日本語と中国語の連続動作型複雑述語の相違点を明らかにした。日本語と中国語における連続動作型複雑述語の意味的・文法的な相違点を[表8]のようにまとめた。

[表8] 日本語と中国語における連続動作型複雑述語の指向成分と意味関係

		時間的継起		因果関係		様態	手段	逆接	補文関係	
日本語	一致性	一致		不一致		部分一致	一致	一致	×	
	先行動詞	主・目	主語のみ	主語		主・目	主・目	主・目		主語のみ
	後続動詞			主題		主語のみ				
中国語	一致性	一致		部分一致	部分一致		×	一致	×	部分一致
	先行動詞	主・目	主語のみ	主・目	主語のみ	主・目		主・目		主語と後続動詞
	後続動詞			目的語のみ	主・目	目的語のみ				主語と目的語

(×：その意味関係は存在しないことを示す；主・目：主語と目的語)

日本語の連続動作型複雑述語には、先行動詞と後続動詞の間に、時間的継起、因果関係、様態、手段、逆接という5つの意味関係があった。日本語と異なり、中国語の連続動作型複雑述語には、先行動詞と後続動詞の間に、時間的継起、因果関係、手段、補文関係という4つの意味関係が存在していた。

連続動作型複雑述語における動詞要素の指向成分から見ると、日本語では、時間的継起、手段、逆接により構成される連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分は一致するが、因果関係により構成される連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分は一致しない。様態により構成される連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分は部分的に一致する。

中国語では、手段により構成される連続動作型複雑述語における動詞要素の指向成分は一致するし、因果関係と補文関係により構成される連続動作型複雑述語における動詞要素の指向成分は部分的に一致する。一方、時間的継起により構成される連続動作型複雑述語の先行動詞と後続動詞の指向成分は部分的に一致する場合がある。

第7章では、行為目的型複雑述語の構造的・文法的特徴に着目し、日本語と中国語における行為目的型複雑述語の違いを以下の[表9]のようにまとめた。

[表9] 日本語と中国語の行為目的型複雑述語の対照

	日本語	中国語
語順	動作の行う順番と逆	動作の行う順番
構成要素	方向性を持つ移動動詞： 目的要素＋に＋方向性移動動詞	方向性を持つ移動動詞： 方向性移動動詞＋目的要素
	方向性を持たない移動動詞： 目的要素＋に＋非方向性移動動詞	方向性を持たない移動動詞： 非方向性移動動詞＋“去／来”＋目的要素
目的要素	単純動詞の連用形 複合動詞の連用形 動詞の使役形式の連用形 動詞の受身形式の連用形 単純動作名詞 複合動作名詞	単純動詞 複合動詞
場所名詞	複雑述語全体の前： 移動の目的地を表す	複雑述語全体の後ろ： 移動の目的地と目的地のものを表す
	移動動詞の前： 移動の目的地を表す	移動動詞の後ろ： 移動の目的地を表す
参与者	複雑述語全体の前： 同一の目的を持ちながら移動する	複雑述語全体の前： 同一の目的を持ちながら移動する
	移動動詞の後ろ：×	移動動詞の後ろ： 動作主だけが目的を持って移動する
動作の実現	移動動作が実現済み、目的を表す動作の実現状況不明	完了の助詞“了”が文末： 移動動作が実現済み、目的を表す動作の実現状況不明
		完了の助詞“了”が複雑述語の直後： 移動動作とも目的を表す動作とも実現済み

日本語では、動作の行う順番と逆に、「目的要素とする単純動詞・複合動詞・動詞使役・受身などの動詞の連用形や動作名詞＋に＋移動動詞」という構造を用いて行為目的型複雑述語になった。また、場所名詞は構文中の位置と関係なく、移動の目的地を表し、参与者は同一の目的を持ちながら移動することを表した。過去を表す構文に移動動作が実現したことが分かり、目的を表す動作の実現が不明であった。

一方、中国語では、動作の行う順番に従い、方向性を持つ移動動詞は目的を表す動詞と直接共起でき、方向性を持たない移動動詞は“去／来”と組み合わせさせて目的を表す動詞と共起した。また、中国語の行為目的型複雑述語構文の意味は、場所名詞、参与者、完了の助詞“了”の位置によって変わった。場所名詞が移動動詞の後ろに置かれる場合、目的地のみを表し、複雑述語全体の後ろに置かれる場合、目的地だけでなくその場所に存在する物を表した。参与者が複雑述語全体の前に置かれる場合、動作主と参与者が同一の目的を持ち、移動することを表し、移動動詞の後ろに置かれる場合、動作主だけが目的を持つ

て移動した。完了の助詞“了”が文末の場合、移動動作が実現したが、目的を表す動作の実現が不明であった。完了の助詞“了”が複雑述語の直後の場合、移動動作とも目的を表す動作とも実現したことを含意する。

第8章では、方向補助動詞型複雑述語と授受補助動詞型複雑述語の形態的・意味的・文法的な特徴を分析し、日本語と中国語における方向補助動詞型複雑述語と授受補助動詞型複雑述語の相違点をまとめた。

日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の相違点を[表12]に示した。

[表12] 日本語と中国語の方向補助動詞型複雑述語の対照

	日本語	中国語	
形態	動詞＋方向補助動詞	単純型：動詞＋方向補助動詞	
		複合型：動詞＋方向補助動詞1＋方向補助動詞2	
用法	空間的移動の方向；有から無への消失；無から有への出現；状態変化；動作の始まり；動作の継続	空間的移動の方向；有から無への消失；無から有への出現；状態変化；動作の始まり；動作の継続	
目的語の位置	目的語が方向補助動詞型複雑述語全体の前に置かれる（常にOVAという語順である）	“V－进／回”	場所名詞なし：VAO
			場所名詞あり：“把”OVAL
		“V－来／去”	VAO：出来事が実現済み
			VOA：出来事が実現しない
		複合型	VA1A2O：出来事が実現済み
			VOA1A2：目的語（動作対象）に注目し、先行動詞の動作のみが実現済み
			VA1OA2：意外・予想外の気持ち
			“把”OVA1A2：目的語が既知情報である

(V:verb; O:object; L:location; A:auxiliary verb; 単純型：単純方向補助動詞型複雑述語；複合型：複合方向補助動詞型複雑述語)

日本語では、2種類の方向補助動詞型複雑述語しかなかった。しかし、この2種類の方向補助動詞型複雑述語は多くの派生用法を持っていた。一方中国語では、19種類の方向補助動詞型複雑述語があるにもかかわらず、“V－起来”“V－出”“V－出来”“V－去”“V－下来”“V－下去”のみに派生用法がある。

目的語を構文中の位置から見ると、日本語において、目的語は方向補助動詞型複雑述語全体の前のみに置かれた。中国語において、目的語は方向補助動詞2の後ろにも、方向補

助動詞 1 の前にも、方向補助動詞 2 の前にも置かれた。

日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の相違点を[表 13]に示した。

[表 13] 日本語と中国語の授受補助動詞型複雑述語の対照

	日本語	中国語
形態的	7 種類の授受補助動詞	“V-给”のみ
授受方向と 格関係	「V て-くれる」：主語から間接目的語へ	主語から間接目的語へ
	「V て-あげる」：主語から間接目的語へ	
	「V て-もらう」：間接目的語から主語へ	
主語になれる 要素	「V て-くれる」：与え手	与え手または 既知の授受対象
	「V て-あげる」：与え手または授受対象	
	「V て-もらう」：受け手	
省略できる 要素	1 人称または文脈により含意される与え手、受け手や授受対象	1 人称または文脈により含意される与え手や授受対象

日本語では、7 タイプの授受補助動詞型複雑述語があったが、中国語では、“V-给”という授受補助動詞型複雑述語しかなかった。また、中国語の授受補助動詞型複雑述語の授受方向が制限されていた。

さらに、日本語の授受補助動詞型複雑述語構文において、与え手・受け手・授受対象がすべて主語になれることに対し、中国語の授受補助動詞型複雑述語構文において、与え手・既知の授受対象のみが主語になった。

本研究の大きな結論として、中国語では構文における語順が意味解釈の違いに大きく関わることを指摘できた。例えば、1) 場所名詞が行為目的型複雑述語全体の後ろに置かれると、移動の目的地と目的地のものを表すが、移動動詞の後ろに置かれると、移動の目的地のみを表す。参加者が移動動詞の後ろに置かれると、動作主だけが目的を持って移動することを表す（7 章）。2) 完了の助詞“了”が文末に置かれる場合、移動動作の実現が含意されるが、目的を表す動作の実現状況は不明である。完了の助詞“了”が行為目的型複雑述語の直後に置かれる場合、移動動作も目的を表す動作も実現したことを含意する（7 章）。3) 目的語は方向補助動詞 2 の後ろに置かれる場合、動作に注目し、出来事が実現したことを表す。一方目的語は方向補助動詞 1 の前に置かれる場合、動作対象に注目し、先行動詞の動作のみが実現したことを表す。目的語は方向補助動詞 2 の前に置かれる場合、発話者の意外・予想外の気持ちを表す（8 章）。すなわち、中国語では意味と形式が関連する傾向が強い。

謝辞

本博士論文は、筆者が新潟大学大学院現代社会文化研究科に在学中に行った研究をまとめたものです。本論文を執筆するにあたり、多くの方々から多大なご協力とご指導を賜りました。

指導教員の江畑冬生先生にはここに至るまで長い時間ご指導を賜りました。様々な研究者との出会いを通じて、広い視野を持って研究に取り組むことの重要性を教えていただきました。そして、筆者が研究を疎かにした際も厳しく指摘してくださいました。江畑冬生先生のご指導がなければ、本論文はまだ完成できていないと思います。研究の面だけでなく、生活の面でも筆者に多くの関心を寄せてくださいました。江畑冬生先生に賜った恩情は一生忘れられません。三井正孝先生には博士前期課程からここに至るまで筆者の副指導教員として長い期間ご指導を賜りました。本論文を作成するにあたり、この研究の日本語学に関する部分に適切なご助言をいただき、完成へと導いてくださいました。干野真一先生には博士後期課程から筆者の副指導教員として指導していただきました。本論文を作成するにあたり、中国語に関する先行研究のご教示に加え、この研究の中国語学に関する部分の1つ1つの課題の解決に適切なご助言をいただき、完成へと導いてくださいました。本論文の草稿の発表段階でも、三井正孝先生と干野真一先生には有益なコメントとご助言を賜りました。こうした先生方のご指導がなければ、この論文は形になっていなかったと思います。心より厚く感謝申し上げます。

最後に、これまで筆者を強く支えてくださった家族に感謝します。

皆様、本当にありがとうございました。

参考文献

日本語の参考文献

- 相原 茂・石田 知子・戸沼 市子 (2016) 『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書 <新訂版>』 同学社.
- 青井 潔 (1970) 「日英語における動詞の様態—日本語の補助動詞を中心に—」 『中部工業大学紀要』 (6). 169-175.
- 秋永 一枝 (2010) 「アクセント習得法則」 『新明解日本語アクセント辞典』 巻末.1-106. 三省堂.
- 浅尾 仁彦 (2009) 「動詞連続の文法的性質を捉え直す—日韓対照を通じて—」 『関西言語学会 第34回大会予稿集』 1-11.
- 新井 文人 (2016) 「日本語の「V に行く」」の統語構造と意味構造に関する一考察」 『Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin: トークス』 19 巻.1-16.
- 庵 功雄・中西 久実子・山田 敏弘・高梨 信乃 (2000) 『日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク.
- 于 一樂 (2015) 「中国語結果複合動詞の分類と結合度」 『滋賀大学教育学部紀要』 (65). 35-48.
- 内山 潤 (2012) 「補助動詞「デシマウ」のアスペクトについて」 『金城学院大学論集. 人文科学編』 8(2). 1-11.
- 大野 公裕 (2018) 「第4の統語的複合動詞「終わる」: 統語的複合動詞の分類再考」 『メディア・コミュニケーション研究』 71 号. 95-110.
- 大野 晋 (1977) 「日本語の助動詞と助詞」 大野 晋・柴田 武 (編) 『岩波講座 日本語7 文法II』 1-28. 岩波書店.
- 何 志明 (2001) 「日本語の語彙的複合動詞における『原因』の複合動詞の組み合わせ」 『筑波応用言語学研究』 8 号. 1-14.
- 何 志明 (2002a) 「『様態・付帯状況』の複合動詞の組み合わせ」 『日本語と日本文学』 35 号. 31-48.
- 何 志明 (2002b) 「日本語の語彙的複合動詞における『並列関係』の複合動詞の組み合わせ」 『言語学論叢』 21 号. 39-59.
- 郭 春貴 (2001) 『誤用から学ぶ中国語—基礎から応用まで—』 白帝社.
- 影山 太郎 (1982) 「日英語の語形成」 斎藤倫明・石井正彦 (編) 『語構成』 46-56. ひつじ書房.
- 影山 太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房.
- 影山 太郎 (2001) 『日英対照 動詞の意味と構文』 大修館書店.
- 影山 太郎 (2013) 「語彙的複合動詞の新体系—その理論的・応用的意味合い—」 影山 太郎 (編) 『複合動詞研究の最先端 謎の解明に向けて』 3-46. ひつじ書房.
- 亀井 孝・河野 六郎・千野 栄一 (1996) 『言語学大辞典 第6巻 術語編』 三省堂.
- 岳 莎莎・吉田 光演 (2010) 「日本語の複合動詞とテ形動詞の比較--中国人日本語学習者の誤用を通して」 『人間科学研究』 5 号. 57-68.
- 岸本 秀樹・由本 陽子 (2014) 『複雑述語研究の現在』 ひつじ書房.
- 木戸 康人 (2018) 「統語的複合動詞 V+ 疲れる について」 『神戸言語学論叢』 (11). 14-30.
- 木村 恵介 (2003) 「現代中国語の結果複合動詞: 今井(1985)と呂(1986)の検討」 『千葉大学ユーラシア言語文化論集』 6 号. 55-66.
- 木村 恵介 (2006) 「動補型複合動詞の構造」 『千葉大学ユーラシア言語文化論集』 9 号. 77-92.
- 窪 蘭 晴夫 (2001) 「語順と音韻構造—事実と仮説」 音声文法研究会 (編) 『文法と音声II』

- 107-140. くろしお出版.
- 興水 優・島田 亜美 (2009) 『中国語 わかる文法』大修館書店.
- 近藤 泰弘 (1984) 「補助動詞「てゆく」「てくる」の用法—＜視点の補助動詞＞研究序説—」『日本女子大学紀要. 文学部』34 号. 25-34.
- 崔 玉花 (2013) 「日本語と中国語における結果を表す複合動詞—後項動詞の意味解釈を中心に—」『言語学論叢 オンライン版』第 6 号(通巻 32 号). 22-33.
- 史 曼 (2015) 「補文関係複合動詞の自他交替について」『国際文化研究』(21). 1-13.
- 鹿浦 佳子・小村 親英 (2016) 「話者の視点に立った「やりもらい表現」教授法: 「感謝」を表す「くれる」と「依頼」を表す「もらう」」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』26 卷. 23-40.
- 沈力 (1997) 『現代中国語の動詞構造の研究—語形成と句形成の平行性を中心に』京都大学博士学位論文.
- 朱 茜 (2017a) 『日中語複合動詞の対照研究』新潟大学修士論文.
- 朱 茜 (2017b) 「日中語の「動詞+動詞」型複合動詞の対照研究—語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い—」『現代社会文化研究』第 65 号. 93-104.
- 朱 茜 (2019) 「日中語における複雑述語の対照—中国語「動詞+動詞」型複雑述語の文法的特徴—」『言語の普遍性と個別性』第 10 号. 35-49.
- 周 莉莉 (2011) 「授受関係における恩恵方向性転換の日中比較—日本語の授受補助動詞を中心に—」『福井工業大学研究紀要』41 号. 534-541.
- 周 莉莉 (2012) 「授受関係における上下方向性の日中比較—日本語の授受補助動詞を中心に—」『福井工業大学研究紀要』42 号. 697-704.
- 主濱 祐二 (2011) 「日本語の補助動詞「～テクル」の人称制限と話し手の視点」『岩手大学英语教育論集』(13). 63-72.
- 蕭 橘 (2010) 『中国語表現の仕組み』中国書店.
- 杉浦 隆 (2003) 「「オノマトペ+つく」の形式を持つ日本語の複合動詞について」『人間科学研究紀要』(2). 1-8.
- 杉村 泰 (2010) 「コーパスを利用した複合動詞「-尽きる」の意味分析」『言語文化論集』31(2). 49-60.
- 杉村 泰 (2011) 「コーパスを利用した複合動詞「V1-果たす」の意味分析」『言語文化論集』33(1). 61-74.
- 杉村 泰 (2012a) 「コーパスを利用した複合動詞「V1-果てる」の意味分析」『言語文化論集』33(2). 61-75.
- 杉村 泰 (2012b) 「中国語話者による複合動詞「V1-飽きる」の V1+V2 結合意識」『ことばの科学』(25). 91-106.
- 杉村 泰 (2013) 「コーパスを利用した複合動詞「V1-通る」の意味分析」『言語文化論集』34(2). 53-65.
- 杉村 泰 (2016) 「複合動詞の意味記述に関する一考察」『ことばの科学』(30). 127-145.
- 鈴木 一彦・林 巨樹 (1981) 『品詞別 日本文法講座 8 動詞』明治書院.
- 曾 若涵 (2016) 「動補型複合動詞「V 完」的構詞特徴及對日教學建議」『人文論叢』(33). 47-60.
- 莊司 育子 (1997) 「日本語の補文構造に関する一考察—「V に行く」構文について—」『日本語・日本文化』(23). 39-53.
- 田中 寛 (2017) 「終結、達成をあらわす複合動詞の一考察: 「-トオス」、「-ツクス」、「-ハタス」を中心に」『語学教育研究論叢』(34). 295-317.
- 田辺 和子 (1995) 「日本語の複合動詞の後項動詞にみる文法化」『日本女子大学紀要. 文学部』45 号. 1-16.

- 谷内 美智子 (2012) 「後項動詞の種類からみた日本語学習者の統語的複合動詞の意味推測の特徴：文脈量と日本語習熟度の影響を中心に」『言語文化と日本語教育』(44). 1-10.
- 陳 湘奉 (2017) 「『ていく・てくる』と"去・来"の日中対照研究」『さいたま言語研究』(1). 59-72.
- 陳 劫憐 (2009) 「結果複合動詞の語形成の意味条件と生産性」『言語科学論集』13 号. 83-94.
- 陳 劫憐 (2013) 「語彙的複合動詞と統語的複合動詞の連続性についてー「～出す」を対象としてー」影山 太郎(編)『複合動詞研究の最先端 謎の解明に向けて』47-73. ひつじ書房.
- 陳 燕生 (1996) 「日本語「～て」形補助動詞のアスペクト諸相及びその意味：中国語との比較で考察する」『経営研究』10(1). 77-97.
- 陳 月吾・王 育潔 (2013) 「日中複合動詞脱範疇化の比較研究：「V-V」の副詞化を中心に」『福井工業大学研究紀要』43 号. 489-500.
- 陳 月吾・周 莉莉 (2009) 「授受関係の方向性に関する日中両国語の比較--日本語の授受補助動詞を中心に」『福井工業大学研究紀要』39 号. 467-474.
- 土屋 申一 (1962) 『基礎中国語』大学書林.
- 筒井 佐代 (2019) 「感情表現としての補助動詞の考察：V- テクルを例に」『外国語教育のフロンティア』(2). 127-141.
- 寺村 秀夫 (1969) 「活用語尾・助動詞・補助動詞とアスペクトーその一」『日本語・日本文化』第1号. 32-48.
- 寺村 秀夫 (1990) 『日本語のシンタクスと意味 第Ⅱ巻』くろしお出版.
- 中谷 健太郎 (2015) 「テ形複雑述語の多義性をどう捉えるべきかー文法化アプローチと拡大的合成アプローチ」『甲南大学紀要.文学編』165 号. 99-112.
- 中村 その子 (1998) 「日本語複合動詞の意味形成と特性：言語認知の立場から」『経営・情報研究 多摩大学研究紀要』2 号. 65-155.
- 中山 健一 (2014) 「人に向かう動作を表わす補助動詞「くる」について」『日本研究教育年報 18』1-15.
- 成戸 浩嗣 (2017a) 「日中対照研究方法論(3)"V+O+給・N"表現をめぐる日中対照(上)」『愛知学泉大学現代マネジメント学部紀要』5(2). 25-40.
- 成戸 浩嗣 (2017b) 「日中対照研究方法論(3)"V+O+給・N"表現をめぐる日中対照(下)」『愛知学泉大学現代マネジメント学部紀要』6(1). 19-34.
- 新美 和昭・山浦 洋一・宇津野 登久子 (1987) 『外国人のための日本語例文・問題シリーズ4 複合動詞』荒竹出版.
- 日本語記述文法研究会 (2008) 『現代日本語文法 6 複文』くろしお出版.
- 日本語記述文法研究会 (2009) 『現代日本語文法 2 第3部 格と構文 第4部 ヴォイス』くろしお出版.
- 仁田 義雄 (1995) 「シテ形接続をめぐる」仁田 義雄(編)『複文の研究(上)』87-126. くろしお出版.
- 橋本 力 (2003) 「日本語 HPSG：統語的複合動詞の統語・意味構造の処理」『情報処理学会研究報告自然言語処理(NL)』156 号. 31-38.
- アン・Y・ハシモト (1986) 中川 正之・木村 英樹(訳)『中国語学研究叢書 1 中国語の文法構造』白帝社.
- 長谷部 郁子 (2013) 「複合動詞と2種類のアスペクト」影山 太郎(編)『複合動詞研究の最先端 謎の解明に向けて』75-108. ひつじ書房.
- 濱口 英樹 (2014) 「中国語の方向複合動詞について」『関西大学外国語教育フォーラム』17 号. 21-28.
- 濱口 英樹 (2017) 「中国語の結果複合動詞について」『関西大学外国語教育フォーラム』

- 16 号. 23-32.
- 原田 登美 (2006) 「恩恵・利益を表す＜授受表現＞と＜敬意表現＞の関わり—特に「～てくれる」を中心として文法的側面と社会言語学的側面から見る」『言語と文化』10 卷. 203-217.
- 板東 美智子・日高 俊夫 (2015) 「統語的アスペクト補助動詞「-かけ」の意味機能」『言語処理学会 第 21 回年次大会 発表論文集』389-392.
- 日高 俊夫 (2012) 「語彙的複合動詞における反使役化と脱使役化」『近畿大学教養・外国語教育センター紀要. 外国語編』2(2). 115-130.
- 日高 俊夫 (2013) 「語彙的複合動詞における他動詞化・再帰化」『近畿大学教養・外国語教育センター紀要. 外国語編』3(2). 81-96.
- 日高 俊夫 (2016) 「複合動詞『V-切る』における意味合成」『九州国際大学国際関係学論集』11(1・2). 1-21.
- 日高 俊夫 (2018) 「V テ V における再分析—複合動詞との統一的分析に向けての覚え書き—」『九州国際大学国際・経済論集』(2). 17-38.
- 姫野 昌子 (1999) 『複合動詞の構造と用法』ひつじ書房.
- 姫野 昌子 (2018) 『新版 複合動詞の構造と用法』研究社.
- 平澤 洋一 (2006) 「移動複合動詞にみる意味の結合」『広島大学留学生センター紀要』(16). 55-62.
- ユリアニ・ヘルマニンシ (2005) 「現代日本語の補助動詞の分析」『日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集』19 卷. 113-131.
- 北京大学中国語文学系現代漢語教研室 (編) (2008) 『現代中国語総説』(松岡 栄志・古川 裕 (監訳)) 三省堂.
- 益岡 隆志 (2012) 「日本語の中立形接続とテ形接続の競合と共存」第 31 回中日理論言語学研究会 配布資料.
- 松下 大三郎 (1928) 『改撰標準日本文法』紀元社.
- 松本 曜 (1997) 「空間移動の言語表現とその拡張」中右実 (編) 『空間と移動の表現』125-230. 研究出版社.
- 松本 曜 (1998) 「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』114 号. 37-83.
- 松森 晶子 (2016) 「複合語アクセントが日本語史研究に提起するもの」『国立国語研究所論集』10 号. 135-158.
- 丸尾 誠 (2010) 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』アスク出版.
- 丸尾 誠 (2014) 『現代中国語方向補語の研究』白帝社.
- 三上 勝夫 (1975) 「補助動詞「ゆく」「くる」の意味と用法」『北海道大学教育学部紀要』25 号. 35-51.
- 宮内 あゆみ (1989) 「複合動詞の結合パターン」東京女子大学日本文学研究会 (編) 『日本文学』72 号. 119-133.
- 三宅 知宏 (1996) 「日本語の移動動詞の与格標示について」『言語研究』110 号. 143-168.
- 睦 俊秀 (2014) 「「他動詞 V1+自動詞 V2」型の語彙的複合動詞の構文構造と意味」『東京外国語大学日本研究教育年報 18』17-33.
- 村田 明 (2001) 「本動詞『いく』,『くる』と軽動詞『いく』,『くる』の意味分析」『信州大学留学生センター紀要』(2). 1-8.
- 望月 圭子 (1990a) 「動補動詞の形成」『中国語学』237 号. 128-137.
- 望月 圭子 (1990b) 「日・中両語の結果を表す複合動詞」『東京外国語大学論集』40 号. 13-27.
- 望月 圭子・申 亜敏 (2006) 「中国語の結果複合動詞の語形成」『言語情報学研究報告』12 号. 15-35.
- 望月 圭子・申 亜敏 (2011) 「日本語と中国語の複合動詞の語形成」《汉日语言对比研究论丛 第 2 辑》46-72. 北京大学出版社.

- 森田 良行 (1971) 「動作の起こり方を表わす語について—「てしまう、ておく、てみる、た」の用法」『講座日本語教育』(7). 21-43.
- 森田 良行 (1978) 「日本語の複合動詞について」『講座日本語教育』(14). 69-86.
- 森田 良行 (1994) 『動詞の意味論的文法研究』明治書院.
- 森田 良行 (2008) 『動詞・形容詞・副詞の事典』東京堂出版.
- C.E. ヤーホントフ (1987) 『中国語動詞の研究』(橋本 萬太郎(訳)) 白帝社.
- 山口 響史 (2015) 「補助動詞テモラウの機能拡張」『日本語の研究』11(4). 1-17.
- 山本 清隆 (1984) 「複合語の構造とシンタクス」『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究—5—計算機用レキシコンのために』 315-380.
- 山本 裕子 (2003) 「授受補助動詞の対人的機能について」『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』(49). 269-283.
- 山本 裕子 (2018) 「補助動詞の多用と待遇意識：年齢差に注目して」『愛知淑徳大学論集. 交流文化学部篇』(8). 129-144.
- 由本 陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語 モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』ひつじ書房.
- 由本 陽子 (2013) 「語彙的複合動詞の生産性と2つの動詞の意味関係」影山 太郎(編)『複合動詞研究の最先端 謎の解明に向けて』109-142. ひつじ書房.
- 由本 陽子 (2018) 「日本語の複合動詞研究の回顧と再考」『言語文化共同研究プロジェクト』 99-108.
- 廖 紋淑 (2006) 「中国語話者による複合動詞『V+終わる』のV1+V2結合について」『第九回国際日本語教育・日本研究シンポジウム 予稿集』1-6.
- 林 翠芳 (1993) 「日本語複合動詞研究の現在」『同志社国文学』(37). 142-151.

中国語の参考文献

- 戴 耀晶 (1992) 《现代汉语时体系统研究》(現代中国語のテンスとアスペクトに関する研究) 浙江教育出版社.
- 房 玉清 (1992) 《实用汉语语法》(実用中国語文法) 北京语言学院出版社.
- 黄 伯荣・廖 序東 (2007a) 《现代汉语 增订第四版 上册》(現代中国語 第四版 上巻) 高等教育出版社.
- 黄 伯荣・廖 序東 (2007b) 《现代汉语 增订第四版 下册》(現代中国語 第四版 下巻) 高等教育出版社.
- 胡 竹安 (1960) <动词后的“给”的词性和双宾语问题> (動詞に後続する“給”の品詞性と二重目的語の問題) 《中国语文》1960年5月号. 222-224. 人民教育出版社.
- 劉 月華 (2001) 《实用现代汉语语法》(実用現代中国語文法) 商务印书馆.
- 馬 真 (1997) 《简明实用汉语语法教程》(簡明実用中国語文法教程) 北京大学出版社.
- 沈 家煊 (1999) <“在”字句和“给”字句> (“在”構文と“給”構文) 《中国语文》1999年第2期. 94-102. 人民教育出版社.
- 湯 廷池 (1989) 《漢語詞法句法續集》(中国語文法続集) 台湾学生書局印行.
- 下地 早智子 (2018) <从“语言视点”的角度看日汉“词法性语态”> (“言語視点”から日中語の“ヴォイス”を見る) 中国语文杂志社(編)《中国语文丛书 语法研究和探索(十九)》(中国語国語シリーズ 文法研究と探索(十九)) 325-348. 商务印书馆出版.
- 玄 玥 (2018) 《完结范畴与汉语动结式》(完了範疇と中国語の動結構造) 商务印书馆.

英語の参考文献

- Alsina, Alex, Joan Bresnan, and Peter Sells (eds.) (1997) *Complex Predicates*. Stanford: CSLI.
- Li, Charles N. and Sandra A. Thompson. (1981) *Mandarin Chinese: A Functional Reference Grammar*. Berkeley: University of California Press.
- Li, Yafei. (1990) On V-V Compounds in Chinese. *Natural Language and Linguistics Theory*. 8: 177-207.
- Li, Yafei. (1993) Structural head and aspectuality. *Language*. 69: 480-504.

資料

資料 1:日中語の「動詞＋動詞」型複合動詞

資料 1-1:日本語の語彙的複合動詞

並列関係

忌み嫌う、恋い慕う、慣れ親しむ、飛び跳ねる、泣き叫ぶ、光り輝く、慌てふためく、恐れおののく、褒めたたえる、耐え忍ぶ、思い描く、写し描く、抱き抱える、照り輝く、照り映える、問い尋ねる、泣きわめく、待ち望む、驚き呆れる、思い煩う、慣れ親しむ、逃げ、思い悩む、喚き叫ぶ、思い浮かぶ、思いまどう、思い迷う、こいねがう、媚びへつらう

手段

洗い出す、あぶり出す、洗って落とす、突き落とす、切り倒す、踏みつぶす、押し開ける、投げ倒す、殴り殺す、打ち殺す、突き破る、持ち上げる、積み重ねる、選び抜く、切り倒す、叩き潰す、押し入れる、押し沈める、押し倒す、叩き落とす、打ち上げる、押し出す、投げ飛ばす、切り抜く、騙し取る、ちぎり取る、取り除く、焼き付ける、折り曲げる、叩き壊す、蹴り崩す、吸い取る、泣き落とす、言い負かす、切り分ける、むしり取る

様態

流れ着く、転げ落ちる、忍び寄る、持ち歩く、歩き回る、垂れ下がる、隠れ住む、持ち帰る、持ち寄る、遊び暮らす、泣き暮らす、泣き寝る、眺め暮らす、嘆き暮らす、持ち暮らす、探し回る、逃げ回る、流れ落ちる、飛び回る、駆け登る、駆け降りる、舞い降りる、滑り降りつ、駆け上がる、飛び上がる、飛び出る、這い出る、歩き回る、舞い落ちる、滑り落ちる、流れ出る、浮き上がる、舞い上がる、吹き回る、すすり泣く、尋ね歩く、持ち去る、怒鳴り込む

因果関係

崩れ落ちる、凍え死ぬ、こぼれ落ちる、降り積もる、溺れ死ぬ、焼け死ぬ、抜け落ちる、溢れ落ちる、焼けつく、脱げ落ちる、剥げ落ちる、外れ落ちる、離れ落ちる、泣き濡れる、泣き沈む、飲みつぶれる、食い潰れる、働きくたびれる、走りくたびれる、聞き知る、寝違える

補文関係

降り止む、使い込む、書き残す、食べ残す、聞き落とす、見逃す、聞き残す、見残す、使い残す、泣き止む、見直す、押し合う、押しかける、思い余る、思い返す、思い込む、思い過ごす、思いつめる、折り上がる、編み上がる、生き抜く、勝ち抜く、困り抜く、走り抜く、寝込む、静まり返る、さびつく、使い込む、建て替える、いじくりまわす、居合わせる、沸き返る、聞き漏らす、使い果たす、呼び交わす、使いこなす

資料 1-2:日本語の統語的複合動詞

補文関係

V+終わる

話し終わる、食べ終わる、撮り終わる、言い終わる、書き終わる、しゃべり終わる、乗り終わる、入れ終わる、見終わる、締め終わる、弾き終わる、聞き終わる、歌い終わる、読み終わる、計算し終わる、泣き終わる、発送し終わる、流し終わる、返し終わる、写し終わる、記入し終わる、切り終わる、（乳を）飲ませ終わる、答え終わる、狩り終わる

V+終わる

読み終わる、啜り終わる、喫し終わる、撮り終わる、食べ終わる、乗り終わる、話し終わる、聞き終わる、鳴き終わる、語り終わる、話し終わる、飲み終わる、解き終わる、書き終わる、喫い終わる、張り終わる、舐め終わる、見終わる、弾き終わる、歌い終わる、習い終わる、摘み終わる、調べ終わる、焼き終わる、塗り終わる、写し終わる、調査し終わる、唱え終わる、巻き終わる、並べ終わる、集め終わる、積み終わる、渡り終わる、払い終わる、置き終わる、洗い終わる、留め終わる、描き終わる、やり終わる、撮り終わる

V+直す

訊き直す、見直す、刺し直す、指し直す、建て直す、訓練し直す、発話し直す、やり直す、考え直す、作り直す、規定し直す、言い直す、問い直す、捉え直す、並べ直す、保存し直す、持ち直す、据え直す、読み直す、生き直す、振り直す、入れ直す、支え直す、作成し直す、書き直す、見つめ直す、取り直す、練り直す、撮り直す、（電話を）かけ直す、分析し直す、眺め直す、飲み直す、握り直す、組み直す

V+続ける

踊り続ける、生き続ける、混ぜ続ける、挑戦し続ける、泣き続ける、聞き続ける、更新し続ける、思い続ける、話し続ける、信じ続ける、見続ける、評価し続ける、叩き続ける、乗り続ける、生き続ける、罵り続ける、持ち続ける、歩き続ける、再生し続ける、入れ続ける、描き続ける、居続ける、食べ続ける、発表し続ける、歩み続ける、問い続ける、切り続ける、咲き続ける、増え続ける、走り続ける、踏み続ける、泳ぎ続ける、与え続ける、握り続ける、鳴らし続ける、答え続ける、守り続ける、支え続ける、残り続ける、借り続ける、ほめ続ける、抱き続ける、騙し続ける、流し続ける、教え続ける、探し続ける、着続ける、使い続ける、取り続ける、流れ続ける、動き続ける、謝り続ける、助け続ける、吸い続ける、集め続ける、学び続ける、鳴り続ける、働き続ける、与え続ける、捕り続け

る、受け続ける、上がり続ける、打ち続ける、作り続ける、押し続ける、眠り続ける、送り続ける、下がり続ける、睨み続ける、使い続ける、維持し続ける、増加し続ける、降り続ける、演奏し続ける、挟み続ける、演じ続ける、投げ続ける、従い続ける、進み続ける、寄せ続ける、保ち続ける、植え続ける、出し続ける、伸び続ける、叫び続ける、伝え続ける、飛ばし続ける、嘔き続ける、戦い続ける

V+始める

考え始める、つけ始める、作り始める、思い始める、弾き始める、燃え始める、話し始める、語り始める、しゃべり始める、生まれ始める、切り始める、働き始める、追い始める、咲き始める、伝え始める、歌い始める、やり始める、育て始める、配り始める、並び始める、探し始める、捜し始める、脱ぎ始める、回転し始める、食べ始める、見始める、書き始める、刻み始める、増え始める、走り始める、使い始める、動き始める、参加し始める、開け始める、起こり始める、持ち始める、歩き始める、削り始める、変わり始める、舞い始める、読み始める、鳴り始める、入れ始める、出し始める、流し始める、吸い始める、釣り始める、効き始める、流れ始める、聞き始める、めくり始める、漂い始める、住み始める、縫い始める、温め始める、感じ始める、利用し始める、確認し始める、腐り始める、揺れ始める、見え始める、上昇し始める

V+疲れる

泣き疲れる、笑い疲れる、働き疲れる、叱り疲れる、怒り疲れる、書き写し疲れる、飛び疲れる、しゃべり疲れる、遊び疲れる、逃げ疲れる、踊り疲れる、捜し疲れる、暮し疲れる、話し疲れる、泳ぎ疲れる

V+出す

降り出す、動き出す、泣き出す、飲み出す、読み出す、歩き出す、枯れ出す、鳴り出す、咲き出す

資料 1-3:中国語の語彙的複合動詞

並列関係

- “购买”「買う」（“购”「買う」＋“买”「買う」）
“阅读”「閱讀する」（“阅”「読む」＋“读”「読む」）
“批评”「批判する」（“批”「書きつける」＋“评”「判定する」）
“归纳”「まとめる」（“归”「戻る」＋“纳”「納める」）
“燃烧”「燃える」（“燃”「燃える」＋“烧”「焼く」）
“添加”「添加する」（“添”「追加する」＋“加”「加える」）
“思念”「懷かしむ」（“思”「思う」＋“念”「懷かしむ」）
“收拾”「片づける」（“收”「収まる」＋“拾”「拾う」）
“帮助”「助ける」（“帮”「手伝う」＋“助”「助ける」）
“保存”「保存する」（“保”「保つ」＋“存”「預ける」）
“敲打”「叩く」（“敲”「叩く」＋“打”「打つ」）
“评论”「評価する」（“评”「判定する」＋“论”「論じる」）
“哭喊”「泣き叫ぶ」（“哭”「泣く」＋“喊”「叫ぶ」）
“踩踏”「踏む」（“踩”「踏む」＋“踏”「踏まえる」）
“撤退”「撤退する」（“撤”「徹する」＋“退”「退く」）
“买卖”「買売する」（“买”「買う」＋“卖”「売る」）
“表示”「表示する」（“表”「表す」＋“示”「示す」）
“补充”「補充する」（“补”「補う」＋“充”「充てる」）
“进出”「出入りする」（“进”「入る」＋“出”「出る」）
“参观”「見学する」（“参”「参ずる」＋“观”「見る」）
“拒绝”「断る」（“拒”「拒む」＋“绝”「絶つ」）
“推举”「推す」（“推”「推す」＋“举”「挙げる」）
“挑选”「選択する」（“挑”「選ぶ」＋“选”「選ぶ」）

手段

- “抢答”「奪って答える」（“抢”「奪う」＋“答”「答える」）
“选取”「選び取る」（“选”「選ぶ」＋“取”「取る」）
“争取”「勝ち取る」（“争”「争う」＋“取”「取る」）
“抽查”「抽出して検査する」（“抽”「抽出する」＋“查”「検査する」）
“议决”「議論して決める」（“议”「議論する」＋“决”「決める」）
“盗取”「盗み取る」（“盗”「盗む」＋“取”「取る」）

“换取”「換えて手に入れる」（“換”「換える」＋“取”「取る」）
“博取”「博する」（“博”「博する」＋“取”「取る」）
“汲取”「汲み取る」（“汲”「汲む」＋“取”「取る」）
“录取”「採用する」（“录”「採用する」＋“取”「取る」）
“摄取”「摂取する」（“摄”「摂する」＋“取”「取る」）
“购置”「買い入れて備える」（“购”「買う」＋“置”「置く」）
“压缩”「圧縮する」（“压”「押す」＋“缩”「縮む」）
“丢弃”「投げ捨てる」（“丢”「失う」＋“弃”「捨てる」）
“诵读”「朗読する」（“诵”「声を上げて読む」＋“读”「読む」）
“评定”「評定する」（“评”「判定する」＋“定”「決める」）

様態

“散落”「散在する」（“散”「散らばる」＋“落”「落ちる」）
“滑落”「滑り落ちる」（“滑”「滑る」＋“落”「落ちる」）
“飘落”「漂って落ちる」（“飘”「漂う」＋“落”「落ちる」）
“滚落”「転落する」（“滚”「転がる」＋“落”「落ちる」）
“飘散”「漂って散じる」（“飘”「漂う」＋“散”「散じる」）
“漂浮”「漂って浮かぶ」（“漂”「漂う」＋“浮”「浮かぶ」）
“说服”「説得する」（“说”「話す」＋“服”「納得する」）
“揭露”「暴き出す」（“揭”「暴く」＋“露”「出す」）
“告别”「告別する」（“告”「伝える」＋“别”「離れる」）
“放弃”「放棄する」（“放”「放る」＋“弃”「棄てる」）
“展出”「展示する」（“展”「展示する」＋“出”「出す」）
“支出”「引き出す」（“支”「払う」＋“出”「出す」）
“退出”「退いて出る」（“退”「退く」＋“出”「出る」）
“输出”「輸出する」（“输”「輸送する」＋“出”「出す」）
“看漏”「見逃す」（“看”「見る」＋“漏”「漏らす」）
“承付”「担当する」（“承”「担当する」＋“付”「付ける」）

資料 1-4:中国語の統語的複合動詞

因果関係：

- “划破”「掻き破る」（“划”「掻く」＋“破”「破る」）
- “推开”「押し上げる」（“推”「押す」＋“开”「開ける」）
- “推翻”「覆す」（“推”「押す」＋“翻”「めくる」）
- “打翻”「打ち倒す」（“打”「打つ」＋“翻”「めくる」）
- “做出”「作り出す」（“做”「作る」＋“出”「出す」）
- “算出”「計算して答える」（“算”「計算する」＋“出”「出す」）
- “吃饱”「食べて満腹する」（“吃”「食べる」＋“饱”「満腹する」）
- “磨破”「破く」（“磨”「磨く」＋“破”「壊れる」）
- “踢累”「蹴り疲れる」（“踢”「蹴る」＋“累”「疲れる」）
- “摔碎”「打ち壊す」（“摔”「打つ」＋“碎”「壊れる」）
- “翻开”「開ける」（“翻”「めくる」＋“开”「開ける」）
- “煮破”「煮って壊れる」（“煮”「煮る」＋“破”「壊れる」）
- “刮断”「吹き切る」（“刮”「吹く」＋“断”「切る」）
- “踢爆”「蹴って爆ぜる」（“踢”「蹴る」＋“爆”「爆ぜる」）
- “敲坏”「叩き壊す」（“敲”「叩く」＋“坏”「壊れる」）
- “踩塌”「踏んで崩れる」（“踩”「踏む」＋“塌”「崩れる」）

補文関係：

後項動詞が前項動詞の動作主体になるタイプ

- “帮办”「処理を助ける」（“帮”「手伝う」＋“办”「処理する」）
- “失传”「伝承できない」（“失”「失う」＋“传”「伝承する」）
- “失守”「陥落する」（“失”「失う」＋“守”「守る」）

前項動詞が後項動詞の動作主体になるタイプ

- “喝完”「飲み終わる」（“喝”「飲む」＋“完”「終わる」）
- “读完”「読み終わる」（“读”「読み」＋“完”「終わる」）
- “吃完”「食べ終わる」（“吃”「食べる」＋“完”「終わる」）
- “唱完”「歌い終わる」（“唱”「歌う」＋“完”「終わる」）
- “写完”「書き終わる」（“写”「書く」＋“完”「終わる」）
- “听完”「聞き終わる」（“听”「聞く」＋“完”「終わる」）
- “说完”「話し終わる」（“说”「話す」＋“完”「終わる」）
- “跑完”「走り終わる」（“跑”「走る」＋“完”「終わる」）

“洗完”「洗い終わる」（“洗”「洗う」＋“完”「終わる」）

“涂完”「塗り終わる」（“涂”「塗る」＋“完”「終わる」）

“响完”「鳴り終わる」（“响”「鳴る」＋“完”「終わる」）

“擦完”「拭き終わる」（“擦”「拭く」＋“完”「終わる」）

“做完”「作り終わる」（“做”「作る」＋“完”「終わる」）

資料 2:日中語の連続動作型複雑述語

資料 2-1:日本語の連続動作型複雑述語

時間的継起

洗って戻る、洗って食べる、開けて飲む、奪って帰る、送って戻る、追って占領する、買って帰る、買って読む、買って戻る、買って食べる、買って飲む、借りて読む、片付けて帰る、切って食べる、起立して拍手する、調べて戻る、食べて帰る、取って戻る、取って飲む、取って食べる、取り除いて食べる、抜けて帰る、拾って食べる、拾って戻る、破って捨てる、渡して帰る、分けて飲む

因果関係

遊んで疲れる、歩いて疲れる、叩いて壊す、倒れて落ちる、(体力を)使って疲れる、働いて疲れる、走って疲れる、割れて落ちる

様態

遊んで歩く、歩いて回る、追って走る、(匂いを)嗅いで歩く、抱えて戻る、坐って書く、座って食べる、抱きて帰る、(汗を)流して働く、覗いて見る、(手を)振って歩く、持って帰る、持って戻る、持って生きる、巡って探す

手段

揚げて食べる、炒めて食べる、植えて育てる、押して開ける、切って分ける、(ドアを)蹴って開ける、採取して食べる、絞って食べる、絞って飲む、搾って飲む、ちぎって取る、吊るして使う、漬けて食べる、作って食べる、(望遠鏡を)使って観察する、捕って食べる、混ぜて飲む、混ぜて食べる、巻いて食べる、見て選ぶ、焼いて食べる

資料 2-2:中国語の連続動作型複雑述語

時間的継起

- “讨论決定”「検討して決める」（“讨论”「検討する」－“決定”「決定する」）
- “起立欢呼”「起立して歓呼する」（“起立”「起立する」－“欢呼”「歓呼する」）
- “考察发现”「考察して発見する」（“考察”「考察する」－“发现”「発見する」）
- “讨论总结”「検討してまとめる」（“讨论”「検討する」－“总结”「結論する」）
- “调查收集”「調査して集まる」（“调查”「調査する」－“收集”「集める」）

因果関係

- “吹跑”「吹いて飛ばす」（“吹”「吹く」－“跑”「走る」）
- “吹飞”「吹いて飛ばす」（“吹”「吹く」－“飞”「飛ぶ」）
- “跑丢”「走って失う」（“跑”「走る」－“丢”「失う」）
- “训哭”「叱って泣かせる」（“训”「叱る」－“哭”「泣く」）
- “洗掉”「洗いて落ちる」（“洗”「洗う」－“掉”「落ちる」）
- “吓飞”「驚いて飛ぶ」（“吓”「驚く」－“飞”「飛ぶ」）
- “吓晕”「驚いて昏睡する」（“吓”「驚く」－“晕”「昏睡する」）

手段

- “租用”「借りて使う」（“租”「借りる」＋“用”「使う」）
- “借用”「借りて使う」（“借”「借りる」－“用”「使う」）
- “借使”「借りて使用する」（“借”「借りる」－“使”「使う」）
- “借看”「借りて見る」（“借”「借りる」－“看”「見る」）

補文関係

- “喜欢吃”「食べることが好きだ」（“喜欢”「好む」－“吃”「食べる」）
- “喜欢唱”「歌を歌うこと好きだ」（“喜欢”「好む」－“唱”「歌う」）
- “喜欢穿”「何かの服が好きだ」（“喜欢”「好む」－“穿”「着る」）
- “希望成为”「なりたい」（“希望”「希望する」－“成为”「なる」）
- “准备写”「書くことを準備する」（“准备”「準備する」－“写”「書く」）
- “准备学”「学ぶことを準備する」（“准备”「準備する」－“学”「学ぶ」）
- “想买”「買いたい」（“想”「思う」－“买”「買う」）
- “想吃”「食べたい」（“想”「思う」－“吃”「食べる」）
- “打算学”「学ぶつもりだ」（“打算”「考える」－“学”「学ぶ」）

“打算买”「買うつもりだ」（“打算”「考える」－“买”「買う」）

“打算借”「借りるつもりだ」（“打算”「考える」－“借”「借りる」）

“打算去”「行くつもりだ」（“打算”「考える」－“去”「行く」）

“决定帮”「助けることを決める」（“决定”「決める」－“帮”「助ける」）

資料 3:日中語の行為目的型複雑述語

資料 3-1:日本語の行為目的型複雑述語

「V に行く」の例

遊びに行く、結果を聞きに行く、取りに行く、見に行く、買いに行く、消しに行く、会いに行く、(手を)合わせに行く、食べに行く、果たしに行く、飲みに行く、泊まりに行く、(階段で)入れに行く、買い出しに行く、働きに行く、迎えに行く、(花蜜を)集めに行く、(弁当を)届けに行く、(手術を)受けに行く、(神様が)慰めに行く、狙いに行く、見つけに行く、注意しに行く、入りに行く、捜しに行く、捨てに行く、(写真を)撮りに行く、言いに行く、伝えに行く、探しに行く、切りに行く、洗いに行く、水を汲みに行く、食いに行く、拾いに行く、呼び出しに行く、頼みに行く、食い止めに行く、呑みに行く、広めに行く、描きに行く、聴きに行く、奪いに行く、出しに行く、利かしに行く、売りに行く、殺しに行く、買い付けに行く、狩りに行く、使いに行く、穫りに行く、謝りに行く、仕入れに行く、戦いに行く、(電話を)かけに行く、占領しに行く、調べに行く、(話を)しに行く、伺いに行く、外しに行く、覗きに行く、水をつけに行く、つかみに行く、引き出しに行く、助けに行く、助けに行く、訪ねに行く、呼びに行く、育てに行く、求めに行く、見せに行く

「V に来る」の例

遊びに来る、聞きに来る、取りに来る、見に来る、買いに来る、訪ねに来る、会いに来る、食べに来る、借りに来る、飲みに来る、泊まりに来る、撮りに来る、探しに来る、捜しに来る、捨てに来る、拾いに来る、洗いに来る、慰めに来る、言いに来る、返しに来る、採りに来る、殺しに来る、調べに来る、集めに来る、聴きに来る、やりに来る、担いに来る、掴みに来る、学びに来る、迎えに来る、頼みに来る、求めに来る、謝りに来る、作りに来る、呼びに来る、売りに来る、取りに来る、確認しに来る、歌いに来る、切りに来る、奪いに来る、助けに来る、叩きに来る、外しに来る、覗きに来る、買い出しに来る、働きに来る、(気合を)入れに来る、届けに来る、受けに来る、狙いに来る、見つけに来る、入りに来る、見せに来る、狩りに来る、伝えに来る、出しに来る、汲みに来る、食いに来る、育てに来る、呑みに来る、買い付けに来る、使いに来る、穫りに来る、消しに来る、仕入れに来る

資料 3-2:中国語の行為目的型複雑述語

“去－V”の例

- “去玩”「遊びに行く」（“去”「行く」－“玩”「遊ぶ」）
“去问”「聞きに行く」（“去”「行く」－“问”「聞く」）
“去取”「取りに行く」（“去”「行く」－“取”「取る」）
“去看”「見に行く」（“去”「行く」－“看”「見る」）
“去买”「買いに行く」（“去”「行く」－“买”「買う」）
“去见”「会いに行く」（“去”「行く」－“见”「見る」）
“去吃”「食べに行く」（“去”「行く」－“吃”「食べる」）
“去借”「借りに行く」（“去”「行く」－“借”「借りる」）
“去喝”「飲みに行く」（“去”「行く」－“喝”「飲む」）
“去照”「撮りに行く」（“去”「行く」－“照”「撮る」）
“去找”「探しに行く」（“去”「行く」－“找”「探す」）
“去搜”「捜しに行く」（“去”「行く」－“搜”「捜す」）
“去扔”「捨てに行く」（“去”「行く」－“扔”「捨てる」）
“去捡”「拾いに行く」（“去”「行く」－“捡”「拾う」）
“去洗”「洗いに行く」（“去”「行く」－“洗”「洗う」）
“去安慰”「慰めに行く」（“去”「行く」－“安慰”「慰める」）
“去说”「言いに行く」（“去”「行く」－“说”「言う」）
“去还”「返しに行く」（“去”「行く」－“还”「返す」）
“去採”「採りに行く」（“去”「行く」－“採”「採る」）
“去杀”「殺しに行く」（“去”「行く」－“杀”「殺す」）
“去调查”「調査しに行く」（“去”「行く」－“调查”「調査する」）
“去收”「集めに行く」（“去”「行く」－“收”「集める」）
“去听”「聴きに行く」（“去”「行く」－“听”「聴く」）
“去办”「やりに行く」（“去”「行く」－“办”「やる」）
“去抬”「担いに行く」（“去”「行く」－“抬”「担う」）
“去学”「学びに行く」（“去”「行く」－“学”「学ぶ」）
“去接”「迎えに行く」（“去”「行く」－“接”「迎える」）
“去拜访”「訪ねに行く」（“去”「行く」－“拜访”「訪ねる」）
“去求”「求めに行く」（“去”「行く」－“求”「求める」）
“去感谢”「謝りに行く」（“去”「行く」－“感谢”「感謝する」）
“去做”「作りに行く」（“去”「行く」－“做”「作る」）

“去叫”「呼びに行く」（“去”「行く」－“卖”「叫ぶ」）
“去卖”「売りに行く」（“去”「行く」－“卖”「売る」）
“去确认”「確認しに行く」（“去”「行く」－“确认”「確認する」）
“去唱”「歌いに行く」（“去”「行く」－“唱”「歌う」）
“去切”「切りに行く」（“去”「行く」－“切”「切る」）
“去夺”「奪いに行く」（“去”「行く」－“夺”「奪う」）
“去帮助”「助けに行く」（“去”「行く」－“帮助”「助ける」）
“去敲”「叩きに行く」（“去”「行く」－“敲”「叩く」）
“去拿”「取りに行く」（“去”「行く」－“拿”「取る」）
“去查”「検査しに行く」（“去”「行く」－“查”「検査する」）
“去推”「押しに行く」（“去”「行く」－“推”「押す」）
“去请”「誘いに行く」（“去”「行く」－“请”「誘う」）
“去搬”「運びに行く」（“去”「行く」－“搬”「運ぶ」）
“去擦”「拭きに行く」（“去”「行く」－“擦”「拭く」）
“去讲”「話しに行く」（“去”「行く」－“讲”「話す」）
“去上课”「授業しに行く」（“去”「行く」－“上课”「授業する」）
“去打”「打ちに行く」（“去”「行く」－“打”「打つ」）
“去端”「両手で持ちに行く」（“去”「行く」－“端”「両手で持つ」）
“去发现”「発見しに行く」（“去”「行く」－“发现”「発見する」）

“来－V”の例

“来调查”「調査しに来る」（“来”「来る」－“调查”「調査する」）
“来听”「聴きに来る」（“来”「来る」－“听”「聴く」）
“来办”「やりに来る」（“来”「来る」－“办”「やる」）
“来抬”「担いに来る」（“来”「来る」－“抬”「拾う」）
“来学”「学びに来る」（“来”「来る」－“学”「学ぶ」）
“来接”「迎えに来る」（“来”「来る」－“接”「迎える」）
“来拜访”「訪ねに来る」（“来”「来る」－“拜访”「訪ねる」）
“来求”「求めに来る」（“来”「来る」－“求”「求める」）
“来做”「作りに来る」（“来”「来る」－“做”「作る」）
“来叫”「呼びに来る」（“来”「来る」－“叫”「叫ぶ」）
“来卖”「売りに来る」（“来”「来る」－“卖”「売る」）
“来取”「取りに来る」（“来”「来る」－“取”「取る」）
“来确认”「確認しに来る」（“来”「来る」－“确认”「確認する」）

“来唱”「歌いに来る」(“来”「来る」－“唱”「歌う」)
“来拿”「持ちに来る」(“来”「来る」－“拿”「持つ」)
“来查”「検査しに来る」(“来”「来る」－“查”「検査する」)
“来玩”「遊びに来る」(“来”「来る」－“问”「遊ぶ」)
“来问”「聞きに来る」(“来”「来る」－“问”「聞く」)
“来看”「見に来る」(“来”「来る」－“看”「見る」)
“来买”「買いに来る」(“来”「来る」－“买”「買う」)
“来见”「会いに来る」(“来”「来る」－“见”「見る」)
“来吃”「食べに来る」(“来”「来る」－“吃”「食べる」)
“来借”「借りに来る」(“来”「来る」－“借”「借りる」)
“来喝”「飲みに来る」(“来”「来る」－“喝”「飲む」)
“来住”「泊りに来る」(“来”「来る」－“住”「泊る」)
“来照”「撮りに来る」(“来”「来る」－“照”「撮る」)
“来找”「探しに来る」(“来”「来る」－“找”「探す」)
“来搜”「捜しに来る」(“来”「来る」－“搜”「捜す」)
“来扔”「捨てに来る」(“来”「来る」－“扔”「捨てる」)
“来捡”「拾いに来る」(“来”「来る」－“捡”「拾う」)
“来洗”「洗いに来る」(“来”「来る」－“洗”「洗う」)
“来安慰”「慰めに来る」(“来”「来る」－“安慰”「慰める」)
“来还”「返しに来る」(“来”「来る」－“还”「返す」)
“来採”「採りに来る」(“来”「来る」－“採”「採る」)
“来杀”「殺しに来る」(“来”「来る」－“杀”「殺す」)
“来收”「集めに来る」(“来”「来る」－“收”「集める」)
“来请”「誘いに来る」(“来”「来る」－“请”「誘う」)
“来搬”「運びに来る」(“来”「来る」－“搬”「運ぶ」)

資料 4:日中語の補助動詞型複雑述語

資料 4-1:日本語の方向補助動詞型複雑述語

「V て－いく」の例

並んでいく、できていく、変わっていく、伸びていく、迫っていく、しっかりしていく、問いかけていく、言っていく、押し付けていく、もらっていく、のしかかていく、借りていく、持ち込んでいく、漏れていく、訪ねていく、差し込んでいく、跳ね返っていく、買っていく、培っていく、忍び込んでいく、取っていく、撮っていく、飛びついていく、攻撃していく、吹きこんでいく、帰っていく、侵入していく、伝わっていく、吹き出していく、会っていく、越していく、掛かっていく、浮いていく、駆け付けていく、関係していく、起きていく、襲い掛かっていく、起こっていく、溢れていく、吹いていく、響いていく、絡んでいく、巡っていく、生じていく、生まれていく、電話していく、現れていく、返っていく、集まっていく、分かっていく、蘇っていく、話しかけていく、襲っていく

「V て－くる」の例

聞こえてくる、見えてくる、違ってくる、浮かんでくる、渡ってくる、込み上げてくる、湧いてくる、思えてくる、浮かび上がってくる、登場してくる、話しかけてくる、生えてくる、沸いてくる、押し寄せてくる、分かってくる、集まってくる、異なってくる、返ってくる、はっきりしてくる、現れてくる、電話してくる、生まれてくる、突きあげてくる、会ってくる、吹き出してくる、舞い込んでくる、差してくる、伝わってくる、侵入してくる、帰ってくる、抱きついてくる、吹き込んで来る、攻撃してくる、舞い戻ってくる、飛びついてくる、撮ってくる、忍び込んでくる、ドキドキしてくる、仕入れてくる、買ってくる、流入してくる、吹き付けてくる、差し込んでくる、すっきりしてくる、訪ねてくる、しっかりしてくる、問いかけてくる、言ってくる、押し付けてくる、しがみついてくる、忍び寄ってくる、湧き出てくる、さしてくる、もたってくる、手がけてくる、のしかかってくる、沸き起こってくる、持ち込んでくる、苦しんでくる、漏れてくる、しびれてくる、迫ってくる、跳ね返ってくる、培ってくる、滲み出てくる、襲い掛かってくる、溢れてくる、蘇ってくる、襲ってくる、届けてくる、飽きてくる、生じてくる、巡ってくる、浮上してくる、絡んでくる、響いてくる、連絡してくる、起こってくる、目立ってくる、疲れてくる、吹いてくる、似てくる、泣けてくる、湧き上がってくる、かかってくる、起きてくる、関係してくる、効いてくる、駆け付けてくる、持ち出してくる、出現してくる、もたげてくる、越してくる

資料 4-2:日本語の授受補助動詞型複雑述語

「V て—もらう」の例

泊ってもらう、見逃してもらう、送ってもらう、出してもらう、見せてもらう、貸してもらう、手伝ってもらう、紹介してもらう、語ってもらう、見てもらう、覚えてもらう、聴いてもらう、書き取ってもらう、聞いてもらう、食べてもらう、届けてもらう、乗せてもらう、働いてもらう、預かってもらう、利用させてもらう、行ってもらう、入ってもらう、想像してもらう、作ってもらう、見学してもらう、戻してもらう、変えてもらう、知ってもらう、やってもらう、分けてもらう、体験してもらう、直してもらう、泊めてもらう、理解してもらう、教えてもらう、抱いてもらう、救ってもらう、取り上げてもらう、話してもらう、返してもらう、認めてもらう、置いてもらう、果たしてもらう、収めてもらう、利用してもらう、削除してもらう、打ってもらう、言わせてもらう、書いてもらう、診察してもらう、言ってもらう、受診してもらう、支えてもらう、払ってもらう、補償してもらう、置かせてもらう、測ってもらう、鍛えてもらう、買ってもらう、眠ってもらう、使ってもらう、助けてもらう、分担してもらう、検討してもらう、調べてもらう、切ってもらう、交換してもらう、栽培してもらう、直してもらう、説明してもらう、決めてもらう、変更してもらう、答えてもらう、(家へ) 連れ帰ってもらう、伝授してもらう、混ぜってもらう、握ってもらう、縫ってもらう、認識してもらう、買い取ってもらう、提供してもらう、受けてもらう、採用してもらう、考えてもらう、加えてもらう、感じてもらう、走ってもらう、深めてもらう、取ってもらう、売ってもらう

「V て—あげる」の例

作ってあげる、受け止めてあげる、買ってあげる、与えてあげる、飲ませてあげる、守ってあげる、確認してあげる、助けてあげる、引き戻してあげる、示してあげる、見せてあげる、取り戻させてあげる、教えてあげる、救ってあげる、静めてあげる、手伝ってあげる、相談に乗ってあげる、準備してあげる、ほめてあげる、宣伝してあげる、癒してあげる、掛け合ってあげる、言って笑わせてあげる、書いてあげる、話してあげる、剥いてあげる、尊重してあげる、差し出してあげる、見守ってあげる、貼ってあげる、楽しませてあげる、手続してあげる、紹介してあげる、送り出してあげる、敷いてあげる、持って行ってあげる、持ってあげる、入れてあげる、流してあげる、貸してあげる、聞いてあげる、聞かせてあげる、援助してあげる、刺激してあげる、聴いてあげる、飾らせてあげる、用意してあげる、抱きしめてあげる、温めてあげる、約束してあげる、許してあげる、保管してあげる、押してあげる、調べてあげる、迎えさせてあげる、付き添ってあげる、突いてあげる、抜いてあげる、交換してあげる、植えてあげる、誘ってあげる、終わらせてあ

げる、出してあげる、探してあげる、養ってあげる、手術してあげる、聞き続けてあげる、磨いてあげる、分かってあげる、感じさせてあげる、感じにしてあげる、譲ってあげる、代わってあげる、克服させてあげる、固めてあげる、掃除してあげる、協力してあげる、巻いてあげる、切ってあげる、帰してあげる、理解してあげる、食べさせてあげる、笑ってあげる、導き出してあげる、支援してあげる、導いてあげる、整えてあげる

「Vてーくれる」の例

戻してくれる、作ってくれる、提言してくれる、出してくれる、助けてくれる、案内してくれる、提供してくれる、表示してくれる、養ってくれる、答えてくれる、働いてくれる、思い直してくれる、知ってくれる、聞いてくれる、想ってくれる、説明してくれる、置いてくれる、頑張ってくれる、食べてくれる、受け付けてくれる、言ってくれる、持ってくれる、相談してくれる、見せてくれる、応答してくれる、証明してくれる、教えてくれる、別れてくれる、貸してくれる、替わってくれる、育てくれる、守ってくれる、書いてくれる、引き受けてくれる、雇ってくれる、認めてくれる、誘ってくれる、聞かせてくれる、話してくれる、動いてくれる、乗ってくれる、買ってくれる、洗ってくれる、見放してくれる、与えてくれる、補充してくれる、抱いてくれる、支えてくれる、披露してくれる、泣いてくれる、制止してくれる、見てくれる、受け入れてくれる、迎えてくれる、示してくれる、帰ってくれる、許してくれる、生き返ってくれる、伝えてくれる、引き取ってくれる、覚えてくれる、貢献してくれる、感じさせてくれる、丸めてくれる、取り戻してくれる、合わせてくれる、手伝ってくれる、受け止めてくれる、癒してくれる、寝てくれる、受けてくれる、叶えてくれる、引き上げてくれる、深めてくれる、供してくれる、払ってくれる、届けてくれる、拾い出してくれる、描いてくれる、(声を)かけてくれる、消してくれる、応えてくれる、許可してくれる、やってくれる、救い出してくれる、語ってくれる、浮かべてくれる、治してくれる、迎え入れてくれる、泊めてくれる、見守ってくれる、広めてくれる、開けてくれる、差し入れてくれる、持たせてくれる、割ってくれる、立てくれる、楽しませてくれる、忘れてくれる、見定めてくれる、導いてくれる、踊ってくれる、預かってくれる、送ってくれる

資料 4-3:中国語の方向補助動詞型複雑述語

“V－去”の例

- “寄去”「郵送していく」（“寄”「郵送する」－“去”「いく」）
“邮去”「郵送していく」（“邮”「郵送する」－“去”「いく」）
“游去”「泳いでいく」（“游”「泳ぐ」－“去”「いく」）
“拿去”「持っていく」（“拿”「持つ」－“去”「いく」）
“借去”「借りていく」（“借”「借りる」－“去”「いく」）
“送去”「送っていく」（“送”「送る」－“去”「いく」）
“走去”「歩いていく」（“走”「歩く」－“去”「いく」）
“跑去”「走っている」（“跑”「走る」－“去”「いく」）
“抛去”「投げていく」（“抛”「投げる」－“去”「いく」）
“踢去”「蹴っていく」（“踢”「蹴る」－“去”「いく」）
“推去”「押していく」（“推”「押す」－“去”「いく」）
“汇去”「振り込んでいく」（“汇”「振り込む」－“去”「いく」）
“追去”「追っていく」（“追”「追う」－“去”「いく」）

“V－来”の例

- “寄来”「郵送してくる」（“寄”「郵送する」－“来”「くる」）
“邮来”「郵送してくる」（“邮”「郵送する」－“来”「くる」）
“游来”「泳いでくる」（“游”「泳ぐ」－“来”「くる」）
“买来”「買ってくる」（“买”「買う」－“来”「くる」）
“拿来”「持ってくる」（“拿”「持つ」－“来”「くる」）
“借来”「借りてくる」（“借”「借りる」－“来”「くる」）
“找来”「搜してくる」（“找”「探す」－“来”「くる」）
“送来”「送ってくる」（“送”「送る」－“来”「くる」）
“取来”「取ってくる」（“取”「取る」－“来”「くる」）
“捡来”「拾ってくる」（“捡”「拾う」－“来”「くる」）
“拾来”「拾ってくる」（“拾”「拾う」－“来”「くる」）
“搬来”「運んでくる」（“搬”「運ぶ」－“来”「くる」）
“走来”「歩いてくる」（“走”「歩く」－“来”「くる」）
“跑来”「走ってくる」（“跑”「走る」－“来”「くる」）
“发来”「送ってくる」（“发”「送る」－“来”「くる」）
“扔来”「捨ててくる」（“扔”「捨てる」－“来”「くる」）

“抛来”「投げてくる」（“抛”「投げる」－“来”「くる」）
“踢来”「蹴ってくる」（“踢”「蹴る」－“来”「くる」）
“推来”「押してくる」（“推”「押す」－“来”「くる」）
“汇来”「振り込んでくる」（“汇”「振り込む」－“来”「くる」）
“追来”「追ってくる」（“追”「追う」－“来”「くる」）

他の方向補助動詞型複雑述語の例

“买回”「買って帰る」（“买”「買う」－“回”「帰る」）
“抱回”「もらってくる」（“抱”「抱く」－“回”「帰る」）
“换回”「交換してくる」（“换”「交換する」－“回”「帰る」）
“追回”「追いかけて戻る」（“追”「追いかける」－“回”「帰る」）
“救回”「救ってくる」（“救”「救う」－“回”「帰る」）
“刮进”「目に入る」（“刮”「吹く」－“进”「入る」）
“挤进”「割り込む」（“挤”「割り込む」－“进”「入る」）
“蒸出”「蒸し上がる」（“蒸”「蒸かす」－“出”「出る」）
“烧出”「作ってくる」（“烧”「焼く」－“出”「出る」）
“买回来”「買って帰ってくる」（“买”「買う」－“回”「帰る」－“来”「くる」）
“钓回来”「釣って戻る」（“钓”「釣る」－“回”「帰る」－“来”「くる」）
“缩回来”「引っ込める」（“缩”「縮む」－“回”「帰る」－“来”「くる」）
“塞进去”「詰め込む」（“塞”「詰める」－“进”「入る」－“去”「いく」）
“钉进去”「打ち込む」（“钉”「（釘で）打ち付ける」－“进”「入る」－“去”「いく」）

資料 4-4:中国語の授受補助動詞型複雑述語

- “扔給”「放ってよこす」(“扔”「放る」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “送給”「送ってあげる」(“送”「送る」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “借給”「貸してあげる」(“借”「貸す・借りる」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “卖给”「売ってあげる」(“卖”「売る」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “买給”「買ってあげる」(“买”「買う」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “拿給”「持ってあげる」(“拿”「持つ」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “写给”「書いてあげる」(“写”「書く」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “告诉給”「伝えてあげる」(“告诉”「伝える」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “做給”「作ってあげる」(“做”「作る」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “教給”「教えてあげる」(“教”「教える」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “发给”「発送してあげる」(“发”「発送する」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “寄給”「郵送してあげる」(“寄”「郵送する」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “汇給”「振り込んであげる」(“汇”「振り込む」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “端給”「(両手で)持ってあげる」(“端”「(両手で)持つ」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “租給”「貸してあげる」(“租”「(賃貸マンションを)貸す・借りる」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “貸給”「賃貸してあげる」(“貸”「賃貸する」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “画給”「描いてあげる」(“画”「描く」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “分給”「配ってあげる」(“分”「配る」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “献给”「捧げてあげる」(“献”「捧げる」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “打給”「(電話を)かけてあげる」(“打”「打つ」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “贈給”「贈ってあげる」(“贈”「贈る」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “赐給”「賜ってあげる」(“赐”「賜る」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “支給”「払ってあげる」(“支”「払う」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “报給”「報告してあげる」(“报”「報告する」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “奉献給”「貢献してあげる」(“奉献”「貢献する」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “提供给”「提供してあげる」(“提供”「提供する」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)
- “赔給”「賠償してあげる」(“赔”「賠償する」－“給”「あげる(補助動詞用法)」)

“许给”「婚約してあげる」（“许”「いいなずけになる」－“给”「あげる」（補助動詞用法））

“丢给”「投げってあげる」（“丢”「失う」－“给”「あげる」（補助動詞用法））

“派给”「派遣してあげる」（“派”「派遣する」－“给”「あげる」（補助動詞用法））

“留给”「残ってあげる」（“留”「残る」－“给”「あげる」（補助動詞用法））

資料 5:日本語の副詞修飾型複雑述語

慌てて隠れる、慌てて答える、慌てて戻る、慌てて言う、慌てて準備する、慌てて食べる、慌てて逃げる、かしこまって言う、かしこまって答える、くわえて眺める、くわえて帰る、くわえて持つ、沿って歩く、沿って走る、沿って進む、沿って並べ、そろって撮る、黙って引き下がる、黙って受け取る、黙って聴く、黙って待つ、黙って泣く、黙って頷く、黙って（椅子に）座る、黙って眺める、黙って歩く、黙って指さす、黙って立っている、黙って耐えている、黙って飲む、続けて言う、続けて縫う、続けて飲む、続けて読む、続けて発生する、続けて打ち鳴らす、続けて食べる、続いて飲む、続いて起こる、並んで座る、並んで建つ、並んで撮る、並んで歩く、並んで食べる、並んで走る、並んで待つ、並んで立つ、ほほえんで答える、ほほえんで言う、ほほえんで頷く、ほほえんで立つ、ほほえんで振り返る、ほほえんで見る、笑って答える、笑って応じる、笑って言う、笑って逃げる、笑って許す